

Osaka Medical and Pharmaceutical University Faculty of Nursing

# 大阪医科大学看護学部

Osaka Medical and Pharmaceutical University Graduate School of Nursing

# 大阪医科大学大学院看護学研究科

# 年報 2021年度

Annual Report 2021

# 大阪医科大学・大阪医科大学大学院看護学研究科年報 2021年度年報 目次

## はじめに

I. 沿革	2
II. 看護学部	
1. 教員組織	
1) 教員構成および教員数	4
2) 教員の補充について	5
2. 年間事業	
1) 年間事業活動内容	6
2) 2021年度看護学部予算執行額	8
3) 学事一覧	9
3. 運営と教育活動	
1) 運営組織	11
2) センター	
(1) 看護学実践研究センター	12
(2) 看護学教育センター	17
(3) 看護学学生生活支援センター	25
3) 委員会	
(1) カリキュラム委員会	32
(2) カリキュラム評価委員会	35
(3) 実習委員会	37
(4) ウェブサイト委員会	41
(5) 看護研究雑誌編集委員会	42
(6) 予算委員会	43
(7) 物品管理委員会	44
(8) 就職支援委員会	47
(9) 国家試験対策委員会	49
(10) 看護学部年報編集委員会	54
(11) 看護学部広報委員会	55
(12) 国際交流委員会	56
(13) 障がい学生支援委員会	60
(14) 教員再任審査委員会	61
(15) 看護学分野別評価ワーキンググループ	62
(16) 本学部看護学生を対象とする研究審査会	63
4) 教育活動	
(1) 授業科目一覧	64
(2) 各領域の教育活動	70

<b>III. 看護学研究科</b>	
<b>1. 教員組織</b>	
教員構成および教員数 .....	82
1) 2021年度看護学研究科予算執行額 .....	82
2) 学生在籍数 .....	83
3) 学事一覧 .....	84
<b>2. 運営と教育活動</b>	
1) 運営組織 .....	86
2) 委員会 .....	87
(1) 看護学研究科大学院委員会	
(2) 看護学研究科カリキュラム委員会	
(3) 看護学研究科カリキュラム評価委員会	
3) 教育活動	
(1) 博士前期課程	
①授業科目一覧 .....	98
②修了者学位論文タイトル一覧 .....	102
(2) 博士後期課程	
①授業科目一覧 .....	103
②修了者学位論文タイトル一覧 .....	104
<b>IV. 研究活動</b>	
<b>1. 研究実績</b>	
1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況 .....	106
2) 各自の業績（外部資金獲得除く） .....	109
<b>V. 社会活動</b> .....	127
<b>VI. 地域・社会貢献</b> .....	135
<b>VII. その他</b> .....	139

## はじめに

2021年度、看護学部は82名の卒業生を輩出し総数772名となり、大学院では博士前期課程11名、博士後期課程8名の修了生を輩出し、総数で前者49名、後者32名となった。2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症の影響は2021年度も続き、感染状況が波のように増えたり減ったりするのに講義体制も臨機応変な対応を余儀なくされた。ただ2020年度の経験がある分、早めに態勢をとることで、大きなトラブルもなく経過することができた。

2022年度に向けての大きな取り組みが3つあった年でもあった。1つ目は大阪医科大学と大阪薬科大学が統合し、大阪医科薬科大学となったことである。医学部・薬学部・看護学部と3つの医療学部となったことで新たに学部間協議会が設置され、そのもとに教育・研究・入試・国際交流・大学院をまとめる機構が紐づけられた。

2つ目は新カリキュラムの作成である。新カリキュラムは数理・サイエンス・AIに関する科目、1年生から始める在宅看護論、解剖生理への重点化などがあり、それに加えて本学の特徴でもある多職種連携科目を1年生から4年生までステップを踏んで学べるように配置した。新カリキュラムは新たな特色を入れつつ作成し、文部科学省に申請し、2022年1月に承認を受けることができた。

3つ目は2022年度に受審する看護学教育評価へ向けての書類作成である。これは分野別評価ワーキンググループが中心となり、2021年1月にはすべての書類を整えることができ、3月末に日本看護学教育評価機構へ送ることができた。その過程で、本学部開設からの12年間を見直すことにもなり、できていること、できていないことを確認しつつ、不足していることについては新たな取り組みとして立案した。

最後に、一昨年から続いている新型コロナウイルス感染症は、今年に入っても収束しておらず、ウィズコロナとして共存していくことを前提にした教育を考える必要がある。これまでのような一方的な講義スタイルではなく、学生が事前に学習してきた知識の定着を図るためのアクティブラーニングを活用した看護学教育である。このように変化する教育様式を柔軟に取り入れ、教職員一丸となって、研鑽していきたいと考える。

看護学部長  
看護学研究科長  
赤澤 千春



# I . 沿革

## 沿革

1927	(昭和 2) 年	2 月	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
1927	(昭和 2) 年	4 月	大阪高等医学専門学校開校認可（修業年限 5 年）
1929	(昭和 40) 年	3 月	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1946	(昭和 21) 年	3 月	大阪医科大学設置認可（旧制大学）
1946	(昭和 21) 年	4 月	大阪医科大学予科設置
1948	(昭和 23) 年	2 月	大阪医科大学医学部開学認可
1951	(昭和 26) 年	3 月	学校法人大阪医科大学認可（組織変更による）
1952	(昭和 27) 年	2 月	大阪医科大学設置認可（新制大学）現在に至る
1952	(昭和 27) 年	3 月	大阪高等医学専門学校廃校
1959	(昭和 34) 年	3 月	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1965	(昭和 40) 年	1 月	大阪医科大学進学課程設置認可
1978	(昭和 53) 年	4 月	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1982	(昭和 57) 年	12 月	大阪医科大学附属看護専門学校 3 年課程（全日制）設置認可
2009	(平成 21) 年	10 月	大阪医科大学看護学部設置認可
2010	(平成 22) 年	4 月	大阪医科大学看護学部開設
2012	(平成 24) 年	3 月	大阪医科大学附属看護専門学校閉校
2013	(平成 25) 年	10 月	大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2014	(平成 26) 年	4 月	大阪医科大学大学院看護学研究科開設
2016	(平成 28) 年	4 月	大阪医科大学と大阪薬科大学の法人合併、 新法人「学校法人大阪医科薬科大学」設立
2021	(令和 3) 年	4 月	大阪医科大学と大阪薬科大学の統合により大阪医科薬科大学 に名称変更

## II. 看護学部

## 1. 教員組織

### 1) 教員構成および教員数

教員定員は 41 名である。

令和 4 年 3 月 31 日現在

#### 【看護系教員】

領域	教員構成 (カッコ内は定員数)				
	教授	准教授	講師	助教	合計
基礎看護学	1 (1)	3 (2)	0 (0)	1 (2)	5 (5)
急性期成人看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)
慢性期成人看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)
精神看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)
老年看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)
小児看護学	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)
母性看護学・助産学 (コース選択 6 名)	1 (1)	0 (3)	2 (0)	0 (1)	3 (5)
在宅看護学	1 (1)	0 (1)	1 (0)	1 (1)	3 (3)
公衆衛生看護学 (コース選択 40 名)	1 (1)	2 (3)	0 (0)	1 (1)	4 (5)
看護実践発展	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)
計	11 (11)	11 (15)	3 (0)	9 (11)	34 (37)

#### 【医学系・人文社会系教員】

領域	教員構成 (カッコ内は定員数)				
	教授	准教授	講師	助教	合計
公衆衛生学	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
内科学	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
整形外科学	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
哲学	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
総計	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)

令和 3 年度の教員の異動は下記の通りである。

#### 【退職】

令和 3 年 12 月 31 日付で、助教 1 名（公衆衛生看護学）が退職した。

#### 【非常勤教員の採用】

急性期成人看護学（1 名）、母性看護学・助産学（1 名）を令和 2 年度から継続雇用した。

**【実習補助員の採用】**

慢性期成人看護学（1名）、母性看護学・助産学（1名）、在宅看護学（1名）の各実習期間内で不定期雇用した。

**2) 教員の補充について**

教員の定員数が充足している領域においても、必要に応じて各領域で実習補助員を雇用した。

## 2. 年間事業

### 1) 年間事業活動内容

#### 【看護学部】

看護学部では表に示すように各センターや委員会が年間計画を立案し、教育および研究の向上を目指し事業を実施している。2021年度に実施した主な事業を報告する。

##### (1) 教育活動について

教育活動に関しては、2年目に入る新型コロナウイルス感染症の流行により、感染状況に応じた講義形式の変更が求められた。ただ、2年目であったため、新学期に向けて準備ができ、4月からオンデマンド形式、リモート形式、教室を分けての対面形式、登校と自宅とのハイブリット形式など、新型肺炎コロナウイルス感染症の流行に応じてフレキシブルに講義形式の選択に対応できた。臨地実習は他の看護系大学では約82%が通常とは異なる実習にならざるを得なかった（日本看護系大学協議会報告、2021）という中で、幸いにも附属病院の協力のもと対面で行うことができた。これは学生に感染者やクラスターの発生もなかつたことも、通常の実習が実施でき要因でもあると考える。学生内で感染者が出ないように看護学学生生活センターが日常生活の過ごし方から大学内の座席位置、朝食の取り方まで細心の注意を払った成果でもある。

新型コロナウイルス感染症の影響でFD活動や教育講演の企画などの多くがWeb開催となった。また、学生の海外研修も派遣も受け入れも昨年に引き続いて中止となった。そうした中でも、研究実践センターを中心として本学学部生がミネソタ大学マンケート校主催の世界10カ国との学生ミーティングへ参加することができた。

学生への対応では、2018年度より実習委員会と学生生活支援センターが主となり、障がいのある学生に対する実習中の合理的配慮に基づいた対応を行っており、2021年度も特に問題なく終了するに至った。また、実習のみならず他の講義演習でもこのような支援要望が増加してきているため、本来の定義に沿った内容での要望であるかどうかの検討を行った。

入試制度に関して、2020年度の入試から特別奨学金貸与推薦入試制度（専願制）を廃止し、様々な潜在的能力を有し、入学後の学修に対する強い意欲を持つ学生（社会人を経て学び直しを志す者、地域医療に貢献したい者、科学や芸術などで優れた能力を持つ者などの多様な人材）を育成するために総合型選抜入試である「建学の精神入試」（専願制）を導入した。2022年度は受験生10名の応募があり、論文試験、面接を経て3名の合格となった。

##### (2) 研究活動について

文部科学省科学研究費に関しては、多くの教員が申請し、保持率は50%を超えている。

文部科学省平成29年度『私立大学研究プランディング事業』が採択され、「オミックス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究融合による少子高齢中核市活性化モデル創出」の事業が終了したが看護学部も参画している健康啓蒙活動として「camukamuサロン」を継続している。2021年度は新型コロナウイルス感染症によって開催できなかつたが、健康に関する情報発信などを行つた。対面が困難でも今後も何らかの形で継続していくこととしている。

2022年3月に文部科学省の「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に採択され、今後はシミュレーターを活用した看護教育を推進していく。

### (3) 社会貢献について

看護学部の事業としては、看護学実践研究センターが主となり、例年市民看護講座、人材育成講座を開催している。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症のため開催できなかった。感染状況が治まれば開催の予定である。各教員の活動および詳細は、それぞれが報告している。

### (4) 管理・運営全般

#### ① 教員の質担保について

教員各自の意自己点検と年報による業績報告によって自己評価を行っている。

#### ② カリキュラム委員会とカリキュラム評価委員会について

詳細は委員会報告で述べている。また、2022年度に向けての新カリキュラムを提出し、承認された。さらに、看護学教育カリキュラムについて継続的な評価をするためのカリキュラム評価委員会は外部委員を入れて初めて初めての評価を行った。詳細は委員会報告で述べている。このようにカリキュラムについてのPDCAサイクルが実行される体制が整っている。

#### ③ 教育環境整備

今年は新型コロナウイルス感染症によりオンデマンド、リモートの活用が必要となり、それらが行える授業支援システムが導入された。

#### ④ 看護学分野別評価

2022年度の分野別認証の受審に向けてワーキンググループを中心に報告書を作成し、受審の申請をした。

### 【看護学研究科】

看護学研究科では表に示すように大学院委員会が年間計画を立案し、教育および研究の向上を目指し事業を実施している。2021年度に実施した主な事業を報告する。

#### 1. 教育活動について

教育活動に関しては大学院委員会が院生の教育がスムーズに展開できるように計画事項している、詳細は大学院委員会報告で述べている。

新型コロナウイルス感染症の影響で、講義、実習、研究計画発表会などリモートを用いて行い、年間計画通りに実施できた。

#### 2. 研究活動について

大学院生に個人研究費を配分しているが、これに加えて民間助成金への応募も活発に行われるようになってきている。

#### 3. 教育環境整備

新型コロナウイルス感染症のためにリモート講義ができる体制を整えた。

2) 2021年度看護学部予算執行額

予算執行額 79,428,206 円

【内訳】

看護学部教育経費 64,428,206 円

看護学部奨学金経費 15,000,000 円

看護学部研究活動経費 0 円

### 3) 学事一覧

#### 看護学部 令和3年度学事一覧

◆イベント関係は大学統合後に変更になる可能性があります

令和3年度学事予定表 教職員用

日 順	2024年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
内 容	内 容	内 容	内 容	内 容	内 容	内 容
1 木 オリエンテーション	土 火 創立記念日	1 木② 水	1 木②	1 木③	水	水
2 金 看護部臨時教説会 11~	日 水⑥ 実習選択協議会予定	2 木④	2 金③	2 金③	木	木
3 土 入学式	月 慶祝記念日	3 木⑤	3 土	3 土	金	金
4 日 火 みどりの日	金⑨	4 日	4 日	4 日	火	火
5 月① 重陽感謝開始	土 祭祭り	5 月③ 多賀幡連絡会 医療安全	5 月③	5 月③	水	水
6 火①	水④	6 火②	6 火②	6 火③	木	木
7 水①	金⑤	7 水③	7 水③	7 水③	火	火
8 木①	土 健康診断・2年	8 木③	8 木③	8 木③	水	水
9 金①	日 火⑧ 看護学部教説会 15~	9 金④	9 金④	9 金④	木	木
10 土	木⑨ 多賀幡連絡会 医療倫理	10 土	10 土	10 土	火	火
11 日	金⑩	11 日	11 日	11 日	水	水
12 月②	更履別修会 水⑤ 看護学部別修会 15~	12 月④	12 月④	12 月④	木	木
13 火②	木⑤	13 火③	13 火③	13 火③	火	火
14 水② 看護学部教説会 15~	金⑥	14 水③	14 水③	14 水③	水	水
15 木② 3学部合同プログラム	土 健康診断・1年	15 木⑨	15 木⑨	15 木⑨	火	火
16 金② 3学部合同プログラム	日 水⑩ 学科会議 15~	16 金⑤	16 金⑤	16 金⑤	水	水
17 土	月⑥	17 土	17 土	17 土	木	木
18 日	火⑥	18 日	18 日	18 日	火	火
19 月③	水⑥ 学科会議 15~	19 月⑤	19 月⑤	19 月⑤	水	水
20 火③	木⑥	20 火④	20 火④	20 火④	木	木
21 水③ 学科会議 15~	金⑦	21 水⑤ 学科会議 15~	21 水⑤	21 水⑤	火	火
22 木③	土 火⑩	22 木④	22 木④	22 木④	水	水
23 金③	日 水⑪ 看護学研究科教説会 15~	23 金⑤	23 金⑤	23 金⑤	火	火
24 土 健康診断・4年	月⑦	24 土	24 土	24 土	水	水
25 日	火⑦	25 日	25 日	25 日	木	木
26 月④	水⑦ 看護学研究科教説会 15~	26 月⑤	26 月⑤	26 月⑤	火	火
27 火④	木⑦	27 火⑤	27 火⑤	27 火⑤	水	水
28 水④ 看護学研究科教説会 15~	金⑧ メモ 授業評価	28 水③	28 水③	28 水③	木	木
29 木	昭和の日	29 木	29 木	29 木	火	火
30 金④	日 水⑫ 健康診断・3年	30 金③	30 金③	30 金③	水	水
31	月⑧	31 土	31 土	31 土	火	火

備考:統合看護学部は各機関で6月~11月までに実施予定

◆イベント開催は大学統合後に変更になる可能性があります

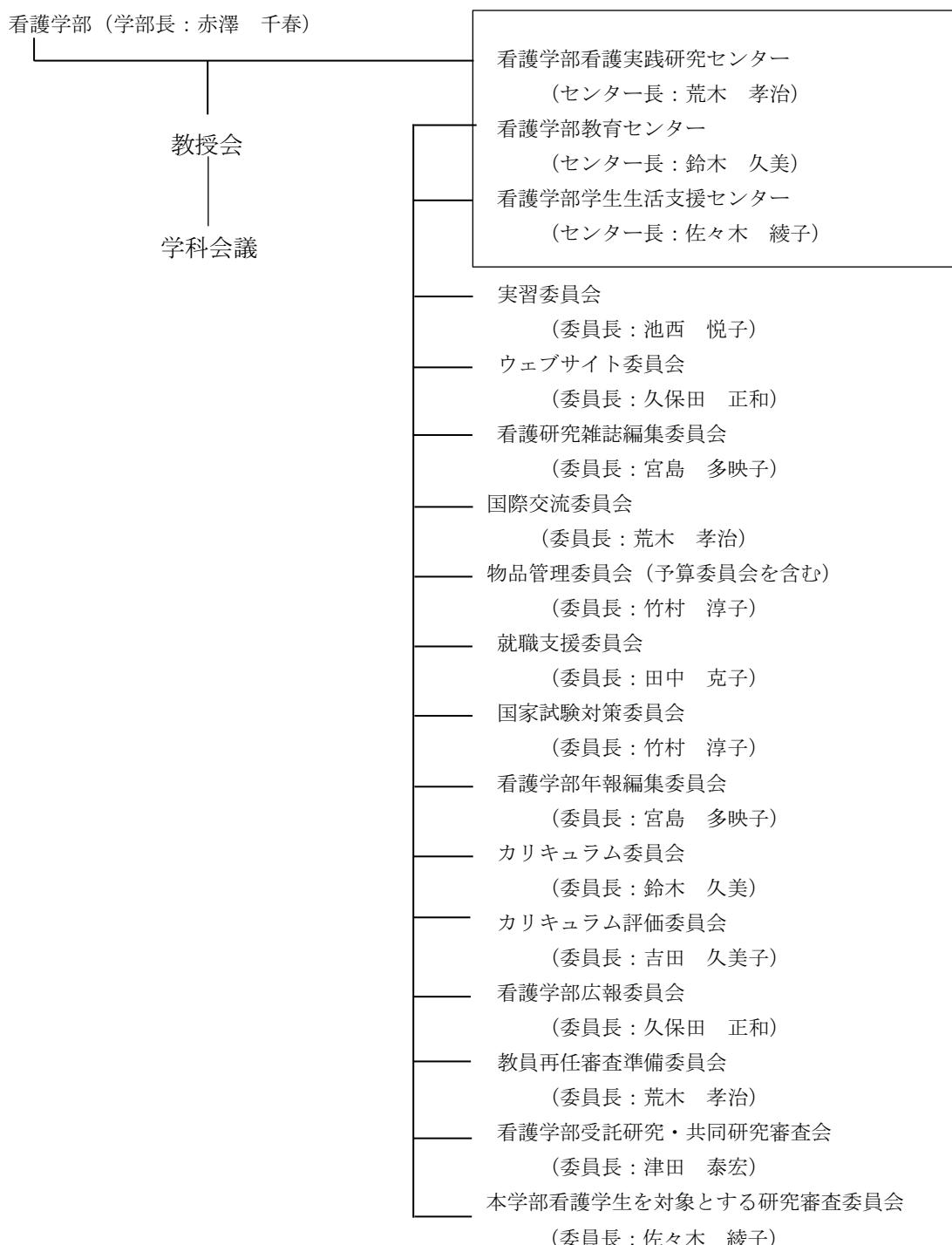
### 令和3年度学事予定表 教職員用

日 間		10 月 内 容		11 月 内 容		12 月 内 容		2022年 1 月		2 月 内 容		3 月 内 容	
1 金	金①	1~4年後期授業開 催	領 勤 假	月⑤	領 勤 假	水③	領 勤 假	1 土 元日	火 領 勤 假	火 次年度履修登録(ダンス (新2年)14:40~締 切)	火 領 勤 假	火 看護学部教受会 15~ 24年-3年(のべ)	
2 土				火⑤		木⑨			水	領 勤 假	水	領 勤 假	水
3 日		水 文化の日		金⑩		金		領 勤 假	2 日	領 勤 假	領 勤 假	領 勤 假	領 勤 假
4 月	月①	木 木⑤	領 勤 假	土	領 勤 假	木⑥	領 勤 假	3 月	火⑦ 4年採点締切	火⑧ 4年採点締切	火⑨ 4年採点締切	火⑩ 4年採点締切	
5 火	火①	木 金⑥	領 勤 假	日	領 勤 假	木⑦	領 勤 假		メモ：シラバス入力開始	メモ：シラバス入力開始	メモ：シラバス入力開始	メモ：シラバス入力開始	
6 水	水①	木 金⑦	領 勤 假	月⑩	領 勤 假	木⑧	領 勤 假	4 月	火⑩ 6木⑪	火⑪ 6木⑫	火⑫ 6木⑬	火⑬ 6木⑭	
7 木	木①	木 金⑧	領 勤 假	火⑨	領 勤 假	木⑩	領 勤 假	5 月	水	領 勤 假	領 勤 假	領 勤 假	領 勤 假
8 金	金②	木 金⑨	領 勤 假	月⑩	領 勤 假	木⑪	領 勤 假	6 月	火⑩ 7木⑪	火⑪ 7木⑫	火⑫ 7木⑬	火⑬ 7木⑭	
9 土		木 木⑩	領 勤 假	火⑩	領 勤 假	木⑪	領 勤 假	7 月	水⑩ 8木⑪	水⑪ 8木⑫	水⑫ 8木⑬	水⑬ 8木⑭	
10 日		水 木⑫	領 勤 假	月⑪	領 勤 假	木⑫	領 勤 假	8 月	火⑩ 9木⑪	火⑪ 9木⑫	火⑫ 9木⑬	火⑬ 9木⑭	
11 月	月②	木 木⑬	領 勤 假	木⑬	領 勤 假	木⑭	領 勤 假	9 月	水⑩ 10木⑪	水⑪ 10木⑫	水⑫ 10木⑬	水⑬ 10木⑭	
12 火	火②	木 金⑭	領 勤 假	木⑭	領 勤 假	木⑭	領 勤 假	10 月	火⑩ 11木⑪	火⑪ 11木⑫	火⑫ 11木⑬	火⑬ 11木⑭	
13 水	水②	看護学部教受会 15~		木⑭	看護学部教受会 15~	木⑭	看護学部教受会 15~	11 月	水⑩ 12木⑪	水⑪ 12木⑫	水⑫ 12木⑬	水⑬ 12木⑭	
14 木	木②	木 金⑮	領 勤 假	火⑭	領 勤 假	木⑮	領 勤 假	12 月	火⑩ 13木⑪	火⑪ 13木⑫	火⑫ 13木⑬	火⑬ 13木⑭	
15 金	金③	木 金⑯	領 勤 假	水⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	13 月	水⑩ 14木⑪	水⑪ 14木⑫	水⑫ 14木⑬	水⑬ 14木⑭	
16 土	解色監察	火⑭	領 勤 假	火⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	14 月	火⑩ 15木⑪	火⑪ 15木⑫	火⑫ 15木⑬	火⑬ 15木⑭	
17 日		水 木⑯	領 勤 假	水⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	15 月	水⑩ 16木⑪	水⑪ 16木⑫	水⑫ 16木⑬	水⑬ 16木⑭	
18 月	月③	木 木⑯	領 勤 假	火⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	16 月	火⑩ 17木⑪	火⑪ 17木⑫	火⑫ 17木⑬	火⑬ 17木⑭	
19 火	火③	木 金⑯	領 勤 假	水⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	17 月	水⑩ 18木⑪	水⑪ 18木⑫	水⑫ 18木⑬	水⑬ 18木⑭	
20 水	水③	水 木⑯	領 勤 假	火⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	18 月	火⑩ 19木⑪	火⑪ 19木⑫	火⑫ 19木⑬	火⑬ 19木⑭	
21 木	木③	木 金⑯	領 勤 假	水⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	19 月	水⑩ 20木⑪	水⑪ 20木⑫	水⑫ 20木⑬	水⑬ 20木⑭	
22 金	金④	木 木⑯	領 勤 假	火⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	20 月	火⑩ 21木⑪	火⑪ 21木⑫	火⑫ 21木⑬	火⑬ 21木⑭	
23 土	大祭祭	火 木⑯	領 勤 假	水⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	21 月	水⑩ 22木⑪	水⑪ 22木⑫	水⑫ 22木⑬	水⑬ 22木⑭	
24 日		水 木⑯	領 勤 假	火⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	22 月	火⑩ 23木⑪	火⑪ 23木⑫	火⑫ 23木⑬	火⑬ 23木⑭	
25 月	月④	木 木⑯	領 勤 假	水⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	23 月	火⑩ 24木⑪	火⑪ 24木⑫	火⑫ 24木⑬	火⑬ 24木⑭	
26 火	火④	木 金⑯	領 勤 假	火⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	24 月	火⑩ 25木⑪	火⑪ 25木⑫	火⑫ 25木⑬	火⑬ 25木⑭	
27 水	水④	看護学部研究科教受会 15~		木 金⑯	看護学部研究科教受会 15~	木 金⑯	看護学部研究科教受会 15~	25 月	火⑩ 26木⑪	火⑪ 26木⑫	火⑫ 26木⑬	火⑬ 26木⑭	
28 木	木④	木 金⑯	領 勤 假	火⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	26 月	水⑩ 27木⑪	水⑪ 27木⑫	水⑫ 27木⑬	水⑬ 27木⑭	
29 金	金⑤	木 木⑯	領 勤 假	火⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	27 月	火⑩ 28木⑪	火⑪ 28木⑫	火⑫ 28木⑬	火⑬ 28木⑭	
30 土		木 木⑯	領 勤 假	火⑭	領 勤 假	木⑯	領 勤 假	28 月	水⑩ 29木⑪	水⑪ 29木⑫	水⑫ 29木⑬	水⑬ 29木⑭	
31 日								29 月	火⑩ 30木⑪	火⑪ 30木⑫	火⑫ 30木⑬	火⑬ 30木⑭	

備考：基礎看護学習 I については10月7日～12月9日の期間、毎週木曜日に実習を行つ

### 3. 運営組織

#### 1) 運営組織（センターおよび委員会組織図）



看護学研究科（研究科長：赤澤 千春）

大学院委員会

教授会

2) センター

センター名	(1) 看護学実践研究センター	SDGsとの関連				
目的	本センターは、研究機構に属する組織として、3学部に共通する研究推進・研究支援の事業に取り組むとともに、看護学における研究支援・研究推進を進めていくことを目的とする。					
構成員	荒木孝治（センター長）、竹村淳子（副センター長）、宮島多映子、寺口佐與子、樋上容子、大橋尚弘、柴田佳純、山内彩香、山本暁生、藤井智子（学部長室付事務）					
活動計画	<p>1. 3学部に共通する研究推進・研究支援に対する役割の遂行（2021年11月から）</p> <p>1) 研究の環境整備</p> <p>2) 研究倫理体制の徹底</p> <p>3) 産官学連携の推進</p> <p>4) 大型プロジェクトへの取り組み</p> <p>2. 国際交流促進（2021年7月まで）</p> <p>1) 国際交流に関する基盤整備</p> <p>2) EAFONS 2021での本学ブース対応の実施</p> <p>3) 国際交流説明会の実施</p> <p>4) 看護学部学生対象英会話教室の実施準備（PA会予算）</p> <p>5) ミネソタ州立大学マンケート校との学生派遣・受け入れに関する検討</p> <p>6) 台北医学大学の研修生の受け入れと研修への学生の派遣に関する検討</p> <p>7) ミネソタ州立大学マンケート校主管のオンライン国際交流学習プログラム（Web International Module）の実施に関する実施準備</p> <p>3. 生涯学習・研修支援</p> <p>1) 附属病院看護研修セミナーへの協力</p> <p>2) 人材育成教育セミナーの開催</p> <p>3) 市民看護講座の開催</p> <p>4) 高槻フェスタへの協力</p> <p>4. 研究支援・情報発信</p> <p>1) カムカムサロンの開催</p> <p>2) 看護研究学会の開催</p> <p>3) 研究ポスター掲示</p> <p>4) 英語版パンフレットの作成</p> <p>5) ホームページの更新</p> <p>5. ボランティア支援（2021年8月から）</p> <p>1) ボランティアに関する情報の収集・取りまとめ・協力・派遣</p>					

	<p>今年度は新型コロナウイルス感染症流行により大きく計画変更を余儀なくされた。今年度の活動概要は以下のとおりである。</p> <p><b>1. 国際交流の促進（2021年7月まで）</b></p> <p>1) 国際交流に関する基盤整備</p> <p>(1) 国際交流活動全体統括</p> <p>今年度の目標、将来像、活動内容について確認し、中山国際医学医療センターとの協働の下、学生と教員が楽しみながら参加できる国際交流活動の土壌作りを進めることとなった。また、大学統合に伴い3学部合同の英語版パンフレットが作製されることとなり、看護学部に関する内容の見直しを実施した。</p> <p>(2) 部局間協定の締結に向けた交渉</p> <p>2020年ミネソタ州立大学マンケート校の主管する Web International Module の教員会議に参加したことを契機に、2021年トマスモア応用科学大学（ベルギー）の国際交流コーディネーターより看護学生1名の臨床実習の受け入れについて打診を受けた。この学生の扱いをめぐって担当者とのコミュニケーションが進んだ。当該学生の受け入れには至らなかったが、今後の交流の発展を進めていくために議論を始めることとなった。</p> <p>2) EAFONS2021での本学ブース対応の実施</p> <p>2021年4月15・16日に開催された EAFONS2021 (24th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS)において、本学のブース出展に伴い、大学院委員会と協働で、大学紹介動画の作成に参画し、当日のブース対応を実施した。結果として、130程度のブース訪問や、シンガポール国立大学、フィリピンのアーダネータ市立大学や西ビサヤ州立大学、台湾の高雄医学大学からのアクセスがあり、国立モンゴル医科大学よりコラボレーションの打診があるなど、大学の活動の周知に貢献した。</p> <p>3) 国際交流説明会の実施</p> <p>本学部の国際交流活動について理解し、各プログラムへの興味・関心を高めることを目的に2021年5月に開催した。対面とオンラインのハイブリッド式で実施し、28名の学生と20名の教員が参加した。本学の国際交流の目指すところとその概要、本学部の交流活動の全体像とモデルコース、オンラインによる国際交流プログラム（Web International Module）や夏季集中型英会話教室（サマースクール）など、各プログラムの概要について説明を行なった。参加した学生らは、プログラムの経験者である先輩に質問をするなど積極的に参加していた。</p> <p>4) 看護学部学生対象英会話教室の準備（PA会予算）</p> <p>2020年7月に実施した国際交流&amp;英会話に関するアンケート結果で、学生の国際交流への関心が高い一方で、時間的余裕のなさと語学力に対する自信の低さが明らかとなった。よって2021年度は参加しやすい時期設定と初心者でも安心して楽しめる工夫を課題とし、期末試験後の8月上旬に3日間夏季集中で日本語サポート付きの英会話教室を企画した。予算がオーバーしたため、新規参入業者にトライアル価格を交渉した。（実施状況は国際交流委員会年報に記載）。</p>
--	--

	<p>5) ミネソタ州立大学マンケート校 (MSUM) との学生派遣・受け入れに関する検討 (オンライン会議含む)</p> <p>学生派遣・受け入れの検討のため、4月と5月にマンケート校の教員とオンライン会議を行なった。今年度より学生同士の交流をより活発にするために2週間派遣プログラムへ変更となった。2022年3月14日-25日の日程で看護だけではなく語学のプログラムや学外アクティビティも含めた内容のプログラムを計画したが、本年度は新型コロナウイルスの感染拡大予防のため派遣は中止となった。MSUMからの学生の受け入れについては、詳細な時期は決定していないが、2023年以降で、台北医学大学と同時期の受け入れを予定している。</p> <p>6) 台北医学大学の研修生の受入れと研修への学生の派遣に関する検討</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大予防のため、7月の台北医学大学の学生受け入れは中止となった。</p> <p>7) ミネソタ州立大学マンケート校主管のオンライン国際交流学習プログラム (Web International Module) の実施準備</p> <p>MSUMが主管で実施するオンライン国際交流学習プログラムへ参画した。2021年5月の国際交流説明会で内容の説明を行い、中山国際医学医療交流センターを窓口に参加者を募集した。1年生および2年生の各1名ずつ計2名の応募があり、学部内での選考の結果、参加者として承認した。7月より参加者へ事前準備のための説明会を断続的に行い、9月のプログラム開始に向けた準備を整えた。</p> <h2>2. 生涯学習・研修支援・研究支援・情報発信</h2> <p>1) 生涯学習・研修支援・研究支援の活動概要</p> <p>本年度は、昨年に続く COVID-19 感染症拡大によって生涯学習・研修支援である大学病院看護研修セミナー、市民公看護講座、高槻フェスタへの参加は見送りとなった。しかし、人材育成教育セミナーと看護研究学会の開催およびカムカムサロンは形式を変えて開催した。さらに、COVID-19 ワクチンの職域接種についてボランティアの派遣協力を行った。</p> <p>2) 人材育成教育セミナー・看護研究会</p> <p>COVID-19 感染症拡大の終息を見込めないため、人材育成教育セミナー、看護研究会とともに Zoom を用いたオンライン開催とした。</p> <p>(1) 人材育成教育セミナー</p> <p>大阪大学の武用百子氏を招聘し、「新型コロナウイルスの感染症に関する看護師のメンタルヘルスケアについて」講演頂いた。参加者は36名（教員24名、学外9名、大学院生3名）であった。アンケート調査の結果、現場の看護師、教員ともに多くの参加者がコロナ禍での看護師や教員のメンタルヘルスへの支援についての示唆を得ており、好評であった。</p> <p>(2) 看護研究会</p> <p>看護研究を実装まで発展させるための示唆を得るために、国立長寿医療研究センターの土井剛彦氏を招聘し、「研究の成果を社会で活かすまでの課題と工夫」をテ</p>
--	---

	<p>一マに講演頂いた。参加者は合計 52 名（教員 27 名、外部 25 名（うち大学院生 3 名））であった。また、研究交流会では 4 名の演者による演題発表があり、参加者と活発な意見交換がなされた。アンケート調査の結果、講演、研究交流会ともに好評を得た。</p> <p>3) カムカムサロン・SP（模擬患者）養成事業</p> <p>カムカムサロンは最終年度（「たかつきモデル」プロジェクト）にあたるが、対面での開催は困難なため、本年も「熱中症」や「栄養」に関する「カムカムサロン健康コラム」を送付した。その際に、メールアドレス登録や Zoom 交流が可能であるか等の希望調査を実施し、21 名が登録された。また、Zoom やメール登録は難しいが参加登録希望者が 1 名あった。</p> <p>カムカムサロン事業の後継事業として、地域住民との関わりを学部教育の場に還元する「SP 養成プログラム」の企画を検討した。2022 年度以後に SP 養成プログラムを運用するための準備として、各領域への聞き取りニーズ調査を実施し、多くの領域より条件はあるが活用可能であるとの回答を得た。SP 養成の参画団体として NPO 法人ナルク高槻・島本の代表者と調整し、ナルク内で新たに SP 養成事業のグループの立ち上げ等の調整を図った。また、SP 養成教育プログラムについての情報収集を行い、岡山 SP 研究会開催の SP 学研修に参加した。研修では、SP の役割と患者役割の違い、SP 養成の方法について、実際に SP 養成された SP の方々とロールプレイを実践して学び、今後の本学の目指す方向性について示唆を得た。</p> <p>4) COVID-19 ワクチンボランティア派遣</p> <p>本学において 7~8 月に COVID-19 ワクチンの職域接種が実施されることになり、看護学実践研究センターを窓口として、教員および大学院生に呼びかけ協力者を募った。ワクチン接種のボランティアに参加した日数は 18 日間で、延べ人数は 62 人であった。3 月実施の 3 回目の接種に関しても協力者を募り、7 日間で延べ 7 人が参加した。</p>
評価	<p>1. 効果が上がっている事項</p> <p>1) 国際交流活動 WG の内容は、2021 年 8 月より発足した国際交流委員会に引き継ぐ。その為、活動の評価に関しても国際交流委員会にて実施する。</p> <p>2) ワクチンボランティア派遣のとりまとめを行なった。この派遣が端緒となり、今後、ボランティア活動への貢献を本センターの役割として位置付けることになった。</p> <p>3) 人材育成セミナーは COVID-19 の再拡大によりオンライン開催となったが、アンケート調査の結果、現下のニーズに適合した企画と評価された。</p> <p>4) 看護研究会は COVID-19 の再拡大によりオンライン開催となったが、講演では研究を社会実装につなぐ過程がよく理解できた等の評価が得られ、口頭発表での質疑応答を通しての参加者との交流など盛会であったとの評価を得た。</p> <p>5) SP 養成事業は、各領域のニーズ調査を実施し、概ね進めていくことが共通認識された。また、社会貢献事業面から、学部授業内で患者役割を担ってもらう地域住民との調整が図れ、次年度から具現化ができる。</p>

評価	<p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>1) 生涯学習・研修支援・研究支援については、依頼先の意向との調整が必要となるが、開催目的・ニーズと感染拡大に伴う別の案の提示がさらに必要となる。</p> <p>2) 看護研究会の研究交流会では、研究発表者の募集に難渋している。大阪医科大学研究雑誌にて発表した方へ優先的に依頼する、発表者は社会貢献の実績が得られることを明示するなど、より発表者が容易に得られるような方法を検討する必要がある。</p>
将来に向けた発展 方策・課題	<p>1. 研究機構に属するセンターとして、学部間連携共同研究の強化・推進に取り組んでいく。</p> <p>2. 国際交流委員会の発足に伴い、研究面に関しては、同センターと国際交流委員会の連携や協働が課題である。</p>

センター名	(2) 看護学教育センター	SDGs との関連	  
目的	看護学部の教育課程の円滑な遂行のために教育計画, 教育環境整備, 多職種連携教育, 授業評価, FD (Faculty Development) 等に関する事項の企画・調整・実施・評価を行うことを活動の目的とする.		
構成員	鈴木久美（センター長）, 小林道太郎（副センター長）, 久保田正和, 安田稔人, カルデナス暁東, 川北敬美, 仲下祐美子, 山崎 歩, 竹 明美, 川端由夏, 中野恵梨子, 高橋七枝（10月まで）, 北川祐美（11月から）（看護学事務課）		
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程全般の運営</li> <li>2. 教育センター担当科目の運営</li> <li>3. FD 企画と実施</li> <li>4. 多職種連携教育の運営と充実</li> <li>5. 授業評価と改善</li> <li>6. 実習ポートフォリオの実施</li> <li>7. 実習に関する事項</li> <li>8. 教育環境整備の充実</li> <li>9. 新型コロナウイルス感染症に伴うオンライン授業の整備と準備</li> <li>10. その他</li> </ol>		
活動概要	<p>教育センター会議は全 13 回（臨時含む）開催した。</p> <p><b>1. 教育課程全般の運営</b></p> <p>1) 学事日程および時間割の調整</p> <p>2021 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が数回にわたり発出されたため、文部科学省の通達および本学の基本方針に基づき、学生の安全と学修の質保証の確保の観点から、前期と後期の授業内容・方法等について看護学部の授業方針を策定し、授業方法や時間割調整を数回にわたり行い、学生および常勤教員、非常勤・兼任教員に適宜周知した。</p> <p>2) ベストティーチャー賞の選出</p> <p>ベストティーチャーの規定に沿い、各学年 1 名の計 4 名の教員選抜を行った。</p> <p>3) 期末試験および不正行為への対応</p> <p>前期および後期で授業の出欠席に対する不適切な行為を行った学生がみられたため、学生生活支援センターとともに学生への個別対応を行った。授業の出欠に関する事項は次年度の履修のびきに反映し、各学年の履修ガイドの時に懲戒規定および不正行為に対する事項を周知した。また不正行為対策の一環として期末試験の監督補助要請を行い、各教室 2 名の試験監督を配置し試験を実施した。</p> <p>4) GPA の分析と平準化</p> <p>2020 年度および 2021 年度前期の成績について科目間の成績の平準化をめざし、カリキュラム委員会および IR 室と連携をして各学年の GPA や各科目の箱</p>		

	<p>ひげ図を作成し、教授会で共有した。また、再試験の多い科目について科目責任者に振り返りを依頼し、授業改善につなげた。</p> <p>5) 成績、進級、卒業判定と成績不良者への学生指導</p> <p>学生の成績、進級、卒業判定は各要件に基づき教授会で審議し適正に行った。また、GPA が 2.0 (望ましい水準) 未満の学生に対し、チューター教員等による学修指導を依頼・実施し、取り組みによって学生の改善がみられたか評価した。</p> <p>6) 履修のてびきの見直しと作成</p> <p>2022 年度入学生から新カリキュラムが導入されること、2022 年度に看護学教育評価を受審することを鑑みて履修のてびきを見直し、「教育課程の内容」「カリキュラムマップ」「授業概要」「早退時の対応」の変更・追加を行い、各学年の履修ガイダンスの時に学生に周知した。</p> <p>7) シラバス作成要項の修正とシラバス点検の実施</p> <p>シラバス要領を見直しと項目の追加を検討し、それに基づいて次年度のシラバス作成を教員に依頼し、作成されたシラバスについて記載内容が適正であるかといった観点からセンター教員によるシラバス点検を実施した。</p> <p>8) 各学年のオリエンテーション・履修ガイダンスの実施</p> <p>各学年で次年度の履修ガイダンスを企画し、教育目標や 3 ポリシー、学事日程、各学年での履修科目および単位取得に関するここと、学年別目標、次年度からの変更点などについて説明した。また、懲戒規程を再確認し、周知した。</p> <p>9) 英語教育充実のための能力別クラス分けの導入準備</p> <p>学生個々の英語力に合わせた効果的な英語教育を行うために、能力別クラスによる英語科目の授業実施について非常勤教員の意見も聴取して検討した。2022 年度入学生より TOEIC テストを利用したクラス分けをすることとなった。</p> <p>10) 授業見学の推進</p> <p>今年度も新型コロナウイルス感染症拡大に伴いオンライン授業やオンライン授業、ハイブリッド授業の導入により教員の負担を考慮し、授業見学の推進は行わなかった。</p> <p>11) 規程類の見直しと作成</p> <p>ベストティーチャー選考基準の見直しを行った。ベストティーチャー賞に選ばれている過去の科目や領域を分析したところ、実習科目が殆どであり同じような領域に偏る傾向が明らかになった。そのため、選考項目および基準(対象教員、科目、選考基準)の見直しを図った。1 月の教授会で選考基準について審議し、承認が得られ、2021 年度のベストティーチャー選考より、適用することとなった。</p> <h2>2. 教育センター担当科目の運営と実施</h2> <p>1) 卒業演習に関するここと</p> <p>(1) 卒業演習の発表会の運営・実施</p> <p>COVID-19 感染拡大の状況に鑑みて、発表者は対面（大学での発表）、聴講者は対面と Zoom のハイブリッドで実施した。3 年生等は対面や Zoom のいずれか</p>
--	---

	<p>らの参加があった。計 82 名の学生の研究発表は 10 領域において、全て滞りなく実施できた。</p> <p>(2) 卒業演習要項の作成と分野決定</p> <p>卒業演習要項を作成し、卒業演習オリエンテーションまでに事前配布した。COVID-19 感染拡大の状況から学内での分野決定が困難となることを想定し、オリエンテーションを Zoom と対面(実習中の学生)のハイブリッドで行い、respon 接続確認と分野決定のデモンストレーションを行った。履修ガイダンスと分野決定は Zoom と対面(実習中の学生)のハイブリッドで行った。今年度、初めて respon を導入した分野決定を行ったが不具合等もなく、学生の希望する研究内容等の集約もユニバ入力へ変更したがスムーズに実施できた。</p> <p>2) 兼担教員科目の見学実習への対応</p> <p>解剖学実習は予定通り実施された。地域救命救急に関する施設見学はコロナ禍で実施されなかつたため、Zoom 配信の講義に振り替えた。</p> <p>3) 保健師科目・助産師科目への対応</p> <p>保健師国家試験受験資格希望者の選抜に関しては、学事予定表を踏まえたスケジュールを立て、スケジュールに沿って実施し、37 名を選抜した。また、助産師国家試験受験資格希望者の選抜に関しては、学事予定表を踏まえたスケジュールを立て実施し、スケジュールに沿って実施し、7 名を選抜した。</p> <h3>3. FD 企画と実施</h3> <p><b>活動概要</b></p> <p>1) 全教員対象の FD 企画と実施</p> <p>看護学教育センターでは、教育実践向上に向けてティーチング・ポートフォリオ(TP)をテーマとした FD 研修会企画・実施を 2019 年度より継続的に行ってきました。①3 年目となる今年度は、まず、昨年度に TP 完成版を作成した教員に同領域の上位教員が教育改善に向けた面談を行った。②看護学部で TP を速やかに導入するために、現在、薬学部が実施している TP の手法を学ぶ講演会を 12 月 15 日(水)に実施した。参加は看護学部教員 39 名(参加率 100%)であった。実施後アンケート(回答率 92.3%)では 83.3%が TP 作成方法について理解が深まったとの回答が得られた。③さらに、ティーチング・ポートフォリオ～教育改善に役立つ教育教材開発～と題して、遠隔授業等にも役立つ教育教材の作成を学ぶ研修会を 3 月 14 日(月)に実施した。参加は看護学部教員 32 名(教員参加率 84.2%)および大学院生 2 名であった。アンケートでは(回答率 85.3%)、参加者全員が今後の教育等に役立つ機会となったと回答し、学習意欲を高める理論・目的にあわせた教材作成の必要性や ICT を用いた教材開発にむけた前向きな意見や感想がみられた。</p> <p>2) 新人教員対象の FD 企画と実施</p> <p>看護学教員歴 2 年目および 3 年目の教員 5 名を対象に、テーマを「教員力(実習指導)について考える」として 8 月 19 日(木)に実施した。ねらいは、新人教員の教育力に関する再自己評価と同職位間交流ならびにメンターとの振り返</p>
--	--

活動概要	<p>りを行い、新人教員の教員力（実習指導）に関する PDCA の実践と教員力の向上を目指すことである。メンターは教育センター員が担った。また、この新人 FD プログラムの評価も行い、参加者の意見から適切性を確認した。</p> <p>3) TP 導入の準備</p> <p>全教員対象の TP に関する FD 研修会等および本学医学部、薬学部での TP 実施状況等を踏まえて、次年度から看護学部での導入に向けて TP の様式および運用案を作成した。</p> <p><b>4. 多職種連携教育の運営と充実</b></p> <p>1) 多職種連携教育科目への対応</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、対面講義を中止し、オンライン授業あるいはハイブリッド式講義へ変更した。医学部と薬学部の担当教員、看護学部事務担当者と綿密に情報を共有しながら、「医療人マインド」のグループワーク（GW）（Zoom による）のファシリテーター・レポート評価、「専門職連携医療論」「医看融合ゼミ」の運営企画・コーディネート・GW（Zoom による）のファシリテーター・レポート評価を担当した。「専門職連携医療論」GW の Zoom による展開について、学生を対象にアンケート調査を行い、対面式 GW を希望する学生が多くいた。ネット環境や PC 等の機器トラブルにより GW の進行に支障があったが、3 学部間の GW を通して多職種連携の重要性を理解した学生がほとんどであった。「多職種連携—臨床カンファレンス」は、例年実施の母性・精神領域に加え、昨年度より慢性・急性領域でも実施となった。1 月に中間評価と、2 月末にまとめと評価を行った。9 割以上の学生が 4 領域で 1 回はカンファレンスを経験できていたが、感染状況の悪化に伴い開催中止となる状況もみられた。アンケート評価では、「専門的知識の違いが分かった」「視点の違いに気付いた」等の質問項目 6 項目全てにおいて、「そう思う」「とてもそう思う」が 9 割以上を占めていた。</p> <p>「地域医療実習」は、今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、中止となった。</p> <p>2) 多職種連携カリキュラム小委員会への参加</p> <p>3 回開催された多職種連携カリキュラム小委員会に参加した。新型コロナウイルス感染拡大により講義の形式が大きく変更されたため、委員会では学生の授業評価方法、次年度の運営方法、GW の方法などについて提案し、検討した。</p> <p><b>5. 授業評価・改善</b></p> <p>1) 学生の授業評価</p> <p>実施要領に基づいてユニバ用いた評価を行った。今年度から各科目の評価時期を確認し、事務課からメールで周知するシステムに変更した。2 科目において評価実施日とユニバへの記入期間にズレが生じたため、来年度は記入期間を広く取る予定である。卒業演習にも適用できる授業評価項目に変更し、授業評価を実施した。2021 年度も新型コロナの影響により授業形態が変化したため、昨年度</p>
------	---

	<p>に引き続き自由記述欄にてオンライン講義に対する学生の意見を募った。</p> <p><b>2) 教員の授業改善</b></p> <p>2021年度も引き続き授業（実習）改善報告書を作成し、学生に公開した。後期は授業と実習で評価が出される時期が異なるため、今年度から実習評価がだされ次第、実習評価改善報告書を作成し、授業評価改善と合わせて学生に公開した（2021年度：3月8日～31日）。</p> <p><b>6. 実習ポートフォリオの実施</b></p> <p>記入率・活用方法の向上を目的として、全学年で実習前オリエンテーション時に再度、実習ポートフォリオの目的・記入時期についてのオリエンテーションを実施した。学生と教員を対象に実習ポートフォリオに関するアンケートを行った。</p> <p>看護基本技術経験チェックリストは、3年次以外は実習終了時に1回、3年次は領域実習の4クールと7クール終了の2回入力を促し集計を行った。領域実習の3年次では、バイタルサイン測定、呼吸音の聴取、腸蠕動の聴取は9割の学生で「一人で実施」「指導のもと実施」できていた。保清に関連した項目は79%の学生が「一人で実施」「指導のもと実施」で行えていた。4年生終了時の技術では、防護用部の装着、衛生学的手洗いはすべての学生が実施できていた。全身清拭、陰部洗浄、洗髪、バイタルサイン、経皮的動脈血酸素飽和度の測定、呼吸音の聴取、腸蠕動の聴取、ポジショニング、体位変換 病床環境の調整、感染性廃棄物の扱いは、8割以上の学生で「一人で実施」「指導のもと実施」の経験であった。</p> <p><b>7. 実習に関する事項</b></p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により実習計画に変更が生じた場合は、実習目的達成と学生間の実習内容に差が生じないように、実習可能な他施設への実習受け入れ・調整状況、学内実習への変更状況や感染症への対応について実習委員会と情報の共有や連携を図った。</p> <p><b>8. 教育環境整備の充実</b></p> <p>セルフトレーニングコーナーの活用を目的とし、統合実習前の6月、領域別実習前の8月と基礎実習終了後の2月に勉強会を計画した。6月は12名、8月は38名、2月は学内の新型コロナウイルス感染者の増加により中止した。学生からの反応はとてもよく、定期的な実施を望んでいた。勉強会実施の様子は看護学部教育センターHPに新たなページを作成し、掲載した。（<a href="https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/center/education_center/of2vmpg000000d53w.html">https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/center/education_center/of2vmpg000000d53w.html</a>）</p> <p><b>9. 新型コロナ感染症に伴うオンライン授業の導入と整備</b></p> <p>1) 前期授業方針：3月中に2021年度前期の授業方針を策定し、学生・教員に周知した。密を避けるため、学年と曜日により、①講堂または2講義室（講義室間はZoomで接続）の対面授業、②対面と遠隔Zoomのハイブリッド授業、③全面遠隔Zoomのいずれかとして時間割表に明記した。その際、コロナ感染や濃厚接触、ワクチン副反応の場合の出欠等の扱いも明示した。今後感染状況</p>
--	--

活動概要	<p>によって全面 Zoom に切り替える可能性があることも確認した。</p> <p>2) 遠隔 Zoom 化（4・5 月）：感染者増加による大阪府からの授業オンライン化の要請（その後緊急事態宣言）を受けて、時間割調整の上、4 月 19 日から 5 月 31 日まで、可能な科目はすべて遠隔 Zoom 授業に切り替えた。対面での実施が必要な演習等は密を避けながら対面で行った。1 年生はそれまで講堂の対面授業で Zoom 授業の経験がなかったため、直前の 4 月 15 日に Zoom 接続テストを行って遠隔授業へのスムーズな移行を図った。</p> <p>3) 対面授業再開：6 月以降は講堂または 2 講義室での対面授業を基本とし、一部ハイブリッド授業とした。試験は監督者を確保して 2 講義室で対面で実施した。</p> <p>4) 後期授業：実習はすべて対面で行った。10 月の講義・演習はハイブリッド授業を基本とし、一部必要な授業については講堂または 2 講義室による対面授業とした。11 月からは全員、講堂または 2 講義室による対面授業とした。</p> <p>5) 遠隔 Zoom 化（1 月以降）：全国的な感染者の急増を受けて、1 月 11 日から実習以外の科目は原則遠隔 Zoom 授業に切り替えた。対面授業が必要な一部の科目は講堂または 2 講義室での授業とした。試験は 2 講義室で対面にて実施した。</p> <p><b>10. その他</b></p> <p>1) 私立大学等改革総合支援事業への対応（タイプ 1） タイプ 1 の獲得をめざし、看護学部で必要な要件が整っているか確認し、対応した。</p> <p>2) 2022 年度看護学教育評価受審に向けた対応 看護学教育評価受審に向けて評価基準に沿って自己点検・評価で抽出された課題への改善策を作成し、対応を実施した。</p> <p>3) 令和 3 年度大学改革推進等補助金への対応 2022 年 1 月に「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」として交付があり、看護学部として計画書を作成し申請したところ選定された。ハイブリッドシミュレーター（SCENARIO）およびデブリーフィングできる DX 装置（ふりかえ朗）の看護学部に設置されることとなった。</p>
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>1) 教育課程全般に関すること 新型コロナウイルス感染症拡大のため緊急事態宣言やまん延防止重点措置などがたびたび発出されたが、文部科学省の通達と本学の基本方針を基に「学生の安全確保と学修の質保証」の観点から前期および後期の授業に関する方針を状況に合わせて策定し、学生、教員、非常勤教員に周知した。大きな混乱もなく、また平常時と学生の成績はほとんど変わることなく学修の質担保につながった。 看護学教育評価受審に向けた課題への対応策を実施し、教育改善につながった。</p> <p>2) 授業評価と実習ポートフォリオに関すること ユニバによる授業（実習）評価については、定期的な周知もあり、定着してきた。また、卒業演習にも対応した授業評価項目に変更し、今年度から実施するこ</p>

評価	<p>とができた。授業改善報告書は今年度で4年目となり年度別で改善点の推移が見やすくなっている。</p> <p>実習ポートフォリオの実施については、学生・教員ともに実習ポートフォリオの目標を概ね達成できている、と評価している。</p> <p>3) オンライン授業について</p> <p>Zoomによるハイブリッド授業・遠隔授業は、2020年度を通じてZoom運用法や講義室システムの整備を行っており、教員・学生も利用法に慣れてきていたため、2021年度はさほど問題なく実施された。感染拡大による全面Zoomへの移行の際も、あらかじめその可能性があることが周知されていたため、大きな混乱はなかった。</p> <p>4) FDについて</p> <p>ティーチング・ポートフォリオのFD研修会のアンケート自由記載では、ポートフォリオの作成ができそうな感じがするといった意見や、自己の振り返りとなる等の導入・活動の意義に関する意見がみられ、看護学部で次年度から導入するTPの様式および運用案の作成につなげることができた。</p> <p>新人対象FDは、昨年度と今年度で一連のプログラムが完成できた。プログラム評価の聞き取りでは、職位が同じ仲間での意見交換は他領域の状況を理解したり、自領域の位置づけを考える機会ともなるのでよい、開催時期もよい等の好意的な評価が得られ、プログラムの妥当性や適切性を確認することができた。</p> <p>5) 教育環境整備の充実</p> <p>物品管理委員会と連携し、「看護学部実習室およびセルフトレーニングコーナー利用要領」と「看護学部の実習室・セルフトレーニングコーナー・物品の使用要領」を作成した。実習室とセルフトレーニングコーナーの使用方法を一元化した。</p> <h2>2. 改善すべき事項</h2> <p>1) 教育課程全般に関すること</p> <p>例年2年次の学年GPA値が2.4前後に低下しており、2020年度2年次GPAは高くなり他学年と同じレベルに維持できたが、今年度2年次GPAの低下およびGPA2.0未満の学生が増加したことから、引き続き成績の平準化と学生の学修指導の強化が必要である。</p> <p>授業の出欠に関する不適切な行為が散見されたため、学生の個別指導を行った。また、不正行為に対する学生への注意喚起および履修のてきの改定を行うなど対応する必要がある。</p> <p>2) 授業評価と実習ポートフォリオに関すること</p> <p>今年度の授業評価回答率について、前期は64.5%と高率を維持できたが、後期は49.7%と低値であった。2科目で実施日とユニバへの記入期間が合致しておらず、学生が記入できなかつたことが要因であると思われる。科目によっては最終講義日ではなく、試験日に行うこともあるため、来年度以降は記入期間を広く取ることで対応する。</p>
----	---

評価	<p>実習ポートフォリオに関する年度末のアンケート結果では、教員から学生の取り組みに対する温度差について指摘があった（学生がタイムリーに記入しないなど）。学生に対しては実習前のオリエンテーションで、ポートフォリオの意義を丁寧に説明すること、実習ごとに確認して積み重ねていくことの有用性を伝えることが重要である。</p> <p>「看護基本技術経験チェックリスト」の記入率が今年度も低いため、検討が必要である。</p> <p>3) 教育環境整備の促進</p> <p>ハイブリッドシミュレーター（SCENARIO）およびデブリーフィングできるDX装置（ふりかえ朗）が設置されるため、これらの機器の有効活用ができるようさらなるセルフトレーニングコーナーの整備が必要である。</p> <p>4) オンライン授業の影響について</p> <p>Zoomを利用した授業自体は問題なく行われたが、その教育効果については検証が必要であり、検証の結果を踏まえて、感染防止対策をしながら授業をする方法の工夫やさらなる改善を検討する必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3つのポリシーに基づくアセスメントの概要、各レベルでの査定とフィードバックの流れに沿った各委員会と連携</li> <li>2. GPA2未満の学生への学修指導の強化およびGPAの分析と平準化の促進</li> <li>3. 多職種連携教育の推進と他学部との連携強化</li> <li>4. 教育環境整備の促進と充実</li> <li>5. 2022年度看護学教育評価受審に向けた対応</li> <li>6. タイプ1関連事項の推進</li> <li>7. ティーチング・ポートフォリオの看護学部での運用</li> </ol>

センター名	(3) 看護学学生生活支援センター	SDGs との関連	 3 すべての人に 健康と福祉を	 4 質の高い教育を みんなに
目的	本センターは、看護学部における円滑な学生生活の提供を目指し、学生生活の中で学生が抱える諸問題（就学、大学生活への悩み、経済的事由に起因する悩み等）に組織的に対応し、学生の主体的な大学教育への適応を図り修学効果を高められるよう厚生補導の一役を担う。			
構成員	佐々木綾子（センター長）、津田泰宏、府川晃子、土肥美子、佐野かおり、山埜ふみ恵、倉橋理香、勝山あづさ			
活動計画	<p>2021年度の年間計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総代・副総代との連絡会</li> <li>2. (チューター制度) チューターが活動しやすい、学生が相談しやすい環境作り（継続）</li> <li>3. (学勢調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施</li> <li>4. 奨学金支援</li> <li>5. (健康管理) 保健管理室との連携の一層の緊密化（継続）</li> <li>6. (学生からの要望に対する対応) 意見箱の運用、懇談会の実施</li> <li>7. (学生自治) 学生が自ら話し合い、学生生活の問題を解決していくことの支援、学友会役員選考支援、謝恩会準備の支援</li> <li>8. (新入生合同研修) 3学部合同参加への取り組み</li> <li>9. ホームページの内容の充実</li> <li>10. 学習環境の整備</li> <li>11. 正課外活動ポートフォリオの充実</li> <li>12. 3学部連絡会議</li> <li>13. 感染予防対策</li> <li>14. その他（学外研修会、障がい学生関連、懲戒規程関連、学籍移動、学生生活ガイド修正、大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価）</li> </ol>			
活動概要	<p>1. 総代・副総代との連絡会</p> <p>1) 新年度に各学年総代・副総代の決定を行った。総代連絡会については、COVID-19感染症対策により今年度は活動していないため開催できなかった。</p> <p>2. (チューター制度) チューターが活動しやすい、学生が相談しやすい環境作り（継続）</p> <p>1) チューターグループの編成：教員2-3名のグループにより、1-3学年の学生16-17名を担当した。感染予防の観点から登校が制限されていた時期も含め、各チューターグループの判断でユニバやメールでの連絡、Zoom等を用いたWeb面談なども活用し、学生との連絡を取り合った。4年生は例年の通り、卒業演習担当教員とした。</p> <p>2) 1-3年生のチューター教員の組み合わせは次の通りとした。</p>			

		表1. 2021年度チューターグループ（1～3年生担当）					
No	担当教員	No	担当教員	No	担当教員		
1	久保田, 川北, 柴田	6	安田, 桐木	11	佐々木, 山埜		
2	田中, 竹, 倉橋	7	竹村, 山本	12	鈴木, 仲下, 二宮		
3	宮島, 樋上, 大橋	8	津田, 近澤	13	山崎, 土肥		
4	荒木, 佐野	9	小林, 府川, 赤崎	14	真継, 土井		
5	土手, 寺口	10	吉田, 山内	15	池西, 瓜崎		
				16	カルデナス, 草野, 勝山		
活動概要	3) チューター活動評価：1年間のチューター活動に関する評価と、チューター活動に関する指針のブラッシュアップのため、教員を対象としたアンケートを実施した。昨年度に引き続く感染予防対策として登校が一部制限された中でのチューター学生とのコミュニケーションや、後期の健康観察票・行動記録票の確認を含めた学生との面談や相談の内容について、また、チューター活動の中で必要と考えられる支援について確認した。						
	3. (学勢調査) 医学部看護学部合同の調査内容の見直し、実施						
	1) 学勢調査および大学ランキング調査をWebで実施した。						
	2) 回収率が上がるまで複数回に渡ってアナウンスを繰り返した。						
	4. 奨学金支援						
	1) 2021年度各種奨学金						
	2) 日本学生支援機構 学生等緊急給付金						
	3) 文部科学省 学びの継続のための緊急給付金						
	4) 特別奨学金貸与規定変更に伴う毎年の適格審査						
	5. (健康管理) 保健管理室との連携の一層の緊密化（継続）						
	1) 保健管理室、実習委員会と連携して4種感染症、B型肝炎ウィルス、インフルエンザワクチンの期限内接種を促した。						
	2) COVID-19 感染症に対する対策として、健康観察票・行動記録票を配布し、発熱等の有症状の学生の把握と対応を行った。						
	3) 感染症リスクに対する学生の自覚を促すとともに、発熱等の症状のある学生の把握や対応を行うため、チューターを通じて健康観察票・行動記録票のデータを配布した。						
	6. (学生からの要望に対する対応) 意見箱の運用、懇談会の実施						
	意見箱：月1回の開箱とした。						
	各学年の総代・副総代に依頼して学生からの意見を集約した。						
	7. (学生自治) 学生が自ら話し合い、学生生活の問題を解決していくことの支援、学友会役員選考支援、謝恩会準備の支援						
	1) 今般のCOVID-19による感染状況と学生の希望にて謝恩会は開催せず、学生自治に関する会も開催されなかった。						
	2) 学友会役員は各学年の立候補者から選抜した。						

活動概要	<p><b>8. (新入生合同研修)</b> 新入生学外合宿から新入生合同研修に名称を変更した。 大学統合に伴い、薬学部の新入生も交えて3学部合同プログラムを実施し評価した。</p> <p><b>9. ホームページの内容の充実</b> ホームページを改変した。</p> <p><b>10. 学習環境の整備</b> 健康管理について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) PA会助成により非接触アルコール消毒液を設置した。</li> <li>2) 非接触型体温計を設置した。</li> <li>3) 保健管理室、実習委員会と連携してインフルエンザ、新型コロナウイルスワクチン接種、PCR検査を行った。</li> </ol> <p><b>11. 正課外活動ポートフォリオの充実</b> 正課外活動ポートフォリオ作成・入力に関する学生への周知を前期・後期に実施した。</p> <p><b>12. 学部との連絡会議</b> 3学部との連絡会議に出席した。</p> <p><b>13. 感染予防対策</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康観察票・行動記録票：日々の健康状態や行動の記録がつけられるよう、健康観察票・行動記録票の作成とMoodleへのデータアップロードを行った。チユーターとの連絡を通じて、学生の健康管理を支援した。</li> <li>2) 学内の環境整備：感染予防行動を促すポスターや案内表示の掲示、昼食時の教室の管理等を行った。</li> </ol> <p><b>14. その他（学外研修会、障がい学生関連、懲戒規程関連、学籍移動、学生生活ガイド」修正、大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学外研修会：オンラインセミナー1件に参加し、学科会議で伝達講習を行った。</li> <li>2) 障がい学生関連：現支援システムの活用</li> <li>3) SNS、学割などの適切な使用に関して情報提供と具体的な取り扱いに関して随時周知</li> <li>4) 懲戒規程関連：懲戒規程の内容を周知した。</li> <li>5) 学籍移動について：学籍移動対応した。</li> <li>6) 学生生活ガイド」修正：「学生生活ガイド」を見直した。</li> <li>7) 大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価： 3学部との連携により、2020,2021年度大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価報告書を作成した。 2020,2021年度学生生活支援センター各種行事等のPDCAシートを作成した。</li> </ol>
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 総代・副総代との連絡会 新型コロナウイルス感染状況をみて総代・副総代を決定した。 総代連絡会は、新型コロナウイルス感染対策のため開催せず⇒後期の意見懇談会と合併して実施した。</li> </ol>

評価	<p>2) (チューター制度) チューターが活動しやすい、学生が相談しやすい環境作り（継続）</p> <p>昨年度から引き続き感染症対策として、学生の登校が大幅に制限されている状況下で例年と異なる関わり方が必要となっていた。しかし年度末に行ったチューター活動に関するアンケートの結果からは、9割以上の教員が1年間を通じて学生と定期的もしくは必要に応じて連絡をとり、面談を行うなどして積極的なコミュニケーションを取っていた。しかし今後も学生とチューターとの対面でのコミュニケーションがとりにくくい状況が続き、新たな課題が出てくることも予想される。今後も学生が相談しやすく、教員にもとっても負担の少ないチューター制度を整えていくが必要である。</p> <p>アンケートの結果をもとに、効果的な学生への支援とチューター教員への負担軽減ができるよう「チューター制度に関する指針」の見直しを行った。</p> <p>3) 学勢調査</p> <p>1-4年の回収率は90.98%であった。</p> <p>4) 奨学金支援</p> <p>希望学生はほぼ全員受給できた。対象学生3名の面談を行い全員適格であった。</p> <p>5) (健康管理) 保健管理室との連携ができた。</p> <p>6) (学生からの要望に対する対応) 意見箱の運用、懇談会の実施</p> <p>46件の要望が提出され、内15件は講義や成績評価等に関する内容であったことから、教育センターと情報共有し回答を得た。意見の内容と回答は、2022年1月に学生向けに掲示を行った。</p> <p>7) (学生自治) 学生が自ら話し合い、学生生活の問題を解決していくことの支援、学友会役員選考支援、謝恩会準備の支援</p> <p>学友会役員は各学年の立候補者から選抜した。</p> <p>今般の感染状況と学生の希望にて謝恩会は開催しなかった。</p> <p>8) (新入生合同研修)</p> <p>COVID-19の影響により、Webexを用いて全面遠隔で実施した。実施中に接続不良等により参加継続が困難な学生もいたが、最終的には全員出席しプログラムを終了することができた。</p> <p>9) ホームページの内容の充実</p> <p>COVID-19感染症の状況に応じて「コロナ基本方針・行動指針」「コロナに負けるな」を随時HPに掲示した。また、コロナ禍でイベントが中止される中、7月には七夕飾りを設置し、学生たちの様子をHPに掲載した。</p> <p>10) 学習環境の整備</p> <p>非接触型体温計と非接触アルコール消毒液を組み合わせて設置し、学生および来校者に活用できた。</p> <p>11) 正課外活動ポートフォリオの充実</p> <p>正課外活動ポートフォリオ作成・入力に関する学生への周知を前期・後期に実施した。合計293名の入力があった。内訳は、1年生81名(87.1%)、2年生55名(60.4%)、3年生80名(95.2%)、4年生77名(93.9%)であった。4年間を通して</p>
----	---

評価	<p>て入力のない学生には直接入力を促した。</p> <p>12) 3学部連絡会議 定例会議によって、3学部の学生生活支援に関する情報共有と合同の行事や学友会の運営を円滑に行うことができ連携できた。</p> <p>13) 感染予防対策 健康観察票・行動記録票の作成と配布や、データとしてMoodleへのアップロードを行うことで、学生の健康管理を適切に支援することができたと考える。また、学内の環境整備によって、学生の感染予防行動を促すことができた。 昼食時の感染予防行動（間隔を開けて指定席に座る、黙食など）については、適宜ラウンドや声掛けを行うことで意識付けすることができた。</p> <p>14) その他（学外研修会、障がい学生関連、懲戒規程関連、学籍移動、学生生活ガイド」修正、大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価） 学外研修会：オンラインセミナーに参加した（日本学生支援機構 令和3年度学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー）。学科会議で周知した。 障がい学生関連：対象学生は、1年生1名、2年生1名、3年生2名であり、前期・後期において開催された7回の障がい学生支援委員会へ出席した。 各学年のガイダンス時周知した。 懲戒規程関連：各学年のガイダンス時周知した。 懲戒規程関連学生はなかった。 学籍移動について：退学（4名）、休学（5名）、除籍1名であった（3月末）。チューターが窓口になり、関係諸機関とも連携を取り対応した。 学生生活ガイド修正：障がい学生支援内容など追加した。 大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価：点検評価を行った。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>1) 総代・副総代との連絡会 4～5月において総代・副総代を決定する。 総代連絡会は、新型コロナウイルス感染状況をみて開催する。</p> <p>2) （チューター制度）チューターが活動しやすい、学生が相談しやすい環境作り チューター活動に関するアンケートの結果から、本年度のチューター制度への負担感について、昨年度に比べて増していた。特に前年度と異なる点として、健康問題についての相談件数が増える傾向が見られたが、新型コロナウイルス感染症との関連が考えられる。さらに近年の傾向として、学生それぞれの多様な背景を踏まえた関わりや、心理的な問題についての支援が求められている。次年度以降も学生の相談に幅広く対応していく必要があり、センターとしてチューター教員を支援する必要がある。昨年度から導入した「支援が必要と考えられる学生に関する情報のフローチャート」についての認知度は上昇しており、さらに本年度「チューター制度に関する指針」の修正を開始して、周知に向けた検討を進めている。今後はこれらの指針や支援体制がチューター教員の活動に役立てられているかの評価が必要であると考える。</p>
----	---

評価	<p>チューター活動に関するアンケートの結果から分かったこととして、コロナ禍で学生との直接的なコミュニケーションが取りづらい状況は続いているが、ほとんどの教員が年間を通じて学生と相互連絡し面談を行うなどコミュニケーションを保つよう試みていた。例年と異なる状況下でも、教員は授業や実習、生活面などに関するきめ細やかな指導ができていた一方、チューター制度への負担感は高まり続けている。「チューター制度に関する指針」の認知度は上がっており、実際に活用して学生支援に役立てているケースも増えているが、学生それぞれの多様な背景を踏まえた関わりや、心理的な問題や家庭状況も含めた複雑な支援が求められている現状がある。今後は指針の内容を見直し、チューターの役割の整理、チューターが相談できる窓口の明確化や、新任教員に対する入職時のオリエンテーションなど、現状に即したさらなるプラッシュアップが必要であると考えられる。</p> <p>3) (学勢調査)</p> <p>4年生は、Zoom を併用したため他学年と比較し入力率は低かった。90%以上の回収率を得るためにには、複数回の案内かつ未回答者が回答できる状況の設定などが必要であり、次年度は授業時間の合間での入力ではなく、入力時間を別途既定で設けるなどアナウンスの方法を検討する必要がある。</p> <p>4) (奨学金) 特別奨学金貸与規定変更に伴う毎年の適格審査の貸与基準の修正 募集の周知と希望学生が受給できるよう、募集説明会、選考、手続きを行う。 適格審査次年度も継続する。</p> <p>5) (健康管理) 保健管理室との連携の一層の緊密化（継続） 引き続き活用してもらう。 期限内の予防接種を促す。 コロナ禍などのメンタルヘルスへの影響について、保健管理室の分析結果をふまえ、対応が必要である。</p> <p>6) (学生からの要望に対する対応) 意見箱の運用、懇談会の実施 懇談会の開催方法については次年度以降も検討し、学生が意見を出しやすいように方法を整備していく。 学生の希望に沿って、学友会役員は各学年の立候補者から選抜し、謝恩会の開催・準備に当たっては学生の意思決定を支援する。</p> <p>7) (新入生合同研修) アンケートの結果を踏まえ、次年度の変更点として、①新入生合同研修に名称を変更、②通信環境が不安定であったことから、システム業者に依頼、③卒業生による講演企画④機関別認証評価に対応した学生の意識変化を捉えたアンケート内容の見直し等を行い、4月の2日間、Zoom による全面遠隔で実施する。</p> <p>8) ホームページの内容の充実 引き続き HP を通じて COVID-19 感染症の状況に応じた感染対策の情報を発信する。 学生のメンタルヘルス向上に向けて明るいニュースを HP に随時掲載していく。</p>
----	--

評価	<p>9) 学習環境の整備 引き続き活用してもらう. 滞りなく予防接種、検査を促す.</p> <p>10) 正課外活動ポートフォリオの充実 正課外活動ポートフォリオ作成・入力に関する学生への周知を前期・後期に実施する.</p> <p>11) 3学部連絡会議 情報共有し、連携する.</p> <p>12) 感染予防対策 次年度以降の感染状況を踏まえ、引き続き学生の健康管理の促進と環境整備を行っていく.</p> <p>13) その他（学外研修会、障がい学生関連、懲戒規程関連、学籍移動、学生生活ガイド」修正、大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価） 学外研修会：次年度も内容確認し、積極的に参加、共有する. 障がい学生関連：隨時開催される障がい学生委員会出席し対象学生の支援策を検討する. 懲戒規程関連：学生・教員に予防の必要性について繰り返し周知する. 移動について：規程に沿って速やかに対応する. 「学生生活ガイド」修正：洗練する. 大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価：明らかとなった各課題に対応する。2022年度版も速やかに作成する.</p>
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. チューターが安心して活動できるような環境、学生が相談しやすいような環境を整備する。</li> <li>2. 外部各種団体の奨学金情報をタイムリーに学生に周知し、推薦者の選考に関して、獲得を目指して吟味する。</li> <li>3. 保健管理室と情報共有を図り、コロナ禍対策を含めた学生の感染症等予防対策を強化する。</li> <li>4. 障がいをもつ学生の支援システムの構築が重要な課題であり、講義・演習等における障がいのある学生に対する申し合わせ事項に沿って対応する。</li> <li>5. 学生の自治活動推進のため、学友会活動への参加、新入生合同研修の充実、学年縦割りの交流の機会を設けるなどの運営ができるように支援する。</li> <li>6. 学生が主体的に勉強し、安心して学生生活を送ることができる環境整備を行う。</li> <li>7. 学生が懲戒規程の対象とならないよう対策を教育センターと協力し予防する。</li> <li>8. 大阪医科大学学生支援の方針に基づく点検評価による内部質保証を継続する。</li> </ol>

3) 委員会

委員会名	(1) カリキュラム委員会	SDGs との 関連	
目的	本学部の教育目標の下、カリキュラムの改善のために科目の設定や統合、教育内容、教育評価などの事項についてPDCAを実施する。		
構成員	鈴木久美（委員長）、池西悦子、小林道太郎、宮島多映子、安田稔人、川北敬美、仲下祐美子、竹 明美、川端由夏、中野恵梨子（看護学事務課）		
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ジェネリックスキルテストの実施</li> <li>2) ディプローマポリシーに基づく看護実践能力到達度調査の実施</li> <li>3) ディプローマサプリメントの導入</li> <li>4) アセスメントポリシーに基づいた分析</li> </ol> </li> <li>2. 現行カリキュラムの運営評価の実施             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生を対象とした調査</li> <li>2) 学年目標の運用</li> <li>3) 卒業生を対象とした調査</li> <li>3. 2022年度カリキュラム改正に関する文部科学省申請</li> <li>4. 非常勤教員・兼任教員対象の調査の実施</li> <li>5. 数理・データサイエンス・AIモデルカリキュラムの導入</li> </ol> </li> </ol>		
活動概要	<p>会議は合計9回開催した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ジェネリックスキルテストの実施</li> </ol> <p>対象者（時期）は2021年度生（1年次前期）および2019年度生（3年次末）学生には批判的・協働的・創造的思考力と姿勢・態度、経験の個人結果レポートを活用し在学中の自己分析に役立てた。また自分の強みやアピールポイントを言語化することにより就活に活用を促し、チューターにも面談カルテ（アンケート追加）を配布し、指導の参考とした。学生は1年、3年ともに結果説明の機会を作り、また、教員に対しても9月の学科会議で1年次生の結果の説明会をもち全教員でそれを共有し、教育改善につなげる場とした。IR室と連携して、ジェネリックスキルテストの結果とGPAや実習の成績との関連性を検討する予定である。</p> </li> <li>2) DPに基づいた看護実践能力到達度調査の実施</li> </ol> <p>回答者数（回収率）は、1年生90名（98.9%）、2年生84名（92.3%）、3年生82名（97.6%）、4年生75名（91.5%）であった。昨年同様、全学年ともにDP2課題探求力の達成度が低い傾向にあり、項目8「グローバリゼーション・国際化の動向における看護のあり方について説明できる」は、4年次においても76.0%の達成度と他項目に比較し低かった。本項目を含め、達成学年や表現についての見直しが必要である。同一集団の達成度を縦断的に検討したところ、学年進行に伴い達成度が上がっていた。特に、2から3年生において、DP3専門職としての実践力およびDP4多職種と連携する力の伸び率が高く、半年にわたる領域別実習の効果が強いと考えられた。</p>		

## 活動概要

### 3) ディプローマサプリメントの導入

各学年の DP 達成度を自己評価と客観的評価の両面から可視化する帳票（以下、ディプロマサプリメント）を導入した。客観的評価は、現行科目の該当する DP を確認し、科目成績に基づいた DP 達成度を算出し、自己評価・当年度 GPA・通算 GPA の学年平均と個人の結果をレーダーチャートで表示した。新年度に入ってから学生個々にフィードバックし、達成度と課題を確認するように促す。

### 4) アセスメントポリシーに基づいた分析

2020 年度および 2021 年度前期の成績について IR 室に分析を依頼し、解析結果をアセスメントポリシーに沿って 3 ポリシーの検証を行い、報告書にまとめた。解析結果は教育センターと共有し、科目間の成績の平準化をめざして授業改善につなげた。報告書については教授会や学科会議で教員に周知し共有した。また、学部間協議会に起案して協議を依頼し、教育改善のための PDCA につなげた。

## 2. 現行カリキュラムの運営評価の実施

### 1) 学生を対象とした調査

1・3 年生の総代・副総代に、現行カリキュラムに対する評価意見を求めた（2022 年 2 月）。1・3 年生共に現行カリキュラムについておおむね満足しているとの回答であった。具体的には 1 年生では、時間割の配置、科目の構成についても順序性・積み重ねに問題はないとのことであった。試験は、中間試験を設けてあると試験範囲が狭いので深く学習をすることができ、また、期末試験の取り組みに対するモチベーションにもなるとのことであった。要望としては、シラバスの内容と実際が異なるようにしてほしいこと、図表など視覚的に理解できるものの導入、Respon などを利用した単元ごとの確認テスト等があると理解が深まるとのことであった。3 年生では、前期空きコマが少ないと GW をすすめるのが大変だった。実習では、実習時間内に予習や記録の時間があると、援助計画の準備が十分に行えると感じたなどの意見があった。要望としては、看護技術を学ぶモチベーションを持つために 1 年生の実習で患者さんへの援助の実際に関わる時間があると最終的に 3 年生の実習にも生かせると思うとの意見があがった。

### 2) 学年目標の運用

昨年度作成した DP の学年目標は今年度から運用している。学年目標に含まれている言葉が示す意味内容がどの程度理解しやすいか、また、現行カリキュラムに配置されている科目とシラバスに記載した DP の各項目との整合性を確認するために、DP の学年目標の到達に関連していると認識する科目について学生調査を実施した。前期調査（2021 年 7～8 月実施）の学年別回答率は 13.3～42.6%，後期調査（2021 年 12 月～2022 年 3 月実施）は 71.4～98.9% であった。後期調査は UNIPA での調査協力依頼に加えて、履修ガイダンス等で口頭でも依頼を行ったことにより回答率が上昇した。学年目標について、1～3 年生はわかりにくいと感じている学生が一定数いることがわかり、今後の課題として各学年の履修ガイダンスなどの際に、学年目標の意味内容を丁寧に説明する必要性が挙げられた。学年目標と科目の関連は、前期・後期ともに必修科目・選択科目について、いずれの学年においても学生にとって学年目標の達成に関連していることがわかり、現行カリキュラムは DP と科目配置数の偏重はみられないことが確認できた。

	<p><b>3) 卒業生を対象とした調査</b></p> <p>就職支援委員会と共同し、2020年度卒業生および卒業生の就職先に対して、卒業生には在学中の教育内容やキャリアサポートへの満足度、就職先には重要とする看護実践能力や卒業生が入職時に修得できていた能力、本学の教育内容に関する意見等についてのアンケート調査を行った。</p> <p><b>3. 2022年度カリキュラム改正に関する文部科学省申請と準備</b></p> <p>2020年度からのカリキュラム検討を踏まえて申請に必要な書類を看護学事務課と協働して作成し、6月に大阪府教育府私学課に書類を提出、7月に同書類を文部科学省に提出した。その後文部科学省より3点の疑義照会があり対応を行い、1月に教育課程変更申請の承認がなされた。また、2022年度入学生用のカリキュラムマップとカリキュラムツリーを作成し、HPにアップした。</p> <p><b>4. 非常勤教員・兼担教員対象の調査の実施</b></p> <p>非常勤、兼担教員を対象に「看護学部学生の学習に対する姿勢や態度、日頃の学習行動」に関する意見調査を行った(2022年2月)。19名中7名(36.8%)から回答が得られた。学習態度は概ね良好であるが、一部積極性等の課題があった。各科目では双方向のやりとりなどに工夫されているが、オンデマンド等も含めた授業のより効果的な方法についてさらに工夫を続けていく必要がある。</p> <p><b>5. 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの導入</b></p> <p>文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育認定制度(リテラシーレベル)への応募(2022年度)を目指して大阪医科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会が設立され、看護学部(カリキュラム委員会)から委員2名(事務含む)とオブザーバー1名を出した。看護学部では2021年度「情報リテラシー」「統計学」「データ処理演習」の3科目を大阪医科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラムとし、情報をサイトに公開する等の準備を進めた。</p>
<b>評価</b>	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>1) アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握</p> <p>DPに基づいた看護実践能力到達度調査を全学年の学生に行ったこと、またGPAを活用したディプロマサプリメントを導入したことにより、学生が主観的・客観的に学修成果を把握でき、学修の動機付けなることが期待できる。</p> <p>2) 2022年度カリキュラム改正に関する文部科学省申請</p> <p>昨年度のカリキュラム検討の結果を踏まえて申請書の作成が円滑に行え、疑義照会等の質問事項も少なく、かつカリキュラム内容を修正することなく教育課程変更申請が承認された。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>なし</p>
<b>将来に向けた発展方策・課題</b>	<p>1. アセスメントポリシーに基づいた3ポリシーの検証と教育改善への活用</p> <p>2. 教育センターとの共同による2022年度看護学教育評価の受審準備</p> <p>3. ディプロマサプリメントの活用と充実</p> <p>4. eポートフォリオの導入計画</p>

センター名	(2) カリキュラム評価委員会	SDGs との 関連	
目的	本学看護学教育カリキュラムについて継続的に評価することであり、委員に複数の学外有識者および学生を含め多角的に評価を行うことで、自己点検および評価活動に反映させ看護学部教育水準のさらなる向上を目指す。		
構成員	吉田久美子（委員長）、瓜崎貴雄、近澤 幸、川端由夏、橋本千恵子（5月まで）、 北川祐美（10月から）（看護学事務課） 外部委員：瀧谷公隆（医学教育センター）、細田泰子（大阪府立大学大学院看護研究科）、澤田恵津子（高槻市こども未来部こども保健課） 学生委員：中野佑香、祝原美玖		
活動計画	1. 昨年度の振り返り 2. カリキュラムの評価方法の検討と決定 3. カリキュラムに関する評価項目と評価するための資料の検討および決定 4. 外部委員、学生委員、内部委員が共通に使える評価表検討 5. 2020 年度を対象としたカリキュラム評価の実施と意見交換 6. 報告書の作成と公開		
活動概要	1. 内部委員ワーキング会議は計 10 回開催した。昨年度の報告書は HP で公開し教授会等で報告した。 2. 外部委員学生委員を含めた第 1 回カリキュラム評価委員会は、2021 年 9 月 29 日に開催し、評価表の検討・決定を行った。前年度の課題を振り返り、単年度ではなく複数年度で評価することによって、継続した評価ができると考えたため、評価項目、評価基準は昨年度から基本的に継続することとした。その上で今年度は COVID-19 の影響による実習の工夫（学外・学内実習も含む）や学習環境の調整について評価項目や根拠資料を追加した。COVID-19 の影響による学習環境の調整については、大項目 2「環境」の中項目②「ICT の設備が整っている」の小項目として「遠隔授業ができる環境が整っている」を追加した。COVID-19 の影響による実習の工夫（学外・学内実習を含む）については、大項目 3「過程」の中項目①「カリキュラムは計画通り実施されている」に追加した。また、大項目にアドミッショんポリシーの項目を取り入れ、看護学部が求める人材を明確に示した。 3. 2021 年 12 月から 2022 年 1 月にかけて、外部委員、学生委員、内部委員が評価項目に対する評価を行い、2022 年 2 月 4 日に開催した第 2 回カリキュラム評価委員会にて結果を共有しつつ意見交換を行った。委員会は、2 回とも Zoom にて実施した。 4. 今年度実施したカリキュラム評価結果とその総括および今後の課題を報告書にまとめた。本学看護学部教授会にて委員長は報告を行い、本学看護学部教職員と評価結果の共有がなされた。		

評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>1) COVID-19 が与える影響について</p> <p>COVID-19 を受けた各評価において、COVID-19 の影響を受けた段階ごとにその都度対応を実施していることが記載され、COVID-19 の影響を加味した評価を実施できていた。</p> <p>2) 大項目にアドミッションポリシーの項目を取り入れたことで、外部委員からも看護学部が求める人材が明確になったと評価された。</p> <p>3) 外部委員、学生委員、内部委員で評価項目について意見交換がされ、本学の課題が明確になった。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>1) 社会人としての資質・国際的視点について</p> <p>社会人としての資質・国際的視点に関して高めることが必要であると、課題として認識はされているが、どのように改善するか具体的な対策が必要である。今年度 3 年目を迎えたジェネリックスキルテストの結果を活用するなどを具体的な対策が必要である。</p> <p>2) 年報とカリキュラム評価について</p> <p>本学が作成する年報には、各センターや委員会組織が PDCA を報告している。カリキュラム評価と年報を協働する事で、より具体的な評価方法となる事から年報への記載する事を継続的に実施できる。</p> <p>3) 学生への発信力について</p> <p>学生委員より、大学側の教育環境改善への取り組みや工夫を学生に発信する事が、学生のアンケート回収率の増加につながるのでないか、との意見があった。また大学側も「学生とともに考える」ことを意識し、学生が積極的に意見を言える場を作っていく必要がある。「学生（あなた）の意見が大学を変える。」という大学側の思いや発信力、発信方法について今後の検討課題としたい。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>1. COVID-19 を受けた各評価において、今後、教育手法（オンデマンド化）が導入される等、教育環境の変化を迎えることも想定されるため、その都度記録に記すことの必要性が確認された。</p> <p>2. 学生への発信力について</p> <p>学生は大学側の教育環境改善への取り組みや工夫を知らないことが多い。大学は、「学習環境を学生とともに考える」ことを意識し、積極的に学生に発信し、学生が積極的に意見を言える場を作っていく必要がある。「学生（あなた）の意見が大学を変える」という大学側の思いや発信力、発信方法について今後の検討課題である。</p> <p>3. 大学統合により、外部委員に薬学部の教員の参画を検討する。</p>

委員会名	(3) 実習委員会	SDGs との 関連			
目的	看護学実習に関する事項（年間計画の立案、実習要綱の作成、実習連絡協議会の企画・運営、予算案作成、インシデント等に関する検討など）の調整をする。				
構成員	池西悦子（委員長）、仲下祐美子、山崎 歩、二宮早苗、樋上容子、近澤 幸、山内彩香、大橋尚弘、土井智生、柴田佳純、勝山あづさ、北川祐美（看護学事務課）				
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習連絡協議会の企画、運営</li> <li>2. 実習オリエンテーションの企画、運営</li> <li>3. 看護学実習要綱（共通事項）、各実習要項の修正と取り纏め</li> <li>4. 臨地実習における合理的配慮が必要な学生への支援</li> <li>5. 領域別実習のグループ編成、看護学実習に関する調整、年間計画の立案</li> <li>6. 実習状況に関する情報共有</li> <li>7. 委員会 FD の実施（委員会内、臨地実習指導者・教員対象）</li> <li>8. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と今後の対策の検討</li> <li>9. 実習前の倫理学習に関する学生および教員へのアンケート調査の実施、まとめ</li> <li>10. 感染症対策（ワクチン接種状況、感染予防等、COVID-19）に関する調整</li> <li>11. 実習調整・対応</li> <li>12. 実習指導者に関する申し合わせ事項作成</li> </ol>				
活動概要	<p><b>1. 委員会の開催：</b>12回の委員会を開催した。</p> <p><b>2. 実習連絡協議会の企画、運営</b></p> <p>今年度は COVID-19 感染拡大を鑑みて、第 I 部の全体会議はオンラインで、第 II 部の分科会は小規模の対面形式で開催した。全体会議は実習指導者等 45 名と教員 29 名、分科会（5 領域）は実習指導者等 32 名と教員 20 名がそれぞれ参加した。全体会議では実習委員会で作成した実習指導のリフレクションシートの紹介や実習委員会 FD 報告も行い、実習指導者の質疑に応答した。</p> <p><b>3. オリエンテーションの企画、運営</b></p> <p>1~3 年生の実習オリエンテーションを開催した。いずれの学年においても、実習における倫理、個人情報保護、健康管理・COVID-19 感染対策、実習におけるハラスメントの相談窓口について説明した。実習における倫理については、感染対策を講じたグループワークを実施し、グループ発表によって共有を図った。</p> <p><b>4. 実習要綱等の作成</b></p> <p>2022 年度看護学実習要綱（共通事項）、各領域別実習要項、統合看護学実習要項を作成した。要綱作成においては、2021 年度の大学統合による名称変更・規定の見直し、新カリキュラムにおける実習概要・展開予定の併記、新たに作成した「資料 6 実習におけるハラスメントの防止と相談窓口について」の取り決め事項、「資料 7 障がいのある学生への支援について」を追加した。</p> <p><b>5. 的配慮が必要な学生への支援</b></p> <p>2021 年度申請のあった学生 2 名に対し、看護学部障がい学生支援委員会の基本</p>				

活動概要	<p>方針に則り、各領域特性を踏まえた支援計画を作成し対応した。当該学生は問題なく実習を終了した。</p> <p><b>6. 実習グループの編成等</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老年 I ・基礎 II 実習、領域実習グループ編成：全実習共通で COVID-19 ワクチン未接種者の偏りがないよう学生を配置した。老年 I ・基礎 II 実習については、実習間隔や学習効果を考慮して同一グループとなるように両領域で調整を図り、作成した。領域実習については、4 年生 4 名は国家試験対策に影響の少ない時期に配置し、合理的配慮申請者 1 名に対し身体的負担の少ないサイクルで各実習を回れるグループに配置した。</li> <li>2) 実習に伴う教室利用の計画・調整：教育センター・学生生活支援センターと協働し、実習に関わる教室使用や昼食場所の調整を行った。4 年生では、統合実習における学生の動向調査に基づく教室や休憩室の配置を行った。3 年生では、後期日程からの教室利用の指針の変更に伴い、急遽 7 月末に改定版の作成を行い、3 年生は 1 教室（講義室 5）を休憩場所として利用し、講義室 4 やそれ以外の教室にて実践と理論の統合と学内実習が行えるように調整を行った。COVID-19 の感染状況により追実習（3 月）の学生が多く発生したため、追実習用の休憩室・学内実習の部屋の調整も行った。</li> <li>3) 2022 年度実習計画表：大学病院の新病棟移転に伴い、各領域の実習病棟の調整を図った上で、2022 年度実習計画表、および大学病院実習計画表を作成した。</li> <li>4) 2023 年度実習計画：2021 年度入学生が 90 名を超えたため、2023 年度領域別実習グループ数について実習計画ワーキンググループ(以下、WG)を設置し検討した。その結果、2022 年度と同様に 8 グループ編成となった。また、在宅実習を 2G 単位とし、実習期間を 1 週早めることで実習期間の短縮および 2 月中旬に終了する実習計画案を作成した。</li> <li>5) 2025 年度以降の実習計画：WG において、2022 年度改正カリキュラムを 2 年間評価した後、2025 年度以降の実習計画の変更を検討・申請することになった。変更案では領域別実習を全領域 2 単位とし、2 年生夏に老年実習 1 単位と 3 年生前期に看護過程のアセスメント力を強化する実習 2 単位を配置することで合意した。引き続き新たに配置する実習計画について委員会で検討する。</li> </ol> <p><b>7. 実習状況に関する情報共有：</b>実習における気になる学生の情報に関して、会議時の口頭での共有だけでは学生の状況や行った指導、その後の変化などを把握しづらいという課題があった。これに対し、学生の情報共有シート案を作成し、2022 年度より実習委員会内で試験的に運用していく。</p> <p><b>8. 委員会 FD 実施：</b>今年度は計 2 回の FD を開催した。第 1 回は、大阪医科大学病院看護部と実習委員会共同企画として 7 月 13 日に「看護におけるリフレクションとその活用」をテーマとして 60 分のハイブリッド開催で実施した。当日は、病院看護部 51 名（医科薬科 41 名、三島南 8 名、訪問看護 2 名）教員 21 名の計 72 名の参加がみられた。第 2 回は、実習委員 10 名を対象に実習指導事例の検討会を 10 月 6 日に実施した。検討会をとおして、領域を超えた多様な視点で</p>
------	---

活動概要	<p>の学生への対応・教育指導方法を教員相互に学ぶことが出来たとのアンケート評価がみられていた。併せて、今年度は、2022年3月7日に本学教員と臨床指導者を対象として、「昨今の学生の特徴を踏まえた指導者と教員の連携」をテーマにFDを企画・予定していたが、COVID-19感染拡大により次年度へ延期となった。</p> <p><b>9. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と対策</b></p> <p>中間（12月）・最終（3月）で分析し、共有した。学生のインシデントは計12件（昨年度12件）、アクシデントは1件、教員のインシデントは1件であった。学生のインシデントは、実習記録の不適切な取り扱いが5件（不適切なメモ帳の使用：1件、実習記録の置き忘れ：4件）で最も多かった。アクシデントは、健康状態の報告遅延であった。教員のインシデントは記録物の不適切な取り扱い（フリーシートの紛失）であった。</p> <p><b>10. 倫理学習に関するアンケート調査</b></p> <p>1) 学生対象調査（3年生）：実施直後の調査結果では、9割以上が「とても参考になった」「参考になった」と答えていた。良かった点は「様々な事例を用いて考えることができた」「話し合いにより、多様な観点に気づけた」などであった。領域実習後の2月末に実施した調査の結果では、9割近くの学生が倫理に関するグループワークでの学びが役だったと回答した。事例を用いたグループワークを実施したこと、カンファレンスやグループワークで学びが深まっていた。</p> <p>2) 教員対象調査は、領域実習終了後の2月末に実施した。「実習前の演習で、何が倫理なのかを考える機会になる」「領域別実習開始前に、学生が倫理に関して考える機会があることは有意義だと思う」など一定の評価が得られた。今後取り上げたい事例として、「医療者・学生の態度に関する事例」「ハラスメントに関する事例」などが挙げられた。その他、時間配分や事例数などグループワークの運営に関する意見があった。</p> <p><b>11. 感染症対策（ワクチン接種状況、感染予防等、COVID-19）に関する調整</b></p> <p>「看護学実習における感染症への対応について」を改訂し、保健管理室閉室時の判断および教員への報告方法を追記し周知した。</p> <p><b>12. 実習依頼・調整：</b>2022年度実習計画策定・実習依頼は、主たる実習施設である大学病院の病棟移転に伴い実習病棟の変更・調整の上確定した。感染症対策は、「実習における新型コロナウイルス感染症への対応 2021年度改訂版」を作成し対応した。実習期間中は、各クールで実習前検査の実施、学生の体調に関する校医・保健管理室への相談、感染症による実習受入れ中止時の施設・病棟変更等の調整を行い、学生への不利益が生じることなく臨地実習が実施できた。</p> <p><b>13. 実習指導者に関する申し合わせ事項作成：</b>看護学教育評価自己点検・評価報告書の作成に際し、臨地実習における実習指導者の選任基準を定めた実習指導者に関する申し合わせ事項を作成した。今後、臨地実習の充実を図り、実習指導の質を保証するために活用する。</p>
------	--

評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>実習連絡協議会について、昨年度は本学の感染対策方針に基づき対面開催を中止し書面開催としたが、今年度は全面オンラインで開催した。そのことで多数の実習指導者および遠方の実習地の指導者の参加があり、実習に関する一層の理解を得て、円滑な臨地実習に繋げることができた。</p> <p>大学病院看護部と連携をとり、感染症への対応方針の作成と、それに基づいた実習調整により、学生への不利益が生じることなく臨地実習を実施できた。</p> <p>学生生活支援センターと連携し、健康管理や教室を調整したことにより、感染者リスクが軽減できた。</p> <p>教員・実習指導者を含めた FD を開催し、多様な視点での学生への対応・教育指導方法を学ぶことが出来た。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>記録の取り扱いに関するインシデントが多いため、記録物を必ず綴じて扱うように指導を強化する。COVID-19 に関連する健康状態の報告遅延は、実習施設への影響が甚大となることから、重大性についての指導を強化する。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習指導者対象の FD を定期的に実施し、実習指導能力の向上に努め、成果を評価する。</li> <li>2. 2022 年度改正カリキュラムの成果を評価し、2025 年度以降の実習計画変更に活かす。</li> </ol>

委員会名	(4) ウェブサイト委員会	SDGs との 関連	
目的	看護学部のウェブサイトを円滑に管理運用する。		
構成員	久保田正和（委員長），土手友太郎，土井智生，川上将弘，田中佑美（オブザーバー），企画広報課，松田久美，田中庸介（大学院委員会），草野恵美子		
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護学部教員・各領域に関する情報更新</li> <li>2. 学部長あいさつ，トップページ写真等の更新</li> <li>3. 各センター・委員会関連ページの更新・充実</li> <li>4. 看護学部年報，看護研究雑誌の最新号掲載</li> <li>5. その他必要な更新および情報公開（随時）</li> <li>6. Web サイトの評価</li> </ol>		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会（11回）を開催し，サイト更新に関する検討・準備と確認を行った.</li> <li>2. サイト更新 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 教員一覧，教員情報，教員からのメッセージ，領域ページの更新，2) 学部長あいさつの更新，3) 3センターのサイトの更新，国家試験情報，就職・進路状況の更新，4) 2020 年度看護学部年報，看護研究雑誌第 11 卷掲載，5) 各種告知事項，実施報告等の更新，6) タイトル画像の見直し，7) Web 写真等の変更および追加.</li> </ul> </li> <li>3. 各部署からの活動情報更新依頼の手順を示し，本委員会の代表メールアドレスを作成した (website-n@ompu.ac.jp).</li> <li>4. 看護学部広報委員会と協力して，受験生を対象に HP 内容についてのアンケート調査を行った.</li> <li>5. 2022 年度からの看護学部領域再編に伴い，新 HP における領域，分野名のページ案を作成した.</li> <li>6. 小規模オープンキャンパスの場を活用し，来場者から本学ホームページに関する意見を，オンラインアンケートを用いて確認した.</li> </ol>		
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>学科会議にて各領域，委員会等に更新手順を周知したことによりスムーズな更新作業が可能となった. また，企画・広報課および大学院委員会草野先生の参加により関連活動の連携ができた. 看護学部広報委員会と本委員会委員長の兼任による広報活動の統括化，Web サイトの評価（アンケート調査）ができた. 実際の病棟実習風景の撮影と学生の感想と指導教員のコメントを取り，リアル感の高いコンテンツが作成できた.</p> <p><b>2. 改善すべき点</b></p> <p>活動 6 の結果から受験生サイトを充実させる必要性が明確になったため，広報委員会と連携を図り，より見やすい HP へと修正する必要がある. Web サイトの評価については次年度の入学生にアンケート調査を行い，より詳細な評価を行う.</p>		
将来に向けた発展方策・課題	Web サイト作成に関する技術的ノウハウの継承をする. 新年度に向け，更新すべきコンテンツの確認を行う. 受験生や学生にアンケート調査を行い，学生が求めるコンテンツの検討を行う.		

センター名	(5) 看護研究雑誌編集委員会	SDGs との 関連	
目的	大阪医科大学看護学部および大阪医科大学大学院看護学研究科の教員と学生が、その研究業績を発表する雑誌である「大阪医科大学看護研究雑誌」の論文受稿、査読、編集、出版等に係る業務を行う。		
構成員	宮島多映子（委員長）、池西悦子、瓜崎貴雄、寺口佐與子		
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第 11 卷のホームページへの掲載</li> <li>2. 第 12 卷発行と投稿への働きかけ</li> <li>3. 査読システムに関する評価と今後の在り方検討</li> <li>4. 転載許諾申請時に対応の検討</li> </ol>		
活動概要	<p>1. 編集委員会は、2021 年 5/24, 8/26, 9/1, 11/2, 11/24, 12/13, 12/22, 2022 年 1/6, 1/17, 3/8, 3/15 の 11 回実施した。</p> <p>2. 第 11 卷をホームページに掲載した。</p> <p>3. 第 12 卷の発行</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学統合後初めての発行となるため、雑誌名・表紙レイアウト・大学ロゴの改定を行った。</li> <li>2) 投稿方法を紙媒体から電子投稿へと変更し、投稿規定を改定した。</li> <li>3) 第 12 卷発行に向けて、論文の募集、査読者の選出、査読結果を踏まえた採否の決定、修正論文の再査読を踏まえての採否決定、採択論文の校正、雑誌全体の校正等の作業を行った。</li> <li>4) 論文の応募は 24 編で、取り下げが 9 編、掲載不可が 1 編あったため、計 14 編（総説 1 編、原著論文 2 編、研究報告 1 編、実践報告 1 編、資料 9 編）を掲載した。</li> </ol> <p>4. 転載許諾申請が 1 件あり、「学会誌の転載許諾基準および転載の許諾申請方法の申し合わせ事項」、および必要書類を作成した。</p>		
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b>      本年より電子投稿を導入し、原稿送付の時間の短縮、スピーディな投稿、査読、掲載が可能となった。      転載許諾申請に係る申し合わせ事項を作成したこと、今後申請に対して短期間での証明書発行が可能となった。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b>      電子投稿に移行したため、投稿規定の変更内容の周知が十分でない点があった。      編集委員会で本雑誌の目的に沿った原稿であるか、倫理的配慮がなされているかについて、査読者と編集委員会の役割分担を明確にする必要性がある。      投稿数が多い場合の査読者の確保について検討が必要である。</p>		
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 投稿論文の倫理的配慮についての確認方法や役割を検討し、著者および査読者への負担を軽減する。</li> <li>2. 多くの教員と大学院生が論文の投稿と掲載が可能な体制づくり。</li> </ol>		

委員会名	(6) 予算委員会	SDGsとの 関連	
目的	看護学部における適正な年間予算案を要望することを目的とする。		
構成員	赤澤千春（学部長）、鈴木久美（教育センター長）、池西悦子（実習委員会委員長）、津田泰宏（教授）、武田千賀、森川健太（看護学事務課）		
活動計画	<p>各部署等より提出された予算案を基に作成された2021年度看護学部予算案の審議を行い、教授会で承認を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の教育、学生の実習に係る備品等</li> <li>2. 各センターおよび各委員会に係る活動費</li> <li>3. 教員の研修等に係る活動費</li> <li>4. 教員の交通費</li> <li>5. 実習補助員に係る諸経費</li> <li>6. 看護学事務課に係る諸経費</li> <li>7. その他、学部長が必要と認めたもの</li> </ol>		
活動概要	<p>予算案を作成するために、看護学部に係る全体的な予算ができるだけ削減するよう努め、2021年度には看護学部として以下の新規購入を要望した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 7分解消化器系模型（物品管理委員会）</li> <li>2. 脳神経系模型（物品管理委員会）</li> <li>3. 新生児モデル（母性看護学・助産学）</li> <li>4. 看護学部における臨地実習に伴うPCR検査実施（看護学部）</li> <li>5. 口腔ケアモデル アドバンスド（基礎看護学）</li> <li>6. 万能型看護実習モデル 八重（基礎看護学）</li> <li>7. ステンレス製ピッチャー（基礎看護学）</li> <li>8. 看護学部 情報分析基盤活用（教務）学修成果等の可視化にかかる機能追加について（第3期）（看護学部）</li> <li>9. 看護学部北キャンパス演習室への電子ボード（ミーティングボード）導入（看護学部）</li> <li>10. 看護学部北キャンパス講義室への黒板投影用リモートカメラシステム導入（看護学部）</li> <li>11. 医用電子血圧計 エレマーノ 2 ES-H56、リットマン 教育用聴診器 Classic II SE タイプ 2138 二人用ステートの購入（教育センター）</li> <li>12. 看護学部北キャンパス講義室 3 PC 教室の PC・デスク増台（看護学部）</li> <li>13. 教務システム統合およびアップグレード調査業務（看護学部）</li> <li>14. DX設備を活用したシミュレーション教育のできる実習室の設置費用（看護学部）</li> </ol>		
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b> 経年劣化が進んでいる物品等について、修理や買い替え等の適切な処置を適宜実施している。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b> 今後、中長期的に設備や備品についての修繕等を見据えた計画的な予算の検討が必要である。</p>		
将来に向けた発展方策・課題	2021年度予算の執行状況を確認しながら、看護学部の今後を見据えた適正な予算要望を検討することが重要である。		

委員会名	(7) 物品管理委員会	SDGs との 関連	
目的	講義・演習を円滑に進めるため、授業に関する物品の維持および管理、物品に関する情報収集と学部内教員への発信、その他物品管理に関する事項を行う。		
構成員	竹村淳子（委員長）、川北敬美、倉橋理香、榎木佐知子、武田千賀、森川健太（看護学事務課）		
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検</li> <li>2. 教務関係備品の貸し出し管理</li> <li>3. 実習室、器材庫、実験室等の整備</li> <li>4. 経年劣化による物品の確認および修理・購入の必要性を検討</li> <li>5. 各種申し合わせ事項の見直しと改正</li> <li>6. COVID-19 感染拡大に伴う定数（備蓄）の見直し</li> <li>7. 2022 年度教務関係物品購入予算案の作成</li> </ol>		
活動概要	<p><b>1. 委員会開催</b>      2021 年 4 月～2021 年 3 月に計 9 回の委員会を開催した。</p> <p><b>2. 教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検および購入</b></p> <p>1) 実習で使用する物品の予算計上の取り決め</p> <p>COVID-19 感染症の流行により必要となったマスクは、購買・物流課より 10,000 枚程度のマスクを無償提供していただけたことになり、新たな発注は行わなかった。マスクの必要数は、領域によって異なるため、次年度以降はマスクに限らず、実習で必要とする物品は各領域が予算計上することになった。よって、消耗品の定数は現状を維持することになった。</p> <p>2) 定期点検と購入物品について</p> <p>(1) 定期点検</p> <p>モデル・シミュレーター（京都科学、坂本モデル、高研）の点検について、各領域物品管理係に確認し実施した。共通物品は、車椅子点検とベッド点検を実施。その他、体圧分布測定装置、分娩台、チャーリー（産科シミュレーショントレナー 1～5）、呼吸音聴診シミュレーター、CPU 実習ユニットの点検を実施。その結果、陰部モデル、胎盤モデルの修理を実施。</p> <p>点検年度申し合わせ物品では、車椅子：3 台修理・1 台購入、ベッド：1 台修理不能のため購入予定となった。物品の点検・修理の実施状況は、物品管理係「修理」のフォルダにまとめて保管することになった。</p> <p>(2) 各領域の備品・消耗品点検について</p> <p>各領域の備品・消耗品の点検を物品管理係に依頼（2 月中）。</p> <p>共通物品の備品・消耗品の点検を 2 月 24 日に実施。</p> <p>(3) 看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの一部改正（令和 2 年 10 月 30 日付）に伴う物品の確認</p>		

活動概要	<p>上記により看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン別表 7, 8, 9に基づき確認作業を行った。ガイドラインの改正箇所を確認し、台帳を修正した。改訂に伴い、不足している物品等の確認を行い、新たに購入すべき物品はないことを確認した。</p> <p>(4) 経年劣化による物品の確認および修理・購入の検討</p> <p>各領域が使用している物品の劣化状況と今後の使用予定を調査し、指定規則上保有すべき物品とのすり合わせを行い、筋注シミュレーター、心電計等 18 点を廃棄処理した。廃棄品目のデータは、物品管理委員会フォルダ内に格納した。</p> <p>物品台帳に記載がなかった人骨標本については、今後の使用予定を確認し、一部を共通棚に残して適切に廃棄した。</p> <p><b>3. 実習室、器材庫、実験室等の整備</b></p> <p>定期的な清掃およびリネン類のクリーニングの実施を行った。リネン類は演習等、教育で使用したもののみを管理した。</p> <p><b>4. 各種申し合わせ事項の見直しと改正</b></p> <p>新たに「看護学部実習室およびセルフトレーニングコーナー利用要領」「看護学部の実習室・セルフトレーニングコーナー・物品の使用要領」について策定を行った。</p> <p><b>5. 2022 年度教務関係物品購入予算</b></p> <p>各種人体モデルのうち、破損等によって状態が劣化しており、かつ保助看法上で必要と規定されているモデルである 7 分解消化器系模型、脳神経系模型について、2022 年度に購入すべく予算申請を行った。また、併せて、2022 年度予算より、これまでの委員会としての予算区分を見直し、より整理のし易い区わけを整備した。</p>
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>1) 教務関係の備品、機材の維持</p> <p>備品、機材および消耗品の管理はシステム化され、各領域の担当者を介して円滑に点検・修理ができている。また、それによって教材が適切に使用できる状態を維持できている。</p> <p>看護学部開設から 10 年を経過したことで、当時購入した機材等の劣化がみられ始め、18 点を廃棄したことでの保管場所の確保ができた。今後も廃棄の検討をする物品があると思われるため、引き続き確認する必要がある。</p> <p>2) 「看護学部実習室およびセルフトレーニングコーナー利用要領」および「看護学部の実習室・セルフトレーニングコーナー・物品の使用要領」の策定</p> <p>実習室およびセルフトレーニングコーナーに関する規約は、従来は学生の使用方法のみを定めた取り決めになっており、それぞれの運営方法が異なっていた。実習室とセルフトレーニングコーナーの利用方法を一元化できた。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>1) 共通消耗品の購入ルールの徹底</p> <p>消毒等、共通で使用する消耗品の購入に関して、使用した分が適切に補充され</p>

	るシステムが作られているが、定数の札が紛失するなどが散見される。演習時に必要な数が提供できるようルールの徹底を呼び掛ける必要がある。
将来に向けた発展 方策・課題	<p>1. シミュレーター、モデルの必要性の検討          今年度、廃棄した物品に加え、今後も物品の経年劣化が予想される。保管場所や維持費、教育上の必要性を検討し、学生が安全に使用できるよう計画的な修理・買い替えの検討が必要である。</p> <p>2. 予算計画の検討          物品の経年劣化に関連し、今後、高額物品の買い替えが必要になる可能性がある。そのため、計画的な予算案を検討する必要がある。</p>

委員会名	(8) 就職支援委員会	SDGs との 関連	
目的	大阪医科大学看護学部の学生の就職・進路の支援		
構成員	田中克子（委員長）、瓜崎貴雄、寺口佐與子、近澤 幸、山埜ふみ恵、川上将弘、武田千賀（看護学事務課）		
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に対する就職情報提供</li> <li>2. 学生の就職活動力強化のためのサポート</li> <li>3. 教員の就職活動支援力向上のサポート</li> <li>4. 就職活動および内定状況の把握</li> <li>5. 卒業生と在校生の交流の機会を設け、情報提供の充実をはかる</li> <li>6. 来校人事担当者との対応による情報収集</li> <li>7. 卒業生の動向に関する情報収集のあり方に関する検討</li> <li>8. HP の更新</li> </ol>		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に対する就職情報提供の一環として、就職活動スケジュール等の情報や看護職員募集情報、パンフレットなどをキャリアサポートルーム内外に設置し、ポスターは掲示した。また、タイムリーな就職活動ができるよう必要時ユニバで情報発信を行った。コロナ対策として昨年同様、リモートでの情報提供を行った。</li> <li>2. 学生の就職活動力の支援として就職ガイダンスを 3 回実施した。第 1 回目は 2021 年 6 月 21 日（月）に本学大学病院人事企画研修課担当者、就職支援業者による「自分で行う就職活動に向けた準備講座-入門編-」を開催した。3 年生 82 名、2 年生 7 名が参加した。第 2 回目は、2022 年 1 月 22 日（土）、本学附属病院担当者、卒業生の看護師、保健師、助産師による講演を開催した。参加は 3 年生 82 名、4 年生 1 名、2 年生 1 名、1 年生 5 名で全員 Zoom 参加し、就職支援業者による履歴書および面接対策の講演を実施した。第 3 回目は低学年向けガイダンスとして Zoom で 12 月 6 日（月）に就職支援業者による就職活動講座を行い、2 年生 50 名、1 年生 30 名が参加した。</li> <li>3. 就職活動および内定状況の把握は就業調査票にて行い、2022 年 2 月に卒業年次生全員の進路が決定したことを確認し、学部教授会で報告した。</li> <li>4. 2022 年 3 月 16 日・17 日、履歴書添削セミナーを Zoom で開催した。コロナの感染症対策により Zoom による個別指導とし参加者は 39 名だった。</li> <li>5. 卒業生と在校生の交流、来校人事担当者との対応はコロナ禍のため感染防止の観点から行わなかった。</li> <li>6. 卒業生・施設アンケートは、合同実施の教育センターと検討し昨年同様、継続実施することとした。</li> <li>7. HP は今年度の就職先情報として更新することとした。</li> </ol>		
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>採用試験が年々早まっているため、低学年のガイダンス開催やタイムリーな就職情報を発信し、学生の意識向上を図った。情報提供としては掲示板、ユニバ、サポートルームの資料が役立ったという回答は 50-70% とあったので必要性が高い。</p>		

	<p>就職ガイダンスは、今年度はコロナ禍もあり2回目はZoom参加とした。昨年同様、時間短縮とZoom参加で行ったが、学生の参加率3年生約90%以上、1、2年生の参加もあり満足度約90%と共に高く、一定の効果があり学生のニーズに沿っていると考える。また、卒業生からの講演は、コロナ禍でインターンシップが制限されている状況のため、実際の声が聴けるので学生のキャリア形成・選択には重要である。</p> <p><b>評価</b></p> <p>履歴書添削セミナーの履歴添削は意見交換が活発であった。今後も継続の方向で検討したい。就職活動および就業調査票は、ユニバでの提出に変更し90%以上の回収率を得、集計作業の簡便化にもつながり、後輩への情報提供の迅速化を図ることができる。</p> <p>卒業生に関するアンケート調査結果より、学生は正確な知識や技術と対象に安全で基本的な看護技術の実践が高評価で、緊急時の対応や後輩への指導が低評価であった。施設側は生命の尊厳、人権の尊重が高評価で多職種との連携協働、国際的な視点が低評価であった。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>卒後アンケートについて、今後は卒後2年目まで調査対象を広げていくか検討が必要である。在学生へのガイダンスの内容について、進学情報のニーズもあり今後検討していく。</p>
<p><b>将来に向けた発展方策・課題</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスは、内容を精選し時間短縮を計ること、時期もタイムリーにすることが課題である。先輩との交流も実際の声を聴く機会としては重要である。</li> <li>2. 就職活動および就業調査票は、昨年より回収率は上がった。さらに、ユニバでの提出を継続し、集計作業の簡便化、後輩への情報提供の迅速化をはかる。</li> <li>3. 感染症対策で、次年度の採用試験の方法が従来とは異なっている施設が多いため、タイムリーな学生への情報提供、個別相談等の支援が必要と考えられる。</li> <li>4. 卒業生、施設に関するアンケート結果から緊急時の対応高めることが課題である。卒業1年目で経験が不足しているのもあってか多職種との連携協働、国際的な視点に関しては継続的に調査する必要がある。今後進路という観点が必要かもしれない。</li> </ol>

委員会名	(9) 国家試験対策委員会	SDGs との 関連	
目的	大阪医科大学看護学部学生の看護師・保健師・助産師の国家試験受験をサポートして合格率向上を目指す.		
構成員	竹村淳子（委員長），安田稔人，カルデナス暁東，府川晃子，二宮早苗，赤崎美美，山本暁生（2021年12月まで），山埜ふみ恵（2022年1月より），森川健太		
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続</li> <li>2. 2021年度国家試験対策の模試および対策講座の実施</li> <li>3. 2022年度国家試験対策の企画および予算案の作成</li> <li>4. 国家試験対策活動の保護者への周知</li> <li>5. 模試成績不良者の対策：講座への出席率を向上させる方策の検討，チーファーとの情報共有およびさらなる協働方法の検討</li> <li>6. 国家試験対策（模試および対策講座）の評価</li> </ol>		
活動概要	<p><b>1. 役割分担</b></p> <p>委員の役割分担は以下の通りとし，感染予防の観点から実施方法の変更が生じた際などはそのつど調整を行った.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 議事次第作成・委員会進行・全体総括（竹村委員長）</li> <li>2) 議事録作成（准教授以下で輪番）</li> <li>3) 東京アカデミー・模擬試験・対策講座 窓口（府川委員・竹村委員長）</li> <li>4) 学研およびテコム・来年度の看護師模擬試験 窓口（カルデナス委員）</li> <li>5) クオリス他・来年度の助産師模擬試験 窓口（二宮委員）</li> <li>6) 看護師国家試験対策 担当（安田委員・カルデナス委員・府川委員・赤崎委員）</li> <li>7) 国試対策講義 担当（4年生向け）（安田委員）</li> <li>8) 保健師国家試験対策 担当（山本委員・山埜委員）</li> <li>9) 助産師国家試験対策 担当（二宮委員）</li> <li>10) 郵便物・広告物・掲示物担当（赤崎委員）</li> <li>11) 模試・対策講座 感染対策 担当（赤崎委員・山本委員）</li> <li>12) 来年度予算・必要物品購入（竹村委員長・府川委員・山本委員・森川委員）</li> </ol> <p><b>2. 模試と対策講座</b></p> <p>国家試験を受験する学生の全員合格を目指して，4年生を対象に全国規模の模試および対策講座を実施した。回数は，看護師国試対策講座11回（傾向分析会含む），看護師国試模試6回，保健師国試対策講座5回（傾向分析会含む），保健師国試模試3回，助産師国試対策講座2回，助産師国試模試2回であった。3年生については全国規模の模試2回，2年生および1年生に関しては全国規模の模試を1回ずつ実施した。新型コロナウイルス感染拡大に鑑み，対策講座は基本的にZoomで実施した。</p>		

	<p>昨年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、4年生の模試を全て自宅受験としたが、厳密なタイムマネジメントの練習や緊張感をもって受験する経験が必要ではないかとの反省点が残った。そのため2021年度は感染状況を注視しつつ可能な範囲で大学での模試を行い、6回中4回は対面で実施した。対面での模試の際には、1学年82名を3教室に分けて座席の間をひろく開けられるよう調整し、感染予防につとめた。また1回（東京アカデミー第2回全国模試）は自宅受験となつたが、Zoomに接続し時間を管理して行うなど工夫した。</p> <p><b>3. 国試対策関連の図書購入</b></p> <p>登校機会の減少により図書の新規購入および貸出は実施しなかつた。</p> <p><b>4. チューターとの情報共有</b></p> <p>対策講座・模試の出欠状況や成績をチューターと共有するため、適宜学科会議で周知した。また、11~12月、1~2月の勉強会の対象学生の選定にあたり、選定基準のための資料を10月・12月の学科会議にて教員に提示した。本年度は国試対策委員会から勉強会への参加を促しても出席に結びつかない学生も多く、そのようなケースは個別対応を要するとして、適宜チューターを通じて学習状況や健康面について情報を把握、またチューターに勉強会への出席状況をフィードバックするなどした。</p> <p><b>5. 既卒生への対応</b></p> <p>2020年度看護師国家試験に不合格であった既卒生に対し、チューターを通じて国試対策講座への参加が可能であること等の情報提供を行つた。また既卒生がチューターへ月1回程度の状況報告を行つており、チューターと連携して適宜学習状況について情報共有を行つた。</p> <p><b>6. 看護師国試対策勉強会</b></p> <p>看護師国試対策については、4年生の模擬試験の結果の推移に基づいて11月~12月期、1月~2月期に勉強会を実施した。</p> <p>1) 11~12月期：</p> <p>11/15(月)~12/10(金)(19日間)の9:00~12:00、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大学へ集合しての勉強会の実施が困難となつたことから、昨年度に引き続いてZoomを使用したオンライン勉強会を行つた。これまでの模試の結果から特に成績が伸び悩んでいる対象者23名を対象とした。感染状況が落ち着いていた時期であり、11/25(木), 26(金), 29(月), 30(火), 12/2(木), 3(金), 6(月)7(火)の8日間は大学に集まり対面での自習を行う日程を設けた。参加者の選定条件は、「第1回全国・テコム必修・第2回全国模試で一度も必修8割をクリアしていない」「第2回全国模試の必修得点割合の下位20名程度」「これまでの模試を事前連絡なく欠席・未提出したことがある」のいずれかの条件を満たすものであった。</p> <p>毎日、教員からGoogle Formssによって提示した小テストの実施と、必要時に簡単な解説を行う以外は、自習を中心とした学習とした。学生からのアンケート</p>
--	---

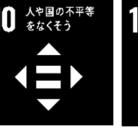
	<p>では「朝起きて勉強する習慣がついた」「みんなが頑張っているのを見てやる気が出た」など、多くが参加できてよかったとの反応であった。対面を取り入れたことへの学生からの意見としては、「久しぶりに友達と会って励ましあいながらやれてよかった。対面も続けてほしい」という意見があった反面、「通学の負担や感染の心配があるので、Zoomか対面が選べると良かった」との希望もあった。好意的な意見が多かった反面、出席率は58.8%と低く、30%未満の学生が6名いた。</p> <p>2) 1~2月期 :</p> <p>1/11(火)~2/4(金)の18日間(対策講座の日を除く、9:00~12:00)には、直前勉強会を行った。対象者となる条件は「第3回全国模試で必修8割未満」「同模試の全得点の下位20名程度」と設定し、25名が選抜された。また、11~12月の勉強会対象者で出席率が30%未満であり、かつ今回の勉強会対象者になった6名については、勉強会への参加を促すだけでは効果的な学習が見込めないと判断し、チューターと連携を取りながら支援する個別対象者とした。この勉強会については、対象でない希望者の自由参加も可とした。対象者の出席率は54.1%であり、対象者以外の希望者も日によって4~17名前後参加していた。</p> <p>11~12月の勉強会と同様に、Google Formsでの小テストの実施やフィードバック以外は自習を中心とした学習とした。ブレイクアウトルームを開設し、学生間でコミュニケーションを取りながら自習できるように準備したが、ほぼ使用されなかった。期間中はGoogle Formsを通じて学生からの質問を募ったり、日々の小テストの傾向から学生の苦手な問題傾向をプールして、1/21(金)、28(金)の2回、安田委員からのZoomでのフィードバック講義を行った。1/20(木)、25(火)の2回、過去の模試問題を配布してオンライン模試を行った。</p> <p>終了後の直前勉強会に対するアンケートでは、対象者の13.8%が「非常に役に立った」、86.2%が「役に立った」と回答した。役立ったことについては、「小テストの実施(86.2%)」「生活リズムが整った(69%)」「勉強する習慣がついた(51.7%)」等の評価が得られていた。</p> <h2>7. 保健師・助産師国試対策</h2> <p>保健師の国試対策については感染対策のため対策講座や模擬試験をZoomで行った。保健師選択者対象の直前勉強会を1月の看護師国試対策勉強会と同時開催にて実施した。勉強会の必修対象は12月模擬試験結果65%未満とし、Zoomにて個別面談による学習指導を行った。勉強会参加者へはGoogle Formsでの小テストの実施やフィードバック以外は自習を中心とした学習とした。その他公衆衛生看護学領域の協力を得て、個別に成績の伸びない学生に対する個別指導を行う等の対策を行った。3年生の国試対策は、公衆衛生看護学領域にて12月模擬試験結果65%未満をレポート課題、55%未満の者へは個別の学習指導を行った。助産師の国試対策においても母性看護学・助産学領域の協力を得て、後期より模擬試験2回および対策セミナー2回を行った。感染対策のために、模擬試験は自宅受験を基本とし、対策講座についても自宅でのオンライン受講とした。また、</p>
--	---

	<p>学内で実施する内容以外の模擬試験や対策講座の情報を学生に伝えた。成績の伸びない学生に対しては、母性看護学・助産学領域の協力により個別指導を行った。</p> <p><b>8. 自己採点について</b></p> <p>感染予防の観点から本年度は大学に集合しての自己採点会を行わず、2/14(月)～26(水)に各自が結果を Google Forms へ入力した。全員から自己採点結果の報告を受けた。</p> <p><b>9. 学生へのアンケート</b></p> <p>1) 1年間の国試対策に対するアンケート</p> <p>国家試験終了後、4年生を対象とする 2021 年度国試対策に関するアンケートを実施した（回答率 70.7%）。国家試験に関する学生の情報収集源としては、Moodle などの模擬試験・講座等の情報提供（62.1%）や国試委員からのオリエンテーション（53.4%）などが役に立っており、継続を希望する支援として、模擬試験（98.3%）、対策講座（56.9%）、成績の振るわない学生への選抜勉強（53.4%）が挙げられた。</p> <p><b>10. その他</b></p> <p>昨年度より「医学書院 看護師/保健師国家試験問題 Web サービス」を導入して、学生がオンラインで国試の過去問や予想問題を解くことができるよう環境を整備した。2021 年 4 月～2022 年 2 月末までに延べ 1596 件のアクセスがあり、国試終了後のアンケートでは 34.8% の学生が「医学書院 Web を活用した」と回答していた。活用していた学生は、Web 上で過去問や模擬問題を解いたり、必修や領域など苦手分野に絞った学習を行っていた。有効な活用がされていたと考えるが、一方で「医学書院 Web を活用しなかった」理由として、「使い方が分からなかった」「過去問題は十分にもっていた」「Web での勉強が使いにくかった」という意見が多くみられた。より国家試験に集中的に慣れてもらうため、次年度からは活用してもらうターゲットを 4 年生に絞り、早期からの導入や十分な説明を行って使いやすい環境を整えていく。</p> <p>計画的に学習するよう、1 年生から 4 年生までの 4 年間の国家試験対策マップを作成し、HP にアップ公表した。また、全学年学生への国家試験対策勉強のオリエンテーションの概要を作成した。次年度、これらの資料の効果について、学生にアンケート調査を行う必要がある。</p>
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>1) 第 111 回看護師国家試験は受験生（在学生）82 名、既卒生 1 名が全員合格した（全国平均 91.3%）。第 108 回保健師国家試験は受験生 32 名が全員合格した（全国平均 89.3%）。第 105 回助産師国家試験は受験生 6 名が全員合格した（全国平均 99.4%）。</p> <p>2) Web を活用した情報提供、学習支援は有効であった。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>1) 新型コロナウイルス感染症への対応のため、大学行事の日程が変更されるこ</p>

	とも多く、国試対策講座に日程が重なり、欠席率が高くなつたことがあつた。人数の多い学生の健康診断などに関しては、健康管理室、就職関連の予定については本学病院などとも連絡を取り合い、可能な範囲で学生に負担の少ないよう調整する。
<b>将来に向けた発展 方策・課題</b>	<p>1. 成績の伸び悩む学生を対象にした勉強会については一定の効果があつたと考えられる一方で、模試の結果や提出状況などから学習面に課題を抱えている学生でも、国試対策委員会からの勉強会参加の呼びかけには反応が鈍く参加がふるわないこともあつた。感染予防対策のために登校が制限されている状況から、対面してのやり取りができる機会も減少しており、チューターと連携を取り合って学生の学習状況や健康状態の把握をしていくことが不可欠である。</p> <p>2. 模試と対策講座については一定の業者を中心としたスケジュールを組んでいくが、学生にとって勉強しやすい方法や媒体を少しでも増やすことができるよう、Web 上でのオンライン講座等の利用なども多角的に検討していくことが求められる。そのため、今後も情報収集に努め、提供される学習内容や価格の適正さ等からよりよい学習環境を整えていきたい。</p>

委員会名	(10) 看護学部年報編集委員会	SDGs との 関連		
目的	看護学部・看護学研究科の年報編集・印刷に関わる事項を調整する。			
構成員	宮島多映子（委員長），草野恵美子，山崎 歩，樋上容子，赤崎英美			
活動計画	1. 2020 年度年報の取り纏め・発行 2. 2020 年度年報の HP 上での公開 3. 2021 年度年報作成のための原稿依頼			
活動概要	<b>1. 委員会の開催</b> 2021 年度 4 回の委員会を開催した。 <b>2. 2020 年度年報の発行</b> 1) 2020 年度の原稿の校正と編集 2) 2021 年 7 月 31 日に年報を発行した。 3) 冊子 35 部作成し関連部署に配布した。 4) 看護学部教員へはホームページ上で PDF を公開した。 <b>3. 2020 年度年報作成について</b> 1) 看護学部と看護学研究科の委員会の増加に伴い、原稿の目次や執筆要領の見直しと見本を提示した。オンライン学術集会の増加に伴い、記載方法を検討して執筆要領に追加した。 2) 2020 年度年報作成のための原稿を依頼した。 3) 各センター・委員会・領域・部署および各教員から原稿を収集した。			
評価	<b>1. 効果が上がっている事項</b> 引き続き年報の PDF を HP に掲載したことにより、本学看護学部および看護学研究科の教育研究活動について公開することができた。また、看護学教育評価の受審に向けて、根拠資料としても活用されている。 <b>2. 改善すべき事項</b> 特になし			
将来に向けた発展方策・課題	1. 2022 年度年報内容の検討 各種評価を受ける際の根拠資料として十分であるかの検討等 2. 2022 年度年報の印刷部数および予算の見直し。			

委員会名	(11) 看護学部広報委員会	SDGs との 関連		
目的	大阪医科大学看護学部の広報活動のビジョンを示しながら、大阪医科大学入試・広報課、本学深く趣意員会と連携を図り、本学部の受験者を募集する。			
構成員	久保田正和（委員長）、安田稔人、土肥美子、佐野かおり、榎木佐知子、堀江雅彦（入試・広報課）			
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オープンキャンパス（OC）企画・運営</li> <li>2. 進学ガイダンス出向の調整・実施</li> <li>3. 看護学部案内の企画</li> </ol>			
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 委員会の開催：定例会を 11 回開催した。</li> <li>2. OC 企画・運営：今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、例年のような来校型 OC は感染対策の観点から中止した。これに代わり、OC ホームページの充実（夢ナビページへのリンク付け含む）、ならびにミニキャンパス見学会（10月 15 日～12月 23 日 37 回、74 名参加）を実施した。</li> <li>3. ミニキャンパス見学会参加者にウェブサイトのアンケートを実施した。</li> <li>4. 新年度 HP に掲載する紹介映像用に授業風景を撮影した。</li> <li>5. 大学案内の製作にあたり、在校生の紹介等の取材協力を行った。</li> </ol>			
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>ミニキャンパス見学会は昨年度より回数を増やし、また毎回満員で盛況であった。金曜日実施組には今年度から基礎領域の演習を見学してもらった。担当教員（基礎領域の広報委員）に質疑応答できる機会にもなり、授業のイメージも湧き受験生に好評であった。ウェブサイト委員会と本委員会委員長の兼任によって、アンケート調査を行うなど広報活動の統括化ができた。ミニキャンパス見学会時の質疑応答やアンケート結果から、入試情報、卒後進路、学生生活について特に関心が高いことが分かった。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>感染症の状況によって来校型の OC が実施できるか否かの決定は 9 月までずれ込む。実施できないことを前提に、より一層の HP 充実のため常に情報のアップデートを行う必要がある。広報媒体としてのパンフレットは必要であるが、やはり、まずは HP の充実が望まれる。大学案内の製作において、対象となる学生が他の媒体（学報や看護学部 HP）でも候補となる場合が多く学生に偏りが出る。取材日よりかなり前の時期に候補者を上げ調整を行う必要がある。</p>			
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウェブサイトおよびオンラインを一層活用した広報活動への転換が求められる。2022 年度の領域再編に伴い、高校生を対象とした各分野の紹介動画の配信を新分野に依頼する。</li> <li>2. OC ができないケースを想定し、代替案や HP の充実を年度初期から図る。</li> <li>3. 掲載が困難であった OC などのイベントの広報の方策を検討する。</li> </ol>			

委員会名	(12)国際交流委員会 (2021年8月~)	SDGsと の関連	   
目的	2021年8月、本学の国際交流機構に属す医学部国際交流委員会、薬学部国際交流委員会、看護学部国際交流委員会が発足した。看護学部本委員会は、本学部内に、看護学教育・研究に寄与する国際交流活動を推進することを使命とする。		
構成員	荒木孝治（委員長）、近藤 恵、樋上容子、柴田佳純、山内彩香、藤井智子（学部長室付事務）		
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際交流に関する基盤整備</li> <li>2. 看護学部英会話教室の実施（PA会予算）</li> <li>3. 教員の国際共同研究支援</li> <li>4. ミネソタ州立大学マンケート校との学生派遣・受け入れに関する検討</li> <li>5. 台北医学大学の研修生の受け入れと研修への学生の派遣に関する検討</li> <li>6. ミネソタ州立大学マンケート校主管のオンライン国際交流学習プログラム（Web International Module）の実施に関する検討</li> <li>7. 国際交流講演会の開催（共催：看護学部「精神看護学援助論」）</li> <li>8. 国際オンラインセミナーの開催（共催：中山国際医学医療交流センター）</li> <li>9. 国際交流プログラムの単位「国際交流演習」の準備</li> </ol>		
活動概要	<p><b>1. 国際交流に関する基盤整備</b></p> <p>1) 国際交流活動全体統括</p> <p>看護学部における国際交流活動の全体統括を行った。今年度は特に、国際交流委員会の発足に伴い活動全体の整理を行うとともに、中山国際医学医療交流センターとの連携を図りながら、来年度に向けての活動計画に基づく委員会予算の申請を実施した。</p> <p>2) 学部生を対象とした国際交流に対するニーズ調査</p> <p>2021年8月2日～9月3日で全学年対象に国際交流に関するニーズ調査を実施した。回答率は37.5%で1年生が38%を占めた。総括として、在学生の国際交流への関心は一定数認めるが、プログラムへの参加意欲が低く、参加を阻む要因は、英会話への自信がない・時間がない・資金がない3点であると推察された。各質問のアンケート結果上位3つは以下のとおりである。関心のある国際交流プログラムは「海外留学（ミネソタ州立大学マンケート校（以下MUSM）、台北医学大学（以下TMU）/私費、個人留学）」47%，「英会話教室（夏季集中英会話教室、Echatなど）」と「本学に来る外国人留学生との交流」34%であった。回答者の73%が在学中に国際交流プログラムに参加予定がなく、その理由は「英語で参加する自信がない」50%，「履修科目をこなすのに精一杯である」44%，「資金がない」32%であった。大学に望むサポートは「留学しやすいカリキュラム編成」42%，「外国人との交流」40%，「奨学金制度の充実」37%であった。</p> <p>3) HP改訂に向けた検討</p>		

活動概要	<p>本年度から国際交流委員会が発足したため、2022年度からは看護実践研究センターからHPを独立させることに決定し、新HP案の検討を開始した。主な閲覧者として受験生（高校生）と在学生にターゲットを絞り、興味がもてるよう写真を多用しWebプログラムの実績も追加して、来年度の受験シーズンまでのオープンを目指す。</p> <p>4) コロナ禍における国際交流方法の検討</p> <p>2020年度に引き続き、2021年度も新型コロナウイルスの影響により、海外への学生派遣や受け入れが中止となり、コロナ禍における新たな国際交流の方法を検討した。業者によるオンライン留学の実施等検討していたが、当初、協定校であるMSUMへの派遣時に予定されていた現地でのプログラムの内容をオンラインで実施していただけないように調整し、中山国際医学医療交流センターと共にオンライン国際セミナーを開催する運びとなった。</p> <p>5) 部局間協定の締結に向けた交渉</p> <p>2020年MSUMの主管するWeb International Moduleの教員会議に参加したことを契機に、2021年トマスモア応用科学大学（ベルギー）の国際交流コーディネーターより看護学生1名の臨床実習の受け入れについて打診を受けた。当該学生の派遣希望日程や内容（実習）、コロナ流行時期であることを理由に学生の受け入れには至らなかったが、この学生の扱いをめぐって担当者とのコミュニケーションが進み、今後の交流の発展を進めていくために議論を始めた。9月に交流協定のMOU草案を提示され、10月に国際交流委員会で審議を行ない、委員会として看護学部教授会に議題を提起する方針を決定した。また具体的な交流プログラムの候補として、複数の大学が参加するオンラインプログラム（Tour of Flauders）の情報提供を受けた。初回の授業に参加し、一定以上の英語力を要するが内容は学部生向けであり、2年生以上の学生での参加が期待できることを検討した。</p> <p>その他、国立台湾大学（台湾）や国立モンゴル医科学大学（モンゴル）の看護学部からの国際交流の打診があった。国立台湾大学は、既に本学医学部がたくさん交流を図ってきた実績があり大学間協定校であるため、看護学部の国際交流担当者と連絡を取り、具体的な交流の方法を模索していくこととなった。</p> <p>6) ミネソタ州立大学マンケート校とのMOU更新</p> <p>2019年4月に協定を締結して以降、本学学生のマンケート校派遣やWeb International Moduleでの学生交流を経て、両校の交流をより充実したものにすべく協定内容の検討を行った。現行は学生の短期交流を主とした協定内容となっているが、単位互換を含めた長期留学での交流を踏まえた内容に更新する方向で協議中である。</p> <h2>2. 英会話教室</h2> <p>事前に学生の英語能力とニーズを調査して企画に反映させ、英会話初級レベルで楽しめるアクティビティ中心のプログラム内容とネイティブ講師および日本</p>
------	--

	<p>語サポートを業者に依頼した。2021年8月4日～6日の3日間、毎日9:30～11:30と12:30～14:30の2部構成とし、参加者は16名、3日間で延べ43名が出席し、事後アンケート結果では高い満足度を得た。</p> <p><b>3. 教員の国際共同研究支援</b></p> <p>協定校である MSUM の教員がゲストエディターを務める雑誌 Creative Nursing (28巻4号)について、本学教員に周知を図り論文投稿を募った。雑誌のテーマは、Thinking Like a Nurse: Making an Impact on Family and Society.</p> <p><b>4. MSUMとの学生派遣・受け入れに関する検討（オンライン会議含む）</b></p> <p>派遣については、2022年3月14日～25日の日程で MSUM とプログラムの調整を行なっていたが、新型コロナウイルス感染拡大のため8月に中止が決定した。そのため、派遣の代替となるオンラインプログラムについて検討し、3月に MSUM の教員を講師に迎えてオンライン国際セミナーを開催することになった。派遣・受け入れの調整と国際セミナーの打ち合わせのため、今年度は計4回（4月、5月、10月、2月）に MSUM とオンライン会議を行なった。MSUMからの学生の受け入れについては、詳細な時期は決定していないが、2023年以降で、TMU と同時期の受け入れを予定している。</p> <p><b>5. TMU の研修生の受け入れと研修への学生の派遣に関する検討</b></p> <p>新型コロナウイルス感染拡大予防のため、3月の本学学生の派遣は中止となつた。次年度9月までの受け入れ中止が決定している。</p> <p><b>6. MSUM 主管のオンライン国際交流学習プログラム（Web International Module）の実施</b></p> <p>MSUM が主幹で実施するオンライン国際交流学習プログラムへ参画した。2021年5月の国際交流説明会で内容の説明を行い、中山国際医学医療交流センターを窓口に参加者を募集した。1年生および2年生の各1名ずつ計2名の応募があり、学部内での選考の結果、参加者として承認した。7月より参加者へ事前準備のための説明会を断続的に行い、9月の参加校の教員会議を経てペアの大学（デンマークの UCL University College）が決定した。同大学の学生1名と3名でチームとなりプログラムを進め、12月末までに最終発表を終えた。医療英語を扱う難しさはあったが学びがあり、非常に貴重な経験ができたとの感想を得た。</p> <p><b>7. 国際交流講演会の開催（共催：看護学部「精神看護学援助論」）</b></p> <p>国際交流に関する土壤づくり活動の一つとして、看護学部生および教員を対象に教育講演会を実施した。開催日時は2021年12月6日13:00～14:30、講師は多文化共生センターひょうごの北村広美先生、テーマは「看護の視野を広げよう～看護職と多文化共生社会～」とし、参加者は学部2年生86名、教員7名であった。事後アンケートでは講演会の満足度は高く、今後の看護職としてのキャリア形成に役立ち、国際交流への関心度が増加していた。自由記載から、学生の国際交流への関心が海外での看護活動や文化の理解に留まらず、国内の人権問題や在日外国人の現状など多岐にわたることが判明した。授業感想文には多文化共</p>
--	---

活動概要	<p>生の重要性についての学びや、自分の新たなキャリアへの示唆が記載されており、教育講演の目標を達成することができた。</p> <p><b>8. オンライン国際セミナーの開催（共催：中山国際医学医療交流センター）</b></p> <p>3月に予定していた MSUM への派遣が新型コロナウイルスの影響で中止となつたため、代替のプログラムとして企画した。「繋がり、学び、広がる、ケアの視点」というテーマで3月17日・18日の2日間開催した。3学部から学部生、院生、教員、病院職員が参加し、アメリカの医療・教育制度と家族ケアについての講演や活発な質疑応答を通して学びを深めることができた。参加者数は17日が43名、18日が38名であった。アンケートでは、両日ともに回答者全員（17日：24名、18日：29名）から満足したという回答が得られた。</p> <p><b>9. 国際交流プログラムの単位「国際交流演習」の準備</b></p> <p>協定校への派遣プログラムおよび2021年度より実施予定のオンライン国際交流学習プログラムは、2022年4月入学生から対象の新カリキュラムにおける単位「国際交流演習」として導入予定であり、当該科目担当者とシラバス作成や評価について協議を行った。</p>
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>国際交流活動においては、中山国際医学医療交流センターとの協働のもと、2020年度の体系化に即して今年度は具体的なプログラムが始動した。具体的には、今年度新たに、全学生に対しての国際交流説明会の開催やマーケット校を主幹とするオンラインプログラムへの参加、オンライン国際交流セミナーを実施し、感染症流行時にも実施できる国際交流活動を構築することができた。加えて、看護学部英会話は短期集中日程と日本語サポート付きの企画等開催方法の見直しを行うことで参加者が4倍に増加した。また新たに欧州の大学との部局間協定を結ぶ交渉を始めることができた。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>国際交流のHPについては、改定案に沿って、実施内容や本学国際交流の魅力が伝わるコンテンツの充実などの改良を図る必要がある。学生の国際交流への興味・関心を高める土壤づくりは継続的な課題である。また、協定校や協定候補校との交渉を継続し、双方の交流を行うための本学での受け入れ体制およびプログラムの整備を進める必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>2021年8月の本委員会の発足に伴い、研究面に関しては、看護学実践研究センターとの連携や協働が課題である。</li> <li>国際交流に関する看護学部の現状を踏まえ、国際交流への意識を含む基盤づくりを推進するとともに、国際共同研究推進のための研究者との交流体制構築に向けて、看護学部内関係部署や全学的部署との連携をさらに強めていく必要がある。</li> <li>HP やパンフレット等を用いて、国際交流活動の実施内容や魅力が伝わるコンテンツの充実などの改良を図り、学内外に周知しながら活動を活性化していく必要がある。</li> </ol>

委員会名	(13) 障がい学生支援委員会	SDGsとの関連			
目的	障がいのある学生が、講義・演習・実習において他の学生と等しく教育や受験の機会が得られるよう適切な支援（合理的配慮）を提供することを目的とする。				
構成員	久保田正和（委員長）、赤澤千春（学部長）、池西悦子（実習委員長）、津田泰宏（校医）、土肥美子（学生生活支援センター委員）、澤村律子（保健管理室）、川端由夏、川上将弘（看護学事務課）				
活動計画	<p>1. 次の各号に掲げる事項について審議し、その実施にあたる。</p> <p>1) 講義・演習・実習の課題に関すること</p> <p>2) 支援体制に関すること</p> <p>3) 施設・設備の整備に関すること</p> <p>4) その他、障がいのある学生への支援に関する必要なこと</p>				
活動概要	<p><b>1. 障がい学生支援委員会の開催</b></p> <p>第1回（2021年5月17日～20日）：統合看護学実習における支援について。</p> <p>第2回（2021年6月21日～22日）：2名の入院中の学生について、コロナ対策により入院先からZoomで授業を受けることについて。</p> <p>第3回（2021年6月29日）：手術直後であることから前期本試験を受けずに追試験を受けることについて（追試験の日程をずらす要望については却下）。</p> <p>第4回（2021年8月4日）：3名の学生の支援について。</p> <p><b>2. 第5回障がい学生支援委員会の開催（2021年10月25日）</b></p> <p>講義・演習・実習における障がいのある学生への支援に関する申し合わせ事項および申請書の変更について審議した。※法律を根拠としていること、障がいという言葉を明記して学生が障がいを適切に理解できるようにした。</p> <p><b>3. 第6回障がい学生支援委員会の開催（2022年3月2日）</b></p> <p>2021年度後期に支援を受けた4名の学生の面接結果と今後支援の希望について。</p> <p><b>4. 第7回障がい学生支援委員会の開催（2022年3月17日）</b></p> <p>2022年度前期における3名の学生の支援について。</p>				
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>1) 申し合わせ事項に法律を根拠にしていること、障がいという言葉を明記することで、支援の対象となる障がいがある程度明確になったこと。</p> <p>2) 講義・演習でも障がいのある学生への支援が可能となり、2021年度は適切な支援を行うことができた。支援終了後、学生への面談でも満足度は高かった。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>1) 支援を受けている学生の「面談記録」の取り扱いに問題がみられた。</p>				
将来に向けた発展方策・課題	<p>1. 障がい学生支援のあり方について情報を継続的に収集する。</p> <p>2. 資料は個人情報が含まれているため、面談記録の記載内容や支援計画はpassをかけてshareフォルダに格納する。passは教授会で周知する。</p> <p>3. しょうがいの表記を「障がい」とするか「障害」とするか審議を継続する。</p>				

委員会名	(14) 教員再任審査委員会	SDGs との 関連	
目的	本委員会は、大阪医科大学看護学部任期付教員の再任手続きに関する細則に基づいて、1) 当該教員より提出された再任手続に必要な上申書類を審査し、2) 教員としての適格性の有無について教授会に報告・上申するために設けられ、その活動を目的とする。		
構成員	荒木孝治（委員長）、竹村淳子、津田泰宏		
活動計画	1. 当該教員の再任手続に必要な上申書類の審査 2. 「任期満了による継続の件上申審査結果」の学部長への報告 3. 教授会における審議依頼		
活動概要	<p><b>1. 再任審査委員会の開催（2021年11月22日）</b></p> <p>2022年3月31日任期満了の審査対象者3名（教授1名、准教授2名）の計3名より提出された上申書類を確認し、「再任の評価視点」に基づいて審議し、審査対象者全員について教員としての適格性を認めた。</p> <p><b>2. 上申書類に基づく適格性の審議の学部長への報告</b></p> <p>教員再任適格性事前審査を行い、審査対象者3名について適格性を認めた旨の報告書を学部長に提出した。また教授会での審議の依頼を行なった。</p>		
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>1) 2019年度に教授会で承認された再任の評価視点に基づく審査が定着したこと。            2) 再任審査の手続きに関するフロー図に基づいて学務部看護学事務課との連携もスムーズで迅速に審査が進められたこと。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>1) 運営としては特になし</p>		
将来に向けた発展方策・課題	再任の評価視点に関する定期的な検証が求められる。		

委員会名	(15) 看護学分野別評価 ワーキンググループ	SDGsとの 関連	
目的	看護学教育の質の維持・向上をめざして、2022年度に受審する看護学教育評価に向けて自己点検・評価を行い、本学部の課題を明確化し、教育改善を図る。		
構成員	鈴木久美（委員長）、赤澤千春、小林道太郎、真継和子、草野恵美子、川端由夏、中野恵梨子（看護学事務課）		
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>2022年度分野別評価の受審に向けたロードマップを確定する。</li> <li>明確化された課題に基づき各センター・委員会で教育改善を図れるように推進する。</li> <li>看護学教育評価自己点検・評価報告書と評価基準・チェックシートの作成および根拠資料の収集をする。</li> </ol>		
活動概要	<p><b>1. 委員会の開催</b>      9回の委員会を開催した。</p> <p><b>2. 2022年度の分野別評価の受審に向けたロードマップの確定</b>      第1回の委員会で2022年度の受審に向けたロードマップを再確認し、具体的な工程を明確化した。7月の教授会で作成したロードマップを共有した。</p> <p><b>3. 評価基準チェックシートに基づいた自己点検・評価報告書の作成</b>      6月に報告書の評価項目ごとに執筆担当者（分野別評価WG、教育センター、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会、実習委員会、物品管理委員会、大学図書館運営委員会、就職支援委員会、入試実務委員会、予算委員会等）を決定し、7月の教授会で評価基準・チェックシートに基づいた自己点検・評価報告書の作成と根拠資料の収集を各センター・委員会に依頼した。その後、ワーキンググループで報告書および評価基準・チェックシートをとりまとめて内容を確認し、報告書の草案を作成した。報告書の草案は2月の教授会、3月の学部間協議会で審議され、承認された。</p> <p><b>4. 看護学教育評価自己点検・評価報告書等の提出</b>      3月25日に日本看護学教育評価機構に看護学教育評価自己点検・評価報告書、評価基準・チェックシート、根拠資料一覧などを提出した。</p>		
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b>      看護学教育評価に関する評価基準・チェックシートに基づき当該センターや委員会で自己点検・評価をした上で報告書を作成したことにより、一層の教育上の課題の改善につながった。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b>      なし</p>		
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>さらなる学部教育の質向上に向けて、自己点検・評価を定期的に行い、教育上の課題の改善を図る予定である。</li> <li>2022年度の看護学教育評価の受審に向けて、次年度は学内の環境整備を行うとともに受審の準備をする予定である。</li> </ol>		

委員会名	(16) 本学部看護学生を対象とする研究審査会	SDGsとの関連		
目的	看護学部生に対し学部内および学部外から研究協力の依頼があった場合に、基本的な事項、内容および日程等から研究協力の受諾の可否を検討する。			
構成員	佐々木綾子（委員長）、カルデナス暁東、府川晃子			
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究協力依頼方法のホームページでの公開</li> <li>研究審査書類の不足・不備の確認および研究協力依頼申請者への再提出の依頼</li> <li>研究協力受諾の可否の審議</li> <li>研究協力依頼申請者への審議結果の通知</li> </ol>			
活動概要	<p><b>1. 研究審査会の開催</b>      研究協力依頼申請は5件あった。申請があった際に、その都度、研究審査会議を開催した。</p> <p><b>2. 研究協力受諾に関する審議</b>      「看護学部学生への研究協力の依頼に対する対応」(2019年5月改訂版)に則り、研究協力の時期や分量などが学生にとって無理がないか、研究への協力が学生に還元されるものであるかの観点で審議した。研究協力は、原則として研究協力に同意した学生が個別に回答することとしていることから、学生に強制したり、単位認定に影響がないか、また、学生が研究活動に対する理解を深められるよう配慮がなされているかの視点でも検討した。研究協力受諾可は5件すべてであった。</p> <p><b>3. 研究協力依頼方法および審議結果についての問い合わせ</b>      学部内および学部外から研究協力依頼申請に関して不明な点や、申請者から審議結果に対する問い合わせはなかった。</p>			
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b>      研究協力依頼申請があった際に、速やかに研究審査会議を開催し、審議した。研究者にとっては、研究協力が得られるかどうかは研究遂行において重要であり、審議結果を速やかに通知することができた。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b>      特になし。</p>			
将来に向か た発展 方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究協力依頼申請があった場合の迅速な審議の実施。</li> <li>1の審議結果の通知実施。</li> </ol>			

#### 4) 教育活動

##### (1) 授業科目一覧

2017~2020年度入学生（2～4学年次）用

区分	授業科目	助☆ 保◎ 養*	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◊）								卒業要件	
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間理解	心理学		講義	2	●									↑ 20単位以上 ○必修科目7単位以上 ●選択科目13単位以上 (人間理解または異文化理解から2単位以上含まれていること)
	生物学		講義	2	○									
	化学		講義	2	○									
	物理学		講義	1		○								
	くらしの中の倫理		講義	1		○								
	大阪を学ぶ		講義	1		○								
	哲学		講義	1		○								
	くらしと文学		講義	2	○									
	教育学		講義	2	○									
	体育Ⅰ	*	演習	1	○									
基礎科目	体育Ⅱ	*	演習	1		○								↓ 社会理解から2単位以上含まれていること (人間理解または異文化理解から5単位以上、 社会理解から2単位以上含まれていること)
	人間関係論		講義	1	●									
	キャリアマネジメント		講義	1	●									
	健康科学概論		講義	1	●									
	情報リテラシー		演習	1	●									
	データ処理演習	*	演習	1				○						
	統計学		講義	2		●								
	日本国憲法と法律	*	講義	2	○									
	くらしと社会・環境		講義	2	○									
	くらしと経済		講義	2	○									
異文化理解	くらしと安全・危機管理		講義	2	○									↓ 英語II(2単位) 英語III(2単位) 英語IV(2単位) 医療英語(2単位) 国際言語文化(2単位) 医工薬連環科学遠隔講座(2単位)
	英語I(英語を聞く)		講義	1	●									
	英語II(英語で話す)		講義	1		●								
	英語III(英語で読む・書く)		講義	1			●							
	英語IV(英語を豊かに)		講義	1				●						
	医療英語		演習	1					●					
	国際言語文化		講義	2	○									
	医工薬連環科学遠隔講座		講義	-	◊									
	基礎科目必修単位数				13	7	3	1	1	1	0	0	0	
専門基礎科目	からだの仕組みと働きI(基礎)		講義	2	●									↑ 28単位以上 ○必修科目3単位以上 ●選択科目25単位以上
	からだの仕組みと働きII(発展)		講義	2		●								
	感染と免疫		講義	1	●									
	からだと栄養		講義	2		●								
	こころの仕組みと働き		講義	1		●								
	フィジカルイグザミネーション		演習	1			●							
	リプロダクションと看護	☆	演習	1				○						
	セクシュアリティーと看護	☆	講義	1				○						
	からだとくすりの働き		講義	2				●						
	病気の成り立ち		講義	2				●						
病気と治療	病気の診断・治療I		講義	2				●						
	病気の診断・治療II		講義	2					●					
	食生活論		講義	1						○				

## 2017~2020年度入学生（2~4学年次）用

区分	授業科目	助☆ ◎ 養*	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◊）							卒業要件 単位数	
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	医学概論	講義	1		○								28単位以上
	医療人マインド	講義	1	●									●必修科目以上
	専門職連携医療論	講義	1				●						○選択科目3単位
	保健医療福祉概論	講義	2		●								↓
	公衆衛生学・疫学	講義	2			●							
	ヘルスプロモーション論	講義	1					○					
	医療倫理学	講義	1				●						
	リスクマネージメント	講義	1				●						
	異文化看護入門	演習	1				○						
専門基礎科目必修単位数					25	4	7	9	4	1	0	0	0
看護の基盤	看護学概論	講義	2	●									↑
	日常生活援助技術	演習	3		●								79単位以上
	基礎看護学実習Ⅰ	実習	1		●								○選択科目5単位以上
	看護アセスメント	演習	1			●							●必修科目74単位
	治療過程に伴う援助技術	演習	2			●							
	基礎看護学実習Ⅱ	実習	2			●							
	看護管理	講義	1							●			
	看護教育	講義	1							●			
	成人看護学概論	講義	2		●								
専門科目	急性期成人看護学援助論	演習	1				●						
	急性期成人看護学援助方法	演習	1					●					
	急性期成人看護学実習	実習	3						●				
	慢性期成人看護学援助論	演習	1			●							
	慢性期成人看護学援助方法	演習	1				●						
	慢性期成人看護学実習	実習	3						●				
	精神看護学概論	講義	2			●							
	精神看護学援助論	演習	1				●						
	精神看護学援助方法	演習	1					●					
	精神看護学実習	実習	2						●				
	老年看護学概論	講義	2			●							
	老年看護学援助論	演習	1				●						
	老年看護学援助方法	演習	1					●					
	老年看護学実習Ⅰ	実習	1			●							
地域家族支援	老年看護学実習Ⅱ	実習	3						●				
	母性看護学概論	講義	2		●								
	母性看護学援助論	演習	1				●						
	母性看護学援助方法	演習	1					●					
	母性看護学実習	実習	2						●				
	小児看護学概論	講義	2			●							
	小児看護学援助論	演習	1				●						
	小児看護学援助方法	演習	1					●					
	小児看護学実習	実習	2						●				
看護実践発展科目から2単位以上含まれていること	在宅看護学概論	講義	2		●								
	在宅看護学援助論	演習	1				●						

## 2017～2020年度入学生（2～4学年次）用

区分	授業科目	助☆ 保◎ 養*	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）						卒業要件 127単位以上	
					第1学年		第2学年		第3学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	地域家族支援	在宅看護学援助方法	演習	1					●			79単位以上 ●必修科目5単位以上 ○選択科目5単位以上 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること) ↓
		在宅看護学実習	実習	2						●		
		公衆衛生看護学概論	講義	2			●					
		公衆衛生看護学活動論	講義	2			●					
		地域救命救急	講義	1				○				
	発看展護科実目践	看護と生体診断法	演習	1						○		
		医療カウンセリング	演習	1						○		
		看護実践発展総合演習	演習	1						○		
		看護実践発展実習	実習	2						○		
	保健師科目	公衆衛生看護学活動方法	○講義	1					○			
専門科目	助産師科目	公衆衛生看護学管理論	○講義	2					○			
		公衆衛生看護学演習	○演習	1						◇		
		公衆衛生看護学実習I	○実習	1						○		
		公衆衛生看護学実習II	○実習	4						◇		
		助産学概論	☆講義	2				○				
		助産診断・技術学I	☆演習	1					○			
		助産診断・技術学II	☆演習	3						◇		
		助産管理	☆講義	1						◇		
		助産学実習	☆実習	8						◇		
	統合	がん看護学総論	講義	1			●					
専門科目		家族看護学	講義	1			●					
		チーム医療論	講義	1			●					
		災害看護論	講義	1			○					
		遺伝とカウンセリング	☆講義	1					○			
		看護実践と理論の統合	演習	3				●				
		看護研究法	講義	1					●			
		原著講読	演習	1					●			
		卒業演習	演習	3						●		
		統合看護学実習	実習	2						●		
専門科目必修単位数				74	2	8	14	13	8	20	4	5
必修単位数合計				112	13	18	24	18	10	20	4	5
履修登録できる単位数の上限				167	48		47		39		33	
☆助産師国家試験受験資格必修科目				◎保健師国家試験受験資格必修科目	* 養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目							

## 2021年度入学生（1学年次）用

区分	授業科目	助☆ 保◎ 養*	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）						卒業要件 単位数 127単位以上	
					第1学年		第2学年		第3学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間理解	心理学		講義	2	●							
	生物学		講義	2	○							
	化学		講義	2	○							
	物理学		講義	1		○						
	くらしの中の倫理		講義	1		○						
	大阪を学ぶ		講義	1		○						
	哲学		講義	1		○						
	くらしと文学		講義	2	○							
	教育学		講義	2	○							
	体育Ⅰ	*	演習	1	○							
	体育Ⅱ	*	演習	1		○						
	人間関係論		講義	1	●							
基礎科目	キャリアマネジメント		講義	1	●							
	健康科学概論		講義	1	●							
	情報リテラシー		演習	1	●							
	データ処理演習	*	演習	1				○				
	統計学		講義	2		●						
	日本国憲法と法律	*	講義	2	○							
	くらしと社会・環境		講義	2	○							
	くらしと経済		講義	2	○							
	くらしと安全・危機管理		講義	2	○							
	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●							
	英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●						
	英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●					
	英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●				
異文化理解	医療英語		演習	1					●			
	国際言語文化		講義	2	○							
	医工薬連環科学遠隔講座		講義	-	◇							
基礎科目必修単位数					13	7	3	1	1	1	0	0
専門基礎科目	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●							
	からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●						
	感染と免疫		講義	1	●							
	からだと栄養		講義	2		●						
	こころの仕組みと働き		講義	1		●						
	フィジカルイグザミネーション		演習	1			●					
	リプロダクションと看護	☆	演習	1			○					
	セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○					
	からだとくすりの働き		講義	2			●					
	病気の成り立ち		講義	2			●					
	病気の診断・治療Ⅰ		講義	2			●					
	病気の診断・治療Ⅱ		講義	2				●				
	食生活論		講義	1					○			

## 2021年度入学生（1学年次）用

区分	授業科目	助☆ 保◎ 養*	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由△）							卒業要件 127単位以上	
					第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	医学概論		講義	1		○							28単位以上
	多職種連携論1 - 医療人マインド		講義	1	●								●○必修科目25単位以上
	多職種連携論2 - 医療と専門職		講義	1				●					
	保健医療福祉概論		講義	2		●							
	公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
	ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
	医療倫理学		講義	1				●					
	リスクマネージメント		講義	1				●					
	異文化看護入門		演習	1					○				
専門基礎科目必修単位数					25	4	7	9	4	1	0	0	0
看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑
	日常生活援助技術		演習	3		●							79単位以上
	基礎看護学実習I		実習	1		●							●○必修科目5単位以上
	看護アセスメント		演習	1			●						
	治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
	基礎看護学実習II		実習	2				●					
	看護管理		講義	1							●		
	看護教育		講義	1							●		
専門科目	成人看護学概論		講義	2			●						（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること）
	急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
	急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
	急性期成人看護学実習		実習	3						●			
	慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
	慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
	慢性期成人看護学実習		実習	3						●			
	精神看護学概論		講義	2			●						
	精神看護学援助論		演習	1				●					
	精神看護学援助方法		演習	1					●				
	精神看護学実習		実習	2						●			
	老年看護学概論		講義	2			●						
	老年看護学援助論		演習	1				●					
	老年看護学援助方法		演習	1					●				
地域家族支援	老年看護学実習I		実習	1				●					
	老年看護学実習II		実習	3						●			
	母性看護学概論		講義	2			●						
	母性看護学援助論		演習	1				●					
	母性看護学援助方法		演習	1					●				
	母性看護学実習		実習	2						●			
	小児看護学概論		講義	2			●						
	小児看護学援助論		演習	1				●					

## 2021年度入学生（1学年次）用

区分	授業科目	助☆ 保◎ 養*	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）						卒業要件 127単位以上	
					第1学年		第2学年		第3学年			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	地域家族支援	在宅看護学援助方法	演習	1					●			79単位以上 ○選択科目5単位以上 ●必修科目74単位 (看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること) ↓
		在宅看護学実習	実習	2						●		
		公衆衛生看護学概論	講義	2			●					
		公衆衛生看護学活動論	講義	2			●					
		地域救命救急	講義	1				○				
	発看展護科実目践	看護と生体診断法	演習	1						○		
		医療カウンセリング	演習	1						○		
		看護実践発展総合演習	演習	1						○		
		看護実践発展実習	実習	2						○		
	保健師科目	公衆衛生看護学活動方法	○講義	1					○			
専門科目	助産師科目	公衆衛生看護学管理論	○講義	2					○			
		公衆衛生看護学演習	○演習	1						◇		
		公衆衛生看護学実習I	○実習	1						○		
		公衆衛生看護学実習II	○実習	4						◇		
		助産学概論	☆講義	2				○				
		助産診断・技術学I	☆演習	1				○				
		助産診断・技術学II	☆演習	3						◇		
		助産管理	☆講義	1						◇		
		助産学実習	☆実習	8						◇		
	統合	がん看護学総論	講義	1			●					
専門科目必修単位数	家族看護学	講義	1				●					
	チーム医療論	講義	1				●					
	災害看護論	講義	1				○					
	遺伝とカウンセリング	☆講義	1						○			
	看護実践と理論の統合	演習	3					●				
	看護研究法	講義	1						●			
	原著講読	演習	1						●			
	卒業演習	演習	3						●			
	統合看護学実習	実習	2						●			
専門科目必修単位数				74	2	8	14	13	8	20	4	5
必修単位数合計				112	13	18	24	18	10	20	4	5
履修登録できる単位数の上限				167	48		47		39		33	
☆助産師国家試験受験資格必修科目				◎保健師国家試験受験資格必修科目	* 養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目							

(2) 各領域の教育活動

領域名	基礎看護学
担当教員	宮島多映子, 小林道太郎, 土肥美子, 川北敬美, 二宮早苗, 赤崎英美
担当科目	くらしの中の倫理, 哲学, キャリアマネージメント, 国際言語文化, 情報リテラシー, 医療倫理学, 原著講読, 看護学概論, 日常生活援助技術, 看護アセスメント, 治療過程に伴う援助技術, 看護管理, 基礎看護学実習Ⅰ, 基礎看護学実習Ⅱ, 卒業演習, 統合看護学実習
現状の説明	<p>くらしの中の倫理, 哲学, 医療倫理学では基本事項を講義した. 国際言語文化ではドイツ語の入門と歴史・文化について論じた. 原著講読では英語論文を読んだ. 情報リテラシーは前半の大学で学ぶことに関する導入と PC 操作を担当した.</p> <p>看護学概論では, 看護の歴史, 看護の基本概念である「人間」「環境」「健康」「看護」の関係性, 看護活動の場, 看護倫理等について教授した. キャリアマネージメントでは, 社会人基礎力, 看護職のキャリア等を講義した.</p> <p>看護アセスメントでは, アキレス腱断裂の患者事例を用いて NANDA-I の枠組みを使い看護過程の展開方法を教授した. 日常生活援助技術では, 11 月中旬までは学生を半分に分けて演習を行ったが, その後は, 一斉に演習を行った. 唾液の飛散する口腔ケアもスタンダードプリコーションに則り実施したが, 演習による感染者は出なかった. 食事の演習はオンデマンドで実施した. 治療過程に伴う援助技術では, COVID-19 拡大により 4~5 月の演習をオンラインにて実施した. それ以外の時期の演習は学生を半分に分けて実施した.</p> <p>基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱでは, 健康管理と感染予防策の徹底をはかり実習を行った. 一部, 実習場所の変更はあったものの, COVID-19 による延期や中断なく, 予定通りの実習を実施した. 卒業演習では教員 1 名が 2~3 名の学生を担当し卒業論文を作成した. 12 月の発表会では PowerPoint を用いて各自プレゼンテーションを行った.</p> <p>統合看護学実習では, 彩都友紘会病院での実習が不可となったため, 実習時期を 6~9 月に延長し, 東住吉森本病院と第二東和会病院にて実習を行った. 11 月に緩和ケアと地域包括支援を考慮した事例による OSCE を行った.</p>
点検評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>採血や注射法など手元で行う技術であればオンライン演習でも技術習得が可能であることがわかり, 新たな教授法が広がった.</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>授業評価の満足度が低下しているため, 各科目における教育支援体制の見直しが必要である. 今後も COVID-19 によるリモートと対面の授業の組み合わせが想定される. 思考を深め看護実践能力育成につながる教授内容や授業方法を検討する.</p>
将来に向けた発展方策・課題	学生の臨床判断能力育成を目指し, 授業を通して臨床推論の強化を目指す. 領域編成の変更に伴い, 統合看護学実習や卒業演習がより専門性に特化した内容に変更される. 学生のニーズを踏まえた運営の検討を行う.

領域名	急性期成人看護学
担当教員	赤澤千春, 寺口佐與子, 勝山あづさ
担当科目	成人看護学概論, 急性期成人看護援助論, 急性期成人看護学援助方法, 急性期成人看護学実習, 統合実習, 卒業演習, 災害看護論
現状の説明	一部授業をオンライン, ハイブリッド形式で実施した. また, オンライン授業でも双方向性を確保するため, ディスカッション・発表を積極的に取り入れた. 1年生の成人看護学概論で成人を対象とする一般的な概念や理論を教授した. 2年生の急性期成人看護援助論で「生命の危機的状況にある対象」の概念と理論, 身体心理社会的な看護問題と介入について教授した. 3年生前期の急性期成人看護学援助方法では, 既習知識を活用し, 周手術期患者の事例をもとにした看護計画の立案とロールプレイ演習を展開し, 具体的な看護介入方法の探求と理解を目指した. 後期の急性期看護学実習で周手術期患者の受け持ちを通じ, 生命の危機的状況にある対象についての看護計画を立案・実行・評価することで, 急性期看護に必要な基礎的知識・技術・態度の習得につなげた. また, 選択科目の災害看護論では自衛隊衛生部隊による災害時の応急処置や搬送等の実技指導を受けた. 4年生の統合実習では1~3年生までの知識と技術を統合させるために学生自身が実習計画を立て, 急性期看護についての学びを深めた. また, 卒業演習として興味のあるテーマに関する文献検討に取り組み, 論文作成と研究発表を実施した.
点検評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>急性期領域の核となる「生命の危機的状況」にある対象について, 講義, 演習, 実習と「命を守る」ための一貫した内容を教授し続けることで, 急性期の特徴を理解しつつ急性期看護の対象, アセスメント, 看護ケアを学ぶことができている. また、オンラインでのグループワークや双方向ツールレスポンでの小テストを取り入れることで学生の主体的な学習行動につながっている.</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>1) 1, 2年生で「生命の危機的状況」にある対象のアセスメントが難しいため繰り返しの知識の定着を図ることと, 3年生では, その応用に適した事例を用いて理解させる必要がある. その準備が不十分だと, 急性期領域実習の看護過程を開拓することが困難となるため, 根気よく指導する必要がある.</p> <p>2) 看護問題抽出を多角的にとらえることができるよう, 必要な基礎知識との応用ができるように絶えず学生に問いかけ, 指導していく必要がある.</p> <p>3) 実習では「生命の危機的状況」を強調した指導や, 患者入院期間の短縮に伴い, 心理社会的側面からの看護問題の抽出や介入が困難な学生も見受けられ, 早期から身体的心理的社会的側面を統合することを指導する必要がある.</p>
将来に向けた発展方策・課題	現象を学生の持っている知識に照らし合わせて「言語化」することで学びはより深くなる. そのために, 演習, 実習ではできるだけ学生に「語らせる」ことを念頭に関わり, 「考える」「考え続ける」ということを刺激することを意識した内容を取り入れる.

<b>領域名</b>	<b>慢性期成人看護学</b>
<b>担当教員</b>	田中克子, カルデナス暁東, 柴田佳純
<b>担当科目</b>	成人看護学概論, 慢性期成人看護学援助論, 慢性期成人看護学援助方法, 慢性期成人看護学実習, 看護実践と理論の統合, 広域統合看護学実習, 卒業演習
<b>現在の説明</b>	「概論」では、援助論, 援助方法, 実習に関連できるようにライフステージ, 健康レベルにおける身体・社会・精神的特徴が理解できるように授業を展開した。 「援助論」では、代表的な疾患事例を用いて、慢性疾患患者への必要な看護についてのアセスメント力を強化するように授業を展開した。コロナ感染拡大の影響により対面と Zoom によるハイブリッド式で展開し, 登校時は対面効果を最大限にするため教室間の中継授業ではなく各教室で教員が対面授業を行った。「援助方法」では、教員が作成した事例展開と看護援助方法の演習資料を用い、事例展開の講義と技術演習を行った。考え方の基本を理解できるように各個人の事前学習を踏まえて、学生の創意工夫の視点を重視し、双方向にできるように授業を展開した。分散登校の中で、技術演習に関しては、小人数の対面式で展開した。本年度から「領域別実習」が 3 単位となり、大学病院の 4 つの病棟で、原則として一人の受け持ち患者を中心に看護過程を展開した。学生が病気とともに生きる患者への対象理解と慢性期看護学の特質を考察できることを重視し、実習期間中に医師, CNS による臨床講義を組み入れた。「統合実習」は、学生の各自の実習テーマに応じて行った。コロナ感染拡大の影響を受け、沖永良部島徳洲会病院と高槻日赤病院における臨地実習が中止となり、Zoom による臨床講義を行った。 「卒業演習」は、教員が 2-3 名の学生を受け持ち、学生がテーマに応じて文献検討を行い、論文を作成し学内発表を行った。
<b>点検評価</b>	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>コロナ禍においても独自に作成した事例の資料に基づき、学習課題、講義、実技演習、実習と体系化したことは、学生の学習における創意工夫を尊重し、慢性看護学の理解を深める上で効果があったと考える。「援助方法」では、中間のまとめ、レポート課題に基づくディスカッションや技術演習、さらに自主参加の技術等の自己練習の時間を設けたことは再試験対象者が 7 名と少なかったので効果的であった。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>コロナ禍にある中でリモートと対面を組み合わせ、思考を深めるために授業内容や方法も工夫をしていきたい。「領域別実習」は、学生個々の学習の進度と学習の到達度に対応して指導を行うが、体験を通じて学ぶことが多いので、受け持ち患者の選定や学習の個々の能力、指導体制に関して今後も工夫が必要と考える。倫理的課題に関する理解を深めるようにカンファレンスを充実させていきたい。</p>
<b>将来に向けた発展方策・課題</b>	毎回の授業を大事にして、関連知識・技術を統合的に活用して、病気をもつ人とその家族の看護援助について系統的に思考を深め、その特質を理解できるように科目間、学習課題間を系統的に焦点化して計画する。特に実技試験に関しては、コロナ禍であったため対面授業や試験に制限があったため、今後複数の代替案を考える必要もある。今後も、学生の体験を増やすような演習・実習展開方法の工夫が必要である。事例の倫理的課題、意思決定に関してても理解を深め、自己の意見が言えるようにカンファレンスなどで積極的に取り上げていきたい。

領域名	老年看護学
担当教員	久保田正和, 桶上容子, 桜木佐知子
担当科目	老年看護学概論, 老年看護学実習Ⅰ, 老年看護学援助論, 老年看護学援助方法, 老年看護学実習Ⅱ, 看護実践と理論の統合, 統合看護学実習, 卒業演習
現状の説明	<p>2021年度も新型コロナウイルス感染症の影響により授業形態の変更を余儀なくされた。「講義演習科目」では、事前・事後課題を増やすなど学生が主体的に授業に取り組めるよう工夫した。Zoomを用いた授業では、教員による模擬患者の動画教材の作成やブレイクアウトルームの活用などにより、紙面だけでは想定が難しいペーパーペイントについてより現実味のある事例展開が実施でき、グループワークが活発になるという効果もあった。「実習科目」は昨年度以上に大きな影響を受けた。「実習Ⅰ」では、老人福祉センターでの実習ができずに、デイサービスでの実習日数も減少し、学内実習で補った。「実習Ⅱ」では各クールで施設の受け入れ状況が変わり、学習の到達度を均し、効果を高めるための工夫が必要であった。学内実習では、病棟で得た患者情報や学びについて経過を把握しながら看護実践を補った。また、ディスカッションを増やし、倫理的課題や意思決定支援等について深く学ぶことができた。「実践と理論の統合」では、グループディスカッションを取り入れることで、個々の学びを他学生と共有し、学びを深めることができた。「統合看護学実習」は、学生が立案した実習計画のもと主体的に実習を進めることができた。「卒業演習」では、学生の関心のあるテーマに沿い計画的に進め、事例研究や文献研究などを行い、卒業論文としてまとめ、学内発表を行った。</p>
点検評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b>          昨年度から、講義や演習ではグループワークを中心に学生が主体的に取り組める内容を増やしたが、オンラインでも動画教材やブレイクアウトルームの活用により学習効果は高かったと考えられる。また、実習では感染症による厳しい実習環境の中、授業評価で多くの学生が有意義であったと述べており、内容の工夫により実習科目としての質の担保はできたと考えられる。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b>          次年度はオンデマンドの授業も取り入れられる。授業形態が変化している中で、いかにして学習の効果を高めることができるかを考え、動画の作成や事例検討演習をさらに増やし、学生が主体的に授業に取り組めるよう工夫を継続していく必要がある。実習は様々な事態を想定し、学内実習内容の工夫など多くのチャンネルを準備しておく必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	コロナ禍で臨地実習の時間が減少する事態になったが、学生同士のディスカッションの時間が大幅に増え、思考を深める時間となり、老年看護学を学ぶ総まとめとして非常に有意義であった。このことから、臨地実習での学びを学生同士で共有することの重要性を再認識でき、実践での学びを定着させるためにも、記録に加えカンファレンスの機会を多く取り入れていく。また、講義演習と実習との繋がりを意識できるような内容を取り入れた授業を低学年次から進めていく。

領域名	小児看護学
担当教員	竹村淳子, 山崎 歩, 倉橋理香
担当科目	小児看護学概論, 小児看護学援助論, 小児看護学援助方法, 家族看護学, 小児看護学実習, 看護実践と理論の統合, 広域統合看護学実習(小児), 卒業演習
現状の説明	<p>今年度も対面学習とオンラインの併用で授業を実施した。「小児看護学概論」では、院内保育室見学が中止となつたため、子どもの発達や法規等について視聴覚教材とグループワークを取り入れ授業内容を補強した。「小児看護学援助論」では、疾患をもつ小児の看護がイメージしやすいよう視聴覚教材を積極的に用い講義を展開していった。「小児看護学援助方法」では、小児特有の疾患事例を用い年齢や病期に応じた看護過程の展開を行つた。感染予防に努めながら看護技術演習を実施、基本技術習得とともに体験に基づく学びをディスカッションで深めた。「家族看護学」では、家族のとらえ方に関する基本をおさえ、実践がイメージできるよう家族支援専門看護師の講義を取り入れた後、事例の展開を行つた。領域実習では、8日間の小児病棟とNICU病棟での実習および小・中学校もしくは特別支援学校2日間を合わせて「小児看護学実習」とし実習を展開した。病院実習は全学生が実習時間を確保できたが、感染状況により外来実習を中止し、病棟での実習へ変更したグループもあった。学校実習受入れ中止の際には、学内演習で養護教諭の役割および学校での健康障害を想定した演習を実施した。「看護実践と理論の統合」の事前演習では、各病棟の特徴に合わせた事例に関する実技演習を実施し学生の準備性を整えた。「統合看護学実習(小児)」は、看護マネジメントの視点で高度医療施設、急性期医療施設2施設の計3カ所で各グループの学生が、実習目標を設定して実習を展開した。感染拡大で受け入れ中断となった施設もみられたが、感染状況が落ち着いた際、難病をもつ子どもと家族の1日交流会に参加でき、子どもと家族の日常や支援を行う職種間連携について学べた。実習後には実習施設指導者を招いて発表会を実施した。「卒業演習」では、学生7人が個々の関心からテーマを絞り文献研究をすすめるプロセスを学び、学内発表会で成果を共有できた。</p>
点検評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>今年度も講義で視覚教材の活用を行い、授業評価においても子どものイメージ化を促し、学生の理解の深まりにつながっていた。今年度から病棟実習でNICU同様に1人の患児を学生2人で受け持つ実習方法を展開した。疾患やケア方法について学生間でディスカッションしながら、関わり方や技術を相互に客観的に評価、助言するといった学習効果がみられた。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>対面授業が困難な場合における技術演習授業の工夫と、学生個々の実技の確認について検討する必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	次年度は、「統合看護学実習」で難病キャンプへの参加を予定しており、従来の実習形態と異なるため、新しい学びの成果を見出すことができる。「小児看護学実習」では患児1人を2人で受け持つ実習方法の効果と課題の更なる検討が必要である。

領域名	母性看護学・助産学
担当教員	佐々木綾子, 竹 明美, 近澤 幸
担当科目	セクシュアリティと看護, リプロダクションと看護, 母性看護学概論, 母性看護学援助論, 母性看護学援助方法, 母性看護学実習, 助産学概論, 助産診断・技術学 I, 助産診断・技術学 II, 助産管理, 助産学実習, 看護実践と理論の統合, 卒業演習, 統合看護学実習
現状の説明	<p>講義科目では、新型コロナウイルス感染症の拡大に対応し、対面とオンライン授業を行った。講義の冊子体資料を前半と後半に分け配布した。最新の国家試験出題傾向を分析し、教育に活用した。また、15回開講の科目のうち前期1科目、後期3科目において期末試験、小テストの他、中間試験を行った。</p> <p>演習科目では、実践的演習をめざし、オリジナルのアセスメントツール、実践的模擬事例、教員作成の母性看護技術DVD活用などにより基本的な看護実践能力の育成をめざした。また、助産診断・技術学IIでは、シミュレーション教育を行った。</p> <p>実習では、実習施設との連携、教育設備の充実、教材整備・教材開発、医学部・大学病院看護部との連携により、基本的な看護実践能力の育成を行った。また、多職連携・臨床カンファレンスでは、統合に伴い医学部・看護学部に加え、薬学部との合同カンファレンスが本格的にスタートした。さらに周産期医療・地域母子保健関連の課題を鑑み、施設と地域の切れ目ない支援の視点を持てるようにした。</p>
点検評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>前年度の学生の授業評価をふまえ、また、コロナ禍に臨機応変に対応しながら講義・演習内容の改善を行うことができた。試験では期末試験、小テストの他、中間試験により、形成的評価を行った結果、平均点が増加した。3学部による多職連携・臨床カンファレンスでは、お互いの実践活動を知り、連携・協働のあり方について深める機会となった。助産学実習では、9月末までに6名全員が分娩介助実習を終了した。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>次年度も、対面とオンライン講義による小テスト・中間テストや練習問題、予習課題、反転授業、復習課題などで知識・技術習得を促すことができるよう教授方法を工夫する。2022年度の助産師国家試験受験資格選抜は7名を選抜した。2022年度はコロナ禍の影響を受けさらなる出産数の減少傾向が予想されている。10例程度の分娩介助例数確保のため、事例展開などによる教育の質の担保を行っていく。さらに、周産期医療・地域母子保健関連の課題、2022年度のカリキュラム改正をふまえ、施設と地域の切れ目ない支援の視点の強化を次年度も継続していく。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>視覚支援教材などの積極的活用、学生の習得状況を丁寧に確認し、看護実践力を育成する。各学生が、確実な知識・技術習得に加え、生涯学習力の基盤となる学士力を育成できるよう教育方法を検討する。</p> <p>助産師基礎教育に関する国内外の状況をふまえ、大学教育における助産学教育のあり方について検討する。助産学実習施設確保のための努力を継続する。</p>

領域名	精神看護学
担当教員	荒木孝治, 瓜崎貴雄, 山内彩香
担当科目	人間関係論, 精神看護学概論, 精神看護学援助論, 精神看護学援助方法, 精神看護学実習, 看護実践と理論の統合, 統合看護学実習, 卒業演習
現状の説明	<p>講義演習科目は COVID-19 対策のため、遠隔と対面授業を行った。「概論」では精神看護の基本概念と精神医療の歴史と法制度、リエゾン精神看護などを、「援助論」では統合失調症や気分障害といった精神疾患とその看護に関する基本的知識を教授した。「援助方法」では統合失調症やうつ病などの事例を用い、セルフケア理論に基づいて看護過程を展開して、入院中あるいは地域で生活する精神障がい者への看護の方法を教授した。「卒業演習」では計 7 名を担当し、学生の関心に沿って文献研究を指導した。</p> <p>実習科目の「精神看護学実習」は、附属病院精神神経科病棟で 1 週間、精神科訪問看護ステーションで 1 週間の実習とし、病院から地域へと続く、生活を中心据えた切れ目のない看護の視点を養えるようにした。「統合看護学実習」は、今年度から、単科精神科病院のデイケア、精神科クリニック、グループホーム、地域生活支援センターで計 2 週間の実習とし、精神障がい者の地域生活を支える多職種の役割、多職種連携、医療・福祉・行政の連携といった地域包括ケアシステムの視座を盛り込んだ実習展開とした。</p>
点検評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>講義演習科目では、ロールプレイや視聴覚教材の活用など教授方法を工夫した。また、昨年度の授業評価を踏まえ、学生の理解度の確認やフィードバックの機会を努めて設けた。その結果、各科目の授業評価においても 9 割程度の学生から、「学習目標を達成できた」との回答を得た。実習科目では、個別に事例検討を行い、既習の学習内容と照らしつつ指導した結果、学生は患者に関心を向け続け、生活歴や強みを踏まえた看護を考えることができた。授業評価で 9 割以上の学生が「実習目標を達成できた」と回答しており、病院と地域の継ぎ目のない看護を学ぶことができた。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>講義では学生が精神看護学に対する興味・関心を高め、基本的な知識を習得できるように、引き続き教授方法の工夫を図っていく必要がある。演習ではコロナ禍においても、学生同士で学びを共有できるように課題設定や運営方法を検討する必要がある。実習では、実習目標や実習ポートフォリオに記した学生の個人目標が達成できるように、看護場面を振り返り、具体的に指導していく必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	精神障がい者の地域生活を支えることについて、学生は実習の経験を通し、その課題の重要性に気づいていたが、既習の知識を活用して具体的な援助方法を考えることができるよう、引き続き授業内容や教授方法を工夫していく必要がある。

領域名	在宅看護学
担当教員	真継和子（領域長）、佐野かおり、大橋尚弘
担当科目	在宅看護学概論、在宅看護学援助論、在宅看護学援助方法、在宅看護学実習、看護実践と理論の統合、統合看護学実習（在宅）、卒業演習、家族看護学、医療カウンセリング
現状の説明	<p>COVID-19 感染拡大により、授業は双方向型 Web 授業、対面授業の併用で実施した。「在宅看護学概論」では、事前学習として UNIPA へのオンデマンド資料の掲示、学生の質問に対する丁寧なフィードバック、事例の活用により学修内容の補充を強化した。「在宅看護学援助論」では、学生の生活体験の想起から日常的ケアの個別性・多様性の理解を促進するとともに、視聴覚教材や実際の医療機器を提示し在宅での医療的ケアのイメージ化を図るよう展開した。また、例年課題となっている社会資源の活用について事例のなかで意識的に解説した。「在宅看護学援助方法」では、感染予防に努めながら模擬訪問を実施し基本技術の習得に努め、Web 上でのディスカッションと個別指導によるアセスメントの強化を図った。「家族看護学」では事例を用いた展開を行った。「医療カウンセリング」は、ロールプレイングとディスカッションにより理解を深めた。「在宅看護学実習」は、感染予防対策の強化と実習施設との情報共有を密に行いながら実施した。感染拡大のため実習方法の変更や受け入れが不可となるなど、特に後半グループは学内実習が主となった。実習施設の協力により受け持ちケースの紹介、オンラインでの情報提供やカンファレンスの実施、学内での模擬訪問の実施と振り返り、視聴覚教材の効果的活用により、アセスメント力や看護ケアの実践力強化、多職種連携の理解が深められるよう展開した。3月には実習施設と Web による実習報告会を実施した。「統合看護学実習（在宅）」では、直接的ケアの実施にあたり制限はあったものの、それぞれの実習目標に沿って訪問看護ステーションでの実習を展開した。「卒業演習」は7名の学生が選択し、個々の関心からテーマを絞り込み文献研究、訪問看護師へのインタビューによる調査を実施し、論文作成、学内発表ができた。</p>
点検評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>Web 上での資料提示や視聴覚教材の効果的な活用、フィードバックの充実により、授業評価においても在宅看護への関心の高まり、理解の深まりにつながっていた。実習では模擬訪問と振り返りの実施、訪問件数が減少したぶん思考のための時間が確保されたことで、学生のアセスメントが充実し対象の理解が深まっており、実習施設側からも好評価が得られた。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>対面授業が制限されるなか感染予防対策をした上で学内演習および実習方法の検討、学生の看護技術習得状況の確認について検討する必要がある。</p>
将来に向けた発展方策・課題	次年度から「地域・在宅看護論」「地域ケア実習」が開講され、1年次から地域で暮らす人々の生活と健康とのつながり、ケアの多様性を理解した上で2年次以降の学修につなげていくことが可能となる。他領域との連携協働が課題である。

領域名	公衆衛生看護学
担当教員	吉田久美子, 土手友太郎, 草野恵美子, 仲下祐美子, 山埜ふみ恵, 山本暁生 (12月末退職)
担当科目	必修 : 保健医療福祉概論, 情報リテラシー, 統計学, 公衆衛生学・疫学, 公衆衛生看護学概論, 公衆衛生看護学活動論, 公衆衛生看護学実習 I, 統合看護学実習 (公衆衛生看護学領域), 卒業演習/選択科目 : 大阪を学ぶ, くらしと社会・環境, 公衆衛生看護学活動方法, 公衆衛生看護学管理論, ヘルスプロモーション論, 公衆衛生看護学演習, 公衆衛生看護学実習 II, 災害看護論
現状の説明	昨年に引き続き, 授業はオンラインと対面学習の併用で実施した。事前学習にてオンデマンド資料の提示や学生の質問には対応した。公衆衛生看護活動方法や公衆衛生看護管理論では, Web 内でグループワークや発表会を実施し学生の発言力や情報共有に努めた。公衆衛生看護学実習 I は学生 33 名が履修し, COVID-19 感染拡大の中, 大阪検疫所や一部の企業は Zoom を利用し例年通り 5 月に実施した。公衆衛生看護学実習 II の履修者は 33 名であり, 7 グループに分かれて実習を行った。実習地は, 四條畷保健所と大東市, 高槻市, 大阪市都島区, 兵庫県宍粟市 (波賀町, 千種町), 兵庫県赤穂市, 兵庫県神崎郡神河町であった。実習時期は, 計画通りだったが, COVID-19 感染拡大により予定施設の臨地実習期間は, 遠隔地では 8 日間, 大阪府内は 9 日間となった。そのため, ハイリスク母子や結核等の事例検討の学内実習を実施した。臨地実習先では, 健康教育は全数実施したが, 家庭訪問はできない状況のところもあった。統合看護学実習は 10 名が履修し, 学生は主体的に実習課題を設定して, 社会福祉協議会と地域包括支援センターで実習し, 最終日には発表会にて学びを共有した。卒業演習は 10 名の学生が研究テーマを設定し, 論文作成と研究発表を行った。
点検評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>1) Zoom の利用にて公衆衛生看護学実習 I は, 全員が検疫所や企業について参加することができた。</p> <p>2) COVID-19 感染拡大により公衆衛生看護学実習 II の予定施設の実習期間は, 臨地実習日が減少しているが, 学生の自己評価は「多職種連携と看護職の役割と機能について考察できる項目」および「個から集団・地域を見る視点をもって, 地域ケアシステムの考察ができる項目」が 2019 年度と比較しても高い得点を示していた。</p> <p>3) 統合看護学実習の地域包括ケア実習では, 事前に地区踏査することで地域の特徴を理解することに役立った。</p> <p><b>2. 改善すべき事項 : ICT を利用した講義や演習内容の検討と臨地実習期間の制限がある中での効果的な学習の検討。</b></p>
将来に向けた発展方策・課題	COVID-19 感染状況により, 臨地実習先における実習内容に差があることから, できるだけ実習終了後に情報共有の場を持つことを検討する。統合看護学実習時期が 4 年生の 11 月であるため, 実習時期の検討が必要となる。

領域名	看護実践発展看護学
担当教員	鈴木久美, 池西悦子, 津田泰宏, 府川晃子, 土井智生
担当科目	健康科学概論, からだの仕組みと働きⅡ, フィジカルイグザミネーション, 病気の成り立ち, 病気の診断・治療Ⅰ・Ⅱ, がん看護学総論, チーム医療論, リスクマネージメント, 看護研究法, 看護教育, 看護と生体診断法, 看護実践発展総合演習, 看護実践発展実習, 統合看護学実習, 卒業演習
現状の説明	<p>「健康科学概論」は一部オンラインとなったが、講義とグループ学習の形で授業を行った。「病気の診断・治療Ⅰ・Ⅱ」もハイブリッド形式となったが、中間と最終日にまとめを入れて要点が身につくよう工夫した。「からだの仕組みと働きⅡ」「病気の成り立ち」も同様であったが、冊子に随時記入する形式の授業を行なった。「フィジカルイグザミネーション」では三密を避けつつ演習と実技試験を実施した。「がん看護学総論」「リスクマネージメント」では授業後に学生からの授業の感想や質問を募り、フィードバックを行うことで疑問点を解消した。「チーム医療論」はアクティブラーニングを取り入れ学生の理解促進に努めた。「看護研究法」は理解度確認の課題提示と解説を行い、理解を促す工夫をした。「看護教育」は事前課題による準備性向上と小レポートの多様な意見を紹介し内省を促した。</p> <p>「看護と生体診断法」は、講義および事例を用いた演習で展開しつつ授業を行った。「看護実践発展総合演習」では複雑な症状と疾患をもった事例を分析に活用可能なケアや看護技術について学びを深め、反転授業と技術演習を行った。「看護実践発展実習」では重症度やケア度の高い患者を受け持ち、判断力や実践力を強化する実習を行った。「統合看護学実習」「卒業演習」では11名の学生を受け入れ、学生の関心に沿ってテーマを決めて取り組み、成果発表会を行った。</p>
点検評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>学生の主体的な学びを促すことができた。感染予防対策のため状況に応じてオンラインでの授業も実施したが、学生は集中して取り組むことができていた。「がん看護学総論」では多くの学生が関心をもって授業を受けており、学びを深めることができていた。「看護実践発展実習」では学生は根拠を掘り下げるの重要性を理解し、積極的に学習することができていた。「統合看護学実習」および「卒業演習」では、学生自らが目標を立てて主体的に取り組むことができた。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>「病気の成り立ち、からだの仕組みと働きⅡ」は専門科目の基礎となる重要な科目であるため、小テストやレスポンを利用して理解の状況を確認していく。「病気の診断・治療Ⅰ・Ⅱ」は範囲が広いため、オムニバス担当教員と連携を密にして要点を明確化する。「がん看護学総論」では事前課題の量が多かったという意見があり、学生に過剰な負担のないよう課題の内容を精選する。</p>
将来に向けた発展方策・課題	本年度もオンライン授業やデータによる授業資料の提示などを要した。学生からは学習へのフィードバックを適宜行うことや、資料を速やかに配布することなどに高い評価が得られており、今後も継続的しつつより良い方法を検討していく。



### III. 看護学研究科

## 1. 教員組織

教員構成および教員数

2022年3月31日現在

### 【看護系教員】

領域	専門分野	教授	准教授	講師	助教
実践	看護教育学	1			
支援看護学	看護技術開発看護学	1	3		
療養生活	移植・再生医療看護学	1	1		
支援看護学	がん看護学	1	1		
	慢性看護学	1	1		
	精神看護学	1	1		
	老年看護学	1	1		
地域家族	母性看護学	1		1	
支援看護学	小児看護学	1	1		
	地域看護学	1	2		
	在宅看護学	1		1	1
	プライマリケア看護学	2	1	1	1
計(実人数)		11	11	2	1

### 【医学系・人文社会系教員】

領域	教授	准教授	講師	助教
公衆衛生学	1			
内科学	1			
整形外科学	1			
哲学	1			
計	4	0	0	0

#### 1) 2021年度 看護学研究科予算執行額

予算執行額 2,040,574円 (予算額 220万円)

「内訳」

予算額 200万円 執行額 1,984,889円 (看護学研究科設置経費 (入試、入試・教育要項作成、学生証、実習費、申請業務費用等)

予算額 10万円 執行額 0円 (大学院特別講義)

予算額 10万円 執行額 55,685円 (大学院学院看護学研究科 FD ワークショップ)

2) 学生在籍数

【博士前期課程】

2021年5月現在

コース	専門分野	1年	2年	在学年限 延長他	合計
教育研究	看護教育学		1		1
	看護技術開発学		1		1
	移植・再生医療看護学		2		2
	がん看護学	1			1
	慢性看護学		1		1
	精神看護学		1		1
	老年看護学		1		1
	母性看護学		1		1
	小児看護学		1		1
	地域看護学				0
	在宅看護学	1	1		2
高度実践	がん看護学		1		1
	慢性看護学	1			1
	精神看護学	1			1
	老年看護学	1	1		2
	母性看護学				0
	小児看護学	1	1		2
	プライマリケア看護学	2			2
合計		8	13	0	21

【博士後期課程】

2021年5月現在

領域名	1年	2年	3年	在学年限 延長他	合計
実践支援看護学					0
療養生活支援看護学	2	3	7		12
地域家族看護学	1		4	1	6
合計	3	3	11	1	18

## 2021年度 看護学研究科学事予定表

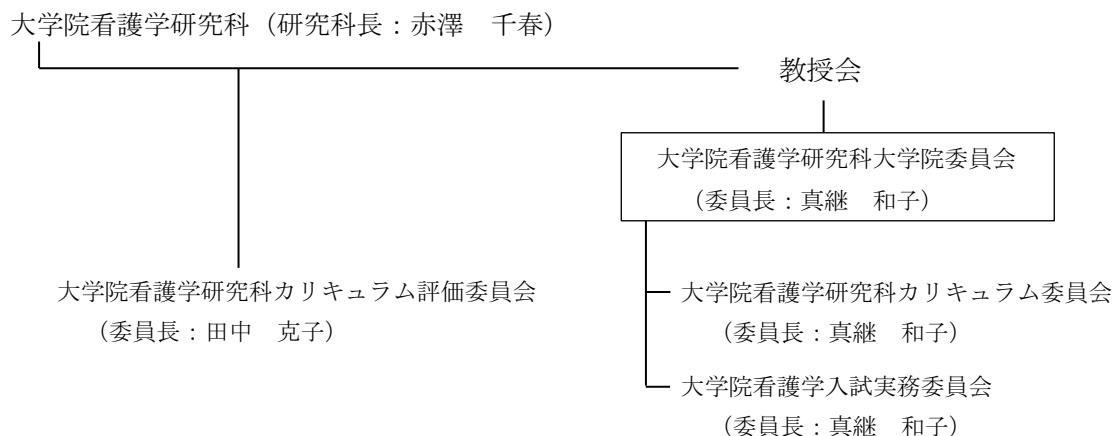
日曜		4月 内容		5月 内容		6月 内容		7月 内容		8月 内容		9月 内容	
1 木	金	臨時看護学研究科教授会 オリエンテーション・大学院入学式		1 土 (院)土③		1 火 創立記念日		1 木 (院)木①		1 日		1 水	
2 金				2 日	水	2 木		2 木 (院)木③		2 月		2 木	
3 土	(学部入学式)			3 月 宪法記念日		3 木 (院)木⑧		3 土 (院)土②		3 火		3 金	
4 日				4 火 みどりの日		4 金 (院)金⑨		4 日 (院)月⑩		4 水		4 土	
5 月 (院)月①				5 水 ごどもの日		5 土 (院)土⑧入試説明会		5 月 (院)月⑩		5 木		5 日	
6 火 (院)火①				6 木 (院)木④		6 日		6 火 (院)火⑦		6 金		6 月	
7 水				7 金 (院)金⑤		7 月 (院)月⑨		7 水		7 土		7 火	
8 木 (院)木①				8 土 (院)土④		8 火 (院)火⑧		8 木 (院)木③		8 日 山の日		8 水	
9 金 (院)金①				9 日	水	9 木		9 金 (院)金④		9 月 振替休日		9 木	
10 土 (院)土①				10 月 (院)月⑤		10 木 (院)木⑨		10 土 (院)土③		10 火		10 金	
11 日				11 火 (院)火⑤		11 金 (院)金⑩		11 日		11 水		11 土	
12 月 (院)月②				12 水		12 土 (院)土⑨		12 月 (院)月⑩		12 木 夏季閉鎖期間		12 日	
13 火 (院)火②				13 木 (院)木⑤		13 日		13 火 (院)火③		13 金 夏季閉鎖期間		13 月	
14 水				14 金 (院)金⑥		14 月 (院)月⑩		14 水 高度実践コース実習報告会		14 土 夏季閉鎖期間		14 火	
15 木 (院)木②				15 土 (院)土⑤		15 火 (院)火⑨		15 木 (院)木④		15 日 授業日程表の見方		15 水	
16 金 (院)金②				16 日		16 水		16 木 (院)木⑤		16 月 授業日程表の見方		16 木 成績開示	
17 土 研究計画・中間発表会				17 月 (院)月⑥		17 木 (院)木⑩		17 土 (院)土④		17 月 数字は、各曜日授業の回数を示します。		17 金	
18 日				18 火 (院)火⑥		18 金 (院)金①		18 日		18 水 各授業 特別研究・課題研究に於いては、指導教授と大学院生との調整により、日時を変更することがあります。		18 土 看護学研究科入学試験	
19 月 (院)月③				19 水		19 土 (院)土⑩		19 月		19 木		19 日	
20 火 (院)火③				20 木 (院)木⑥		20 日		20 火 (院)火④		20 金		20 月 敬老の日	
21 水				21 金 (院)金⑦		21 月 (院)月⑪		21 水		21 土		21 火	
22 木 (院)木③				22 土 (院)土⑥		22 火 (院)火⑩		22 木 海の日		22 日		22 水 看護学研究科教授会15:00	
23 金 (院)金③				23 日		23 水 看護学研究科教授会15:00		23 金 スポーツの日		23 月		23 木 分分の日	
24 土 (院)土②				24 月 (院)月⑦		24 木 (院)木⑪		24 土		24 火		24 金 臨時看護学研究科教授会16:00	
25 日				25 火 (院)火⑦		25 金 (院)金⑦		25 日		25 水 臨時看護学研究科教授会15:00		25 土	
26 月 (院)月④				26 水 看護学研究科教授会15:00		26 土 (院)土⑪		26 月 (院)月⑩		26 木		26 日	
27 火 (院)火④				27 木 (院)木⑦		27 日		27 火 (院)火⑤		27 金		27 月	
28 水 看護学研究科教授会15:00				28 金 (院)金⑧		28 月 (院)月⑩		28 水 看護学研究科教授会15:00		28 土		28 火	
29 木 照和の日				29 土 (院)土⑦		29 火 (院)火⑪		29 木 (院)木⑮		29 日		29 水	
30 金 (院)金④				30 日		30 水		30 金		30 月		30 木	
31 月 (院)月⑧								31 土 (院)土⑮		31 日			

## 2021年度 看護学研究科学事予定表

10月 内 容		11月 内 容		12月 内 容		1月 内 容		2月 内 容		3月 内 容	
日曜	曜	日曜	曜	日曜	曜	日曜	曜	日曜	曜	日曜	曜
1 金 (院)金①		1 月 (院)月⑤		1 水		1 土 冬季閉鎖期間		1 火 口頭試問【最終試験】		1 火	
2 土 (院)土①		2 火 (院)火⑤		2 木 (院)木⑨		2 日 冬季閉鎖期間		2 水		2 水	臨時看護学研究科教員会 (学位授与答辯・授業)
3 日		3 水 文化の日		3 金 (院)金⑩		3 月 冬季閉鎖期間		3 木		3 木	
4 月 (院)月①		4 水 (院)木⑤		4 土 (院)土⑩		4 火 (院)火③		4 金		4 金	
5 火 (院)火①		5 金 (院)金⑥		5 日		5 水		5 土		5 土	入試説明会
6 水		6 土 (院)土⑥		6 月 (院)月⑩		6 木 (院)木③		6 日		6 日	
7 木 (院)木①		7 日		7 火 (院)火⑨		7 金 (院)金④		7 月		7 月	
8 金 (院)金②		8 月 (院)月⑥		8 水		8 土 (院)土④		8 火		8 火	
9 土 (院)土②		9 火 (院)火⑥		9 木 (院)木⑩		9 日		9 水		9 水	
10 日		10 水		10 金 (院)金⑪ 主査・副査推薦締切		10 月 成人の日		10 木 研究計画発表会		10 木 成績開示	
11 月 (院)月②		11 木 (院)木⑥		11 土 (院)土①		11 火 (院)火④		11 金 建国記念の日		11 金	
12 火 (院)火②		12 金 (院)金⑦ 論文タイトル締切		12 日		12 水		12 土 研究計画発表会		12 土	
13 水		13 土 (院)土⑦		13 月 (院)月①		13 木 (院)木④		13 日		13 日	
14 木 (院)木②		14 日		14 火 (院)火⑩		14 金 (院)金⑤		14 日		14 月	
15 金 (院)金③		15 月 (院)月⑦		15 水		15 土		15 火		15 火	
16 土 (院)土③解剖歎祭		16 火 (院)火⑦		16 木 (院)木①		16 日		16 水		16 水	
17 日		17 水		17 金 (院)金⑫		17 月 (院)月④		17 木 論文発表会		17 木	
18 月 (院)月③		18 木 (院)木⑦		18 土 (院)土②		18 火 (院)火⑤		18 金 論文発表会		18 金	
19 火 (院)火③		19 金 (院)金⑧		19 日		19 水		19 土 論文発表会		19 土	
20 水 研究計画発表会		20 土 (院)土⑧		20 月 (院)月⑫		20 木 (院)木⑤		20 日		20 日	
21 木 (院)木③		21 日		21 火 (院)火①		21 金		21 月		21 月 春分の日	
22 金 (院)金④		22 月 (院)月⑧		22 水 看護学研究科教員会15:00 (主査・副査の決定)		22 土 (院)土⑤		22 火		22 火	
23 土 (院)土④		23 火 勤労感謝の日		23 木 (院)木②		23 日 (院)日⑮		23 水 天皇誕生日		23 水 看護学研究科教員会15:00	
24 日		24 水 看護学研究科教員会15:00		24 金 (院)金③		24 月 (院)日⑯		24 木 看護学研究科教員会15:00 (主査・副査の決定)		24 木	
25 月 (院)月④		25 木 (院)木⑧		25 土 (院)土③		25 火		25 金 博士・修士論文提出(正午迄)		25 金	学位記授与式
26 火 (院)火④		26 金 (院)金⑨		26 日		26 水 看護学研究科教員会15:00		26 土		26 土	
27 水 看護学研究科教員会15:00		27 土 (院)土⑨		27 月 (院)月③		27 木		27 日		27 日	
28 木 (院)木④		28 日		28 火 (院)火⑦		28 金		28 月		28 月	
29 金 (院)金⑤		29 月 (院)月⑨		29 水 冬季閉鎖期間		29 土		29 火		29 火	
30 土 (院)土⑤		30 火 (院)火⑧		30 木 冬季閉鎖期間		30 日		30 水		30 水	
31 日				31 金 冬季閉鎖期間		31 月		31 木 修士博士論文製本提出17:00		31 木	

## 2. 運営と教育活動

### 1) 運営組織



2) 委員会

委員会名	(1) 看護学研究科大学院委員会	SDGs との 関連		
目的	看護学研究科の管理・運営を円滑に進めるために設けられ、大学院生の教育、研究、学位審査、学生生活に関する事柄、また、入学試験等に関する協議を行い、必要事項を審議事項、報告事項として教授会に提議する。			
構成員	真継和子（委員長）、竹村淳子（副委員長）、小林道太郎、津田泰宏、草野恵美子、川端由夏（看護学事務課）、田中佑美（大学院課）			
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程全般の運営</li> <li>2. 教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し</li> <li>3. 学位論文審査の位置づけの明確化と学位論文評価基準の見直し</li> <li>4. 学位論文申請審査に関する事項の整備</li> <li>5. 特別研究および課題研究の担当基準の見直し</li> <li>6. 博士前期課程（修士）高度実践コースのカリキュラム検討、更新申請に向けた準備、CNS・NP認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立</li> <li>7. 入学試験に関する事項</li> <li>8. 新分野設置構想と入学定員枠の検討</li> <li>9. 広報活動推進と受験者獲得の向けた対策</li> <li>10. 学習環境、学生サービスの充実</li> <li>11. FD の推進</li> <li>12. 大学院運営力の強化</li> <li>13. 新型コロナウイルス感染症への対応</li> </ol>			
活動概要	<p><b>委員会の開催</b></p> <p>13回の委員会（定例11回、臨時2回）を開催した。</p> <p><b>1. 教育課程全般の運営</b></p> <p>1) 新入生オリエンテーション</p> <p>4月に新入生を対象に、教育課程と履修方法、学生生活に関すること、TA/RRAについて対面にて説明した。また、科目等履修生を含めて共通科目および分野別のガイダンスを実施した。履修相談は隨時受け付けた。</p> <p>2) 既修得単位認定に関する事項</p> <p>新入生のうち2名の既修得単位認定にあたり該当科目の科目責任者との調整、認定の可否について検討した。</p> <p>3) 学位論文に関する事項</p> <p>2020年度修了生の学位論文要旨および審査結果のHPでの公開を5月に行った。</p> <p>2021年度修了予定者に対し、学位論文申請から論文提出までのマニュアルを提示し、学位論文申請、論文審査、提出等が円滑に実施されるよう調整した。口頭試問の場の確保、論文発表会の企画・運営を行った。学位論文発表会は2月17</p>			

	<p>日，18日，19日の3日間にわたり実施した。学位論文の最終評価のまとめと修了単位取得状況を確認し，教授会に諮った。</p> <p>学位論文発表会の詳細は以下のとおりである。2月17日（木）博士前期課程6名，2月18日（金）博士前期課程5名，2月19日（土）博士後期課程8名</p> <p>博士後期課程の学位論文審査について，2022年度からの秋季学位論文審査の実施に向け，院生にとってのメリット，審査スケジュールを検討し教授会に諮った。</p> <p>4) 特別研究・課題研究に関する事項</p> <p>4月に新入生の主指導・副指導教員の調整を行い，教授会に諮った。セメスター毎にグループ指導の実施状況について把握し，規定回数に満たない場合には指導教員に実施を促した。4月，10月に博士後期課程の中間発表会，4月，10月，2月に両課程の研究計画発表会を開催した。詳細は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 中間発表会：4月17日（土）2名，10月20日（水）2名</li> <li>(2) 研究計画発表会：4月17日（土）博士前期課程1名，博士後期課程1名，10月20日（水）博士後期課程3名，2月10日（木）博士前期課程3名，2月12日（土）博士前期課程4名</li> </ul> <p>5) 高度実践コース実習に関する事項</p> <p>高度実践コース（CNS）実習報告会を7月14日に開催し，老年看護学およびがん看護学分野それぞれ1名ずつの発表があった。COVID-19感染拡大により実習施設の受入時期の変更が生じた分野もあったが，各分野で実習施設との調整を図っていただき成績評価等に影響が生じないよう対処した。また，再実習にかかる実習費の取り扱いについて検討し，教授会に諮り共有した。</p> <p>6) TAオリエンテーションおよび研修の実施</p> <p>TA6名を対象に，TAの目的・役割・心得についてオンラインによるオリエンテーションを5月に2回実施した。また，TA研修として博士前期課程前期科目「看護教育学」の講義のうち2コマ，博士前期課程後期科目「看護倫理」のうち1コマを受講してもらった。</p> <p>7) 講義時間変更申請書の作成</p> <p>講義時間の変更申請書を作成し，教員と看護学事務課が変更内容を共有し院生への連絡調整が円滑にできるようにした。</p> <p>8) 他研究科講義の聴講に関する事項</p> <p>医学研究科博士課程の開講科目「統合講義」における医療統計学の講義（全4回），修士課程「医療統計学基礎」「社会健康医療データ・サイエンス演習」の聴講生の募集，受講の調整を実施した。</p> <p>9) 入学前補習授業の実施</p> <p>2022年度入学予定者を対象に，大学院での学びや研究のすすめ方，文献検索とクリティックについて2022年3月5日，19日の2日間にわたり補習授業を実施し，入学予定者8名全員の参加があった。アンケート結果でも高評価を得た。</p>
--	--

<b>活動概要</b>	<p>10) 科目等履修生の募集 2021年度後期、2022年度前期の科目等履修生の募集、選考に際しての出願書類の確認を実施し、教授会に諮った。</p> <p>11) 科目担当教員についての事項 科目担当教員（常勤教員、兼任教員、非常勤教員）について、新たに科目を担当する教員についての業績書類の確認と審議、兼任および非常勤教員の継続に関して審議し、教授会に諮った。</p> <p>12) ベスト・ティーチャー賞の公示・投票 ベスト・ティーチャー賞の候補者の基準の見直しを行った。ベスト・ティーチャー候補者の選考に関する要領に沿って該当教員を選出し、ベスト・ティーチャー細則にもとづき博士前期課程および博士後期課程の院生に2021年1月末に公示、2月に投票を実施した。その結果を教授会に諮った。</p> <p>13) 長期履修の申請について 2月に2名からの申請があり、状況を確認し教授会に諮った。</p> <p>14) 授業評価アンケートの実施 2月に在学生を対象に授業評価アンケートを実施し取りまとめ、教授会で報告し共有した。回収率は博士前期課程38%、博士後期課程44%であった。</p> <p>15) 研究業績調査の実施 3月に在学院生、修了生に調査依頼をした。</p> <p>16) 就職先アンケート調査の実施 3月にディプロマ・ポリシーの到達度を評価しカリキュラム改革に活用するために、修了生の就職先である病院の教育担当者に調査依頼をした。</p> <p>17) 教育要項の作成 教育要項を見直し、大きな変更点として各科目とSDGsとの関連を明示した。</p> <p><b>2. 教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し</b></p> <p>1) カリキュラム評価、修了生アンケートの分析 4月に、2020年度のカリキュラム評価および修了生アンケートの結果を取りまとめ、教授会で共有した。また、2021年度の調査を2月に実施した。昨年度より回収率が低かった。</p> <p>2) 各種データに基づくカリキュラムの検討 2020年度カリキュラム評価および修了生アンケート結果、9月に実施されたアセスメントリストに基づく自己点検・評価結果に基づき、大学院カリキュラム上の課題を確認した。看護教育学分野において専門領域科目の科目名称ルールに則り、科目名称の変更を行った。一部科目において、開講時期の変更や開講年次の幅を拡げることとし、教授会に諮った。</p> <p><b>3. 学位論文審査の位置づけの明確化と学位論文評価基準の見直し</b></p> <p>1) 学位論文審査の位置づけ（規定等）の確認、共有（4月） 昨年度の課題をふまえ、本大学院における学位論文の位置づけについて規定を</p>
-------------	---

活動概要	<p>確認し、教授会で共有した。</p> <p><b>2) 学位論文の評価項目を検討、修正（6月）</b></p> <p>学位論文の質を担保するため評価項目の見直しを実施し、博士後期課程の学位論文の評価項目を追加した。さらに、学位論文の最終評価の評定について検討し、教授会に諮った。</p> <p><b>3) 学位授与基準の明文化</b></p> <p>2020年度に実施された大学基準協会による機関別認証評価の結果を受け、学位授与基準について検討、教授会に諮り共有した。2022年度から教育要項に明示することとした。</p> <p><b>4. 学位論文申請審査に関する事項の整備</b></p> <p>学位論文申請から審査、最終評価までの流れを可視化、マニュアルを作成し、教授会に諮り共有した。</p> <p><b>5. 特別研究および課題研究の担当基準の見直し</b></p> <p>博士前期課程高度実践コース入学者数の増加を鑑み、特別研究「課題研究」の担当基準を検討した。学位（博士）取得状況、教育研究業績および医療専門職としての実務家経験を考慮し、要件を満たす助教・講師も副指導にあたることができるように検討し、教授会に諮った。2022年度より新基準で実施することとなった。</p> <p><b>6. 博士前期課程（修士）高度実践コースのカリキュラム検討、更新申請に向けた準備、CNS・NP認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立</b></p> <p><b>1) 新科目「精神看護学特論Ⅲ」の設置</b></p> <p>博士前期課程高度実践コース精神看護学分野においてリエゾン看護を選択できるよう新科目として「精神看護学特論Ⅲ」の設置、「精神看護学実習」の見直しを分野長とともに検討、7月に日本看護系大学協議会への申請を行った。1月に認可を受け、2022年度から開講することとなった。</p> <p><b>2) 非常勤講師、高度実践コースにおける実習指導者の採用条件の検討</b></p> <p>非常勤講師の採用基準について、非常勤講師の資格等（総務部人事課）と高度実践看護師教育課程審査基準（日本看護系大学協議会）、全国および近畿圏の各分野の専門看護師者数に基づき、その要件を確認し、教授会で共有した。</p> <p><b>3) 博士前期課程（修士）高度実践コースの更新申請に向けた準備</b></p> <p>高度実践コースの教育課程は、2023年7月に更新申請を行う予定である。そのため、2022年度から申請までのカリキュラム作成および書類作成に関する工程表を作成し、教授会で説明した。</p> <p><b>4) CNS・NP認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立</b></p> <p>CNSおよびNPの資格取得については、いずれも大学院修了後に認定試験が実施される。これまでには、修了生本人の学習と本学教員の自主的な支援によって合格のための支援を実施してきた。今後、修了生の合格率の維持・向上に向けて、フォローアップ体制が必要であることが確認され、専門分野の能力の向上に寄与する方策を検討していくこととなった。</p>
------	---

	<p><b>5) CNS 過去問題の取り扱いについて</b></p> <p>院生指導やカリキュラムの見直しに活用するため、日本看護協会認定教育課程が公表する CNS 過去問題の保存と取り扱いについて定め、教授会で共有した。</p> <p><b>7. 入試に関する事項</b></p> <p>1) 入学試験の準備、実施、感染対策</p> <p>入学試験要項に関して、大学名やメールアドレスの変更に伴う記載事項の加筆修正、願書提出時の必要書類の見直しを図った。COVID-19 感染の拡大は収束していくなかつたが、例年通りの日程で入学試験を行う方針にて準備を行い、文部科学省のガイドラインに準じた感染予防対策を講じた上で、2021 年 9 月 18 日に実施した。今年度は受験者が無症状の場合には濃厚接触者であっても一定の条件を満たせば受験を許可する方針とした。試験後に入試関係者からの感染は発生しなかった。</p> <p>2) 2021 年度大学院入試 資格審査の実施</p> <p>出願資格審査基準に沿って、申請者 7 名の審査を実施した。</p> <p>3) 入試要件の検討、入学試験合格基準の見直し</p> <p>入学定員数の増員、入学試験合格基準の見直しを行い、教授会に諮った。</p> <p>4) 入試成績の分析、AP の評価</p> <p>コロナ禍であったが前期過程の出願数は前年と同数で過去最多であり、選考の結果 10 名を合格とし、9 名が入学手続きを行った（定員数の 1.13 倍）。後期課程に関しては、出願者数は 5 名であり前年より 1 名減少、過去最小であった。合格者は 4 名であり全員が入学手続きを行っている（定員数の 1.3 倍）。入試成績に関して、前期課程は英語、専門共通ともに例年より得点が低く、平均総得点の低下がみられた。後期課程も平均総得点は前年より低下したが、例年と比較して同じレベルであった。口述は平均点の大きな変化は見られなかった。次年度以降の改善点として、後期課程の出願者数の減少があり、コロナ禍の影響か、設置大学の増加に伴うものか検討する必要がある。また受験生の過去問の閲覧は直近 3 年分のみとする方針とした。</p> <p>5) 博士後期課程出願資格の検討</p> <p>博士後期課程における出願資格要件について他大学の状況や受験者数、入学者数を考慮し出願資格を見直し、出願資格のひとつである論文数を 2 編から 1 編とし、教授会に諮った。</p> <p><b>8. 新分野設置構想と入学定員枠の検討</b></p> <p>1) 新分野設置についての検討</p> <p>医学系教員が特別研究の主指導が可能となったことを受け、新分野の設置について検討した。現行カリキュラムの整理と受験者ニーズを把握する必要性があることから、引き続き継続審議とした。また、学部の組織再編に併せ医学系教員のうち療養生活支援看護学領域では「臨床医学領域」、地域家族支援看護学領域では「社会医学領域」となった。</p>
--	--

	<p><b>2) 収容人数定員枠の検討</b></p> <p>2020 年度に実施された大学基準協会機関別認証評価を受け、2024 年度までは収容人数の報告義務が課せられているため、その間は現行のままとすることで、教授会で共有した。ただし、受験者数の推移や他大学の受験・入学状況を分析し、入試合格基準を見直し、教授会に諮った。</p> <p><b>9. 広報活動推進と受験者獲得の向けた対策（本学卒業生の大学院進学に向けた働きかけと仕組みづくり 等）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 入学者用パンフレット・リーフレットの見直し、作成</li> </ol> <p>2022 年度版は大学統合に伴う大学名等の変更を行うとともに、内容構成や写真等を新たに更新した。また 2021 年度に開講した高度実践コース ナースプラクティショナー（以下、NP）教育課程の紹介を引き続き掲載するとともに、医学系教員の研究分野の説明や新たな開講科目の紹介を掲載することとした。2022 年度版は、リーフレットの代わりにポスターを作成するなど広報効果の高い方法をさらに検討していく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 入学試験要項見直し</li> </ol> <p>入学試験要項を見直し、受験者によりわかりやすい要項となるよう修正した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 「入試説明」「英語文献の読み方講座」HP 上での動画配信</li> </ol> <p>新型コロナ感染症拡大により通常の対面型での開催を極力控え、オンデマンド形式による入試説明と領域紹介、修了生による大学院紹介を実施し、2020 年度に引き続きホームページ上の動画配信を行った。また「英語文献の読み方講座」も引き続きオンデマンド配信した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4) 入試説明会・個別相談会の実施</li> </ol> <p>新型コロナ感染症拡大により全面オンライン（LIVE 形式）にて Web 会議システム（Zoom）による入試説明会・個別相談を実施した。また、Web による個別相談は随時、受け付けた。また、Zoom により在学生と懇談できる機会を設けた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第 1 回個別相談：2021 年 6 月 5 日（土）23 名（別日相談含む）</li> <li>(2) 第 2 回個別相談：2022 年 3 月 5 日（土）13 名（別日相談含む）</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>5) 学部卒業生の入学金について</li> </ol> <p>本学看護学部卒業生の入学金半額免除について検討し、教授会に諮った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6) ホームページの更新</li> </ol> <p>随時ホームページ更新を実施し、情報発信に努めた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7) 在学生・卒業生の大学院進学促進のためのニーズ調査の実施</li> </ol> <p>在学生および卒業生のキャリア形成および大学院進学ニーズに関する調査を 9 ～10 月に実施した。その結果、大学院進学希望者は一定数みられることがわかった。課題としてキャリア形成に関する情報提供と大学院進学に向けた広報活動の充実があげられた。また、進学にあたっての経済的支援が求められていた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8) 在学生への広報活動</li> </ol>
--	--

	<p>3年生を対象に、就職支援委員会との連携のもと、1月22日（土）の3年生就職ガイダンスの機会を活用して大学院についての紹介を行った。</p> <p><b>10. 学習環境、学生サービスの充実</b></p> <p>1) 大学院生の交流会</p> <p>当初は4月開催予定であったが、コロナ感染症拡大のため延期して7月17日に実施した。院生15名、教員13名の参加があり、5グループに分かれて意見交換や院生へのアドバイスを行った。アンケートではほとんどの院生が満足したと回答したが、昼休み時間に行なったため時間が短かったという意見があった。</p> <p>2) 成績評価のUNIPAへの移行</p> <p>昨年度、連絡事項の掲示とシラバスをUniversal Passportに移行したが、今年度より成績評価をUNIPA上で行い、閲覧できるようになった。</p> <p>3) 学習環境整備</p> <p>院生室のPCを各部屋1台ずつ入れた。</p> <p>4) 学生活ガイドの作成</p> <p>学生活ガイドを見直し、障害のある学生への支援について加筆した。</p> <p>5) 学勢調査の実施</p> <p>2月に学勢調査を行い、前期課程10名（48%）後期課程8名（44%）の回答を得た。特に前期課程の学生に経済的不安があること、ハラスメントを受けたとする学生がいること、コロナ禍で学生同士の交流・情報交換が難しかったと感じられていること等が示された。</p> <p><b>11. FDの推進</b></p> <p>「高度実践コースにおける学生への教育」をテーマに山口桂子先生（日本福祉大学）に講演を依頼した。対象は、看護学研究科を担当する教員と博士後期課程学生（プレFD）で、教員26人、学生2人の参加であった。講演の内容は、高度実践看護師の教育課程の経緯や学生指導の実際であり、参加者の反応は概ね高評価であった。</p> <p>博士前期課程の学生も対象としたFDとして、看護学実践研究センターとの共催で「新型コロナウイルスの感染症に関する看護師のメンタルヘルスケアについて」と題し、武用百子先生（大阪大学）の講演を行った。</p> <p><b>12. 大学院運営力の強化</b></p> <p>大学院委員会、委員会開催前の打ち合わせのほか、適時、連絡調整を密に行い情報共有を行いながら運営に努めた結果、院生対応が円滑に進めることができた。</p> <p><b>13. 新型コロナウイルス感染症への対応</b></p> <p>1) 大学院基本方針の検討と提示</p> <p>COVID-19感染拡大状況および本学での感染状況を考慮し、セメスターごとに基本方針を検討、院生、教員に周知を図った。さらに、月1回開催される新型コロナウイルス感染症対策会議における大学の基本方針を受け毎月見直しを行い、メール、UNIPAにて院生への周知を図った。</p>
--	---

活動概要	<p>2) COVID-19 ワクチン接種および PCR 検査の調整 COVID-19 ワクチン接種を希望する院生の集約と調整、実習に際し PCR 検査が必要な際の調整を実施した。</p> <p>3) COVID-19 による教育・研究活動への影響に関するアンケートの実施 学勢調査の一部に質問項目を追記し、2月に実施した。</p> <p><b>14. その他</b> 日本看護系大学協議会看護学教育評価検討委員会が提示する大学院評価項目（案）に沿って、本大学院の現状を検討し一覧にまとめ、教授会で報告した。</p>
評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>1) 学位論文審査の流れを可視化したことにより、論文提出期限の厳守、学位論文審査の評価時期の一律化が図れている。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>1) 高度実践コース修了者に対するフォローアップ体制は教員個々の裁量に任せられているため今後検討を要する。</p> <p>2) 在学生・卒業生への入学金免除を含めた大学院に関する情報提供など、学部卒業後のキャリア形成への大学院活用に向けて、さらなる広報活動が必要である。</p> <p>3) COVID-19 感染予防対策を講じ院生間の情報交換、交流の場を確保していく。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<p>1. 博士前期課程（修士）高度実践コース教育課程更新の準備</p> <p>2. CNS・NP 認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立</p> <p>3. 本学卒業生の大学院進学に向けた働きかけと仕組みづくり</p> <p>4. 国際交流を図り、大学院生の国際性の涵養</p>

委員会名	(2) 看護学研究科カリキュラム委員会	SDGsとの関連	
目的	大学院看護学研究科のカリキュラムに関わる事項の調整を行なうことを目的とする。		
構成員	真継和子（委員長）、竹村淳子、吉田久美子、寺口佐與子、川端由夏（看護学事務課）、田中佑美（大学事務課）		
活動計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アセスメントポリシーにもとづく学修成果の評価</li> <li>2. 現行カリキュラム運営の評価、見直し</li> <li>3. 授業内容、授業方法の充実および改善</li> <li>4. 2022年度高度実践コース（精神看護学分野）新規科目設置への対応</li> <li>5. 2023年度高度実践コース（CNS）更新申請への対応</li> <li>6. 博士前期課程高度実践コース修了生のキャリア教育</li> <li>7. 学位授与基準の検討</li> </ol>		
活動概要	<p>3回の委員会を開催した。</p> <p><b>1. アセスメントポリシーにもとづく学修成果の評価</b> アセスメントリストにもとづき、データ収集、分析・評価を実施し、報告書として取りまとめ、10月の教授会で共有した。</p> <p><b>2. 現行カリキュラム運営の評価、見直し</b> 在学中の大学院生への意見聴取を実施した。その結果、科目内容ならびに開講年度学期について意見があり、2023年度高度実践コース再申請に合わせてカリキュラム全体を見直すこととなった。</p> <p><b>3. 授業方法（ICT活用授業等）の充実および改善</b> 2021年度授業評価をふまえ、私立大学等改革総合支援事業にもあるとおり大学院においても必要に応じてオンラインを活用していくことが検討された。</p> <p><b>4. 2022年度高度実践コース（精神看護学分野）新規科目設置への対応</b> 「精神看護学特論III」の科目設置について審議し、大学院委員会に諮った。</p> <p><b>5. 2023年度高度実践コース（CNS）更新申請への対応</b> 2023年の再申請に向けたロードマップを作成し、大学院委員会に諮った。</p> <p><b>6. 博士前期課程高度実践コース修了生のキャリア教育</b> 修了生のキャリア教育について課題と他大学の情報収集を行い大学院委員赤井に報告し、大学院主催FD講演内容をふまえ引き続き検討することとなった。</p> <p><b>7. 学位授与基準の検討</b> 2020年度に実施された大学基準協会による大学機関別認証評価を受け、学位授与基準を検討し、大学院委員会に諮った。</p>		

評価	<p><b>1. 効果が上がっている事項</b></p> <p>アセスメントポリシーに基づき学修成果を自己点検・評価したことにより、現行カリキュラムの課題が明確となり、徐々に改善につながっている。</p> <p><b>2. 改善すべき事項</b></p> <p>高度実践看護師教育課程更新申請に併せて、科目内容ならびに開講年度学期についての検討が必要である。</p>
将来に向けた発展方策・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 定期的に自己点検・評価を実施し、カリキュラム上の課題改善につなげる。</li> <li>2. これまでの課題を整理し、2023年度日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程更新申請に向けての準備を進める。</li> </ol>

委員会名	(3) 看護学研究科カリキュラム評価委員会	SDGs との 関連	
目的	カリキュラムの質保証を強化するため、内部評価だけでなく（外部委員や学生医院による）外部評価も反映されたカリキュラム評価・改善のための活動を行う。		
構成員	田中克子（委員長）、久保田正和、土肥美子、川端由夏、田中佑美（看護学事務課）（以上、学内委員のみ記載） 外部委員：寺崎文生（医学部教員）、林 優子（他大学看護系教員）、芦田泰弦（企業に所属する専門家）、坪井茉莉、近澤 幸（以上、研究科学生）		
活動計画	1. 教育目的・目標、各種ポリシーの評価 2. カリキュラムの評価 3. 各種ポリシーに沿った評価を実施		
活動概要	1. 新型コロナウイルス感染症対策の評価を行った。 2. 授業評価アンケート結果について評価を行った。 3. 各種ポリシーについて、「学位審査基準を新たに明記したこと」「カリキュラムの改正」に関して評価を行った。 4. 大学統合により、「多職種連携」の重要性が高まっている。大学院のカリキュラムへの反映について評価を行った。 5. 学位論文について、海外雑誌における投稿先の基準が設けられていないため、粗悪学術誌への投稿が行われている可能性がある。今後の対策について検討を行った。 6. 退学率について評価を行った。		
評価	<b>1. 効果が上がっている事項</b> 1) コロナ禍も2年目に入り、オンラインでの講義やグループ指導も大きな問題なく行うことができている。今後も併用しながら授業の質を保つ工夫を行う。 2) 各領域では、授業の中で多職種での意見交換会を行う機会を設けるなど、多職種連携への意識は高まっている。 <b>2. 改善すべき事項</b> 1) 授業評価について、対面でのアンケートが実施できなかつたため回答率が低下した。回答しやすいアンケート実施について検討を行うことが必要である。 2) 履修科目が多いために課題に追われ、研究時間の確保ができないことの懸念がある。研究テーマの設定や準備性も含めて、学生への指導方法の検討が必要である。		
将来に向けた発展方策・課題	医科学専攻修士課程の科目には「多職種連携論と病診連携総論」があり、看護学研究科学生も受講できる体制を整えていく。また、粗悪学術誌については、学生の将来の評価にも影響するため、FDを開催し、粗悪学術誌に対する知識と対策を学ぶ。さらに海外雑誌の投稿先への制限を設けるか、もしくは国内学会雑誌への投稿を推奨していく。		

### 3) 教育活動

#### (1) 博士前期課程

##### ①授業科目一覧

##### ●博士前期課程教育研究コース

2021年度入学生用

区分	授業科目	配当年次	実践支援看護学領域				療養生活支援看護学領域					
			看護教育学		看護技術開発看護学		移植・再生医療看護学		がん看護学		慢性看護学	
			単位数		単位数		単位数		単位数		単位数	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
共通科目	看護倫理	1後	2		2		2		2		2	
	看護学研究方法論	1前	2		2		2		2		2	
	看護現任教育論	前(隔・奇数年度)	2		2		2		2		2	
	看護理論	1前	2		2		2		2		2	
	看護管理学	1後	2		2		2		2		2	
	コンサルテーション論	1後	2		2		2		2		2	
	看護政策論	1前	1		1		1		1		1	
	フィジカルアセスメント論	1前	2		2		2		2		2	
	臨床薬理学	1後	2		2		2		2		2	
	病態生理学	1前	2		2		2		2		2	
	看護哲学	1後	2		2		2		2		2	
実践支援看護学領域	英語論文講読	1通	1		1		1		1		1	
	看護教育学	1前	2		2		2		2		2	
	看護教育課程論	1後	2		2		2		2		2	
	看護教育学演習	1後	2		2		2		2		2	
	看護技術開発学特論Ⅰ	1前		2	2		2		2		2	
	看護技術開発学特論Ⅱ	1前		2	2		2		2		2	
	看護技術開発学演習Ⅰ	1通		2	2		2		2		2	
療養生活支援看護学領域	看護技術開発学演習Ⅱ	1後～2前		2	2		2		2		2	
	移植・再生医療看護学特論Ⅰ	1前		2		2			2		2	
	移植・再生医療看護学特論Ⅱ	1後		2		2			2		2	
	移植・再生医療看護学演習	1後～2前		2		2			2		2	
	がん看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2	2		2	
	がん看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2	2		2	
	がん看護学援助論Ⅰ	1前		2		2		2	2		2	
	がん看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2	2		2	
	がん看護学演習Ⅰ	1通		2		2		2	2		2	
	がん看護学演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2	2		2	
	慢性看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2	2		2	
	慢性看護学特論Ⅱ	1前		2		2		2	2		2	
	慢性看護援助論Ⅰ	1前		2		2		2	2		2	
	慢性看護援助論Ⅱ	1後		2		2		2	2		2	
地域家族支援看護学領域	慢性看護学演習Ⅰ	1後		2		2		2	2		2	
	慢性看護学演習Ⅱ	2前		2		2		2	2		2	
	精神看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2	2		2	
	精神看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2	2		2	
	精神看護アセスメント論	1前		2		2		2	2		2	
	精神看護学援助論Ⅰ	1前		2		2		2	2		2	
	精神看護学援助論Ⅱ	1後		2		2		2	2		2	
	精神看護学演習Ⅰ	1後		2		2		2	2		2	
	精神看護学演習Ⅱ	2前		2		2		2	2		2	
	老年看護学特論	1前		2		2		2	2		2	
	老年看護アセスメント論	1前		2		2		2	2		2	
	老年期病態治療論	1前		2		2		2	2		2	
	老年看護援助論	1後		2		2		2	2		2	
	老年看護サポートシステム論	1後		2		2		2	2		2	
特別研究	老年看護学演習Ⅰ	1後		2		2		2	2		2	
	老年看護学演習Ⅱ	1前		2		2		2	2		2	
	家族看護学特論	1前		2		2		2	2		2	
	周産期看護論	1前		2		2		2	2		2	
	母性看護学特論	1前		2		2		2	2		2	
	ウイメンズヘルス看護論	1前		2		2		2	2		2	
	周産期看護援助論Ⅰ	1前		2		2		2	2		2	
	周産期看護援助論Ⅱ	1後		2		2		2	2		2	
	周産期看護演習Ⅰ	1後～2前		2		2		2	2		2	
	周産期看護演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2	2		2	
地域家族支援看護学領域	小児看護学特論	1前		2		2		2	2		2	
	小児と病気	1前		2		2		2	2		2	
	発達障害看護論	前(隔・偶数年度)		2		2		2	2		2	
	小児看護アセスメント論	1後		2		2		2	2		2	
	小児看護学演習	1後～2前		2		2		2	2		2	
	地域看護学特論	1前		2		2		2	2		2	
	地域ケアシステム特論	1後		2		2		2	2		2	
	地域母子保健論	前(隔・奇数年度)		2		2		2	2		2	
	地域看護学演習	1後～2前		2		2		2	2		2	
	在宅看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2	2		2	
合計数	在宅看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2	2		2	
	在宅看護学演習	1後～2前		2		2		2	2		2	
	特別研究	特別研究	1～2通	8		8		8		8		8
				20	122	22	120	20	122	20	122	18
												124

〈修了要件〉2年以上在学して所定の単位（32単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。必修科目をすべて履修し、専攻分野専門科目から3科目6単位以上（必修科目を含む）

を履修する。ただし実践支援看護学領域科目の「看護教育学」を受講することを推奨する。

区分	授業科目	配当年次	療養生活支援 看護学領域				地域家族支援看護学領域					
			精神 看護学		老年 看護学		母性 看護学		小児 看護学		地域 看護学	
			単位数		単位数		単位数		単位数		単位数	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
共通科目	看護倫理	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護学研究方法論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護現任教育論	前(隔・奇数年度)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護理論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護管理学	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	コンサルテーション論	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護政策論	1前	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	フィジカルアセスメント論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	臨床薬理学	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	病態生理学	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
看護実践支援領域	看護哲学	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	英語論文講読	1通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	看護教育学	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護教育課程論	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護教育学演習	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
療養生活支援看護学領域	看護技術開発学特論Ⅰ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護技術開発学特論Ⅱ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護技術開発学演習Ⅰ	1通	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	看護技術開発学演習Ⅱ	1後～2前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	移植・再生医療看護学特論Ⅰ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	移植・再生医療看護学特論Ⅱ	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	移植・再生医療看護学演習	1後～2前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	がん看護学特論Ⅰ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	がん看護学特論Ⅱ	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	がん看護学援助論Ⅰ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
地域家族支援看護学領域	がん看護学援助論Ⅱ	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	がん看護学演習Ⅰ	1通	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	がん看護学演習Ⅱ	1後～2前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	慢性看護学特論Ⅰ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	慢性看護学特論Ⅱ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	慢性看護援助論Ⅰ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	慢性看護援助論Ⅱ	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	慢性看護学演習Ⅰ	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	慢性看護学演習Ⅱ	2前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	精神看護学特論Ⅰ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
特別研究	精神看護学特論Ⅱ	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	精神看護アセスメント論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	精神看護アセスメント論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	精神看護援助論Ⅰ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	精神看護援助論Ⅱ	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	精神看護学演習Ⅰ	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	精神看護学演習Ⅱ	2前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	老年看護学特論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	老年看護アセスメント論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	老年期病態治療論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
地域家族支援看護学領域	老年看護援助論	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	老年看護サポートシステム論	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	老年看護学演習Ⅰ	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	老年看護学演習Ⅱ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	家族看護学特論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	周産期看護論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	母性看護学特論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	ウイメンズヘルス看護論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	周産期看護援助論Ⅰ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	周産期看護援助論Ⅱ	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
特別研究	周産期看護演習Ⅰ	1後～2前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	周産期看護演習Ⅱ	1後～2前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	小児看護学特論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	小児と病気	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	発達障害看護論	前(隔・偶数年度)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	小児看護アセスメント論	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	小児看護学演習	1後～2前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	地域看護学特論	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	地域ケアシステム特論	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	地域母子保健論	前(隔・奇数年度)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
在宅看護学領域	地域看護学演習	1後～2前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	在宅看護学特論Ⅰ	1前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	在宅看護学特論Ⅱ	1後	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	在宅看護学演習	1後～2前	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
特別研究	特別研究	1～2通	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
		合計数	20	122	18	124	26	116	22	120	22	120

〈修了要件〉 2年以上在学して所定の単位（32単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉 指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。必修科目をすべて履修し、専攻分野専門科目から3科目6単位以上（必修科目を含む）を履修する。ただし実践支援看護学領域科目の「看護教育学」を受講することを推奨する。

●博士前期課程高度実践コース

2021年度入学生用

区分	授業科目	配当年次	療養生活支援看護学領域								地域家族支援看護学領域										
			がん看護学			慢性看護学			精神看護学		老年看護学			母性看護学			小児看護学		プライマリケア看護学		
			単位数		単位数		単位数		単位数		単位数		単位数		単位数		単位数		単位数		
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選	必修	選択必修	選	必修	選択必修	選	必修	選択必修	選	必修	選択必修	選	
共通科目	看護倫理	1後	2			2			2			2			2			2			
	看護教育学	1前		2			2			2			2			2			2		
	看護学研究方法論	1前	2			2			2			2			2			2			
	看護現任教育論	前(隔・奇数年度)	2			2			2			2			2			2			
	看護理論	1前	2			2			2			2			2			2			
	看護教育課程論	1後		2			2			2			2			2			2		
	看護管理学	1後	2			2			2			2			2			2			
	コンサルテーション論	1後		2			2			2			2			2			2		
	看護政策論	1前		1			1			1			1			1			1		
	フィジカルアセスメント論	1前	2			2			2			2			2			2			
	臨床薬理学	1後	2			2			2			2			2			2			
	病態生理学	1前	2			2			2			2			2			2			
	看護哲学	1後		2			2			2			2			2			2		
	英語論文講読	1通		1			1			1			1			1			1		
療養生活支援看護学領域	がん看護学特論Ⅰ	1前	2			2			2			2			2			2			
	がん看護学特論Ⅱ	1後	2			2			2			2			2			2			
	がん病態治療論	1後	2			2			2			2			2			2			
	がん看護学援助論Ⅰ	1前	2			2			2			2			2			2			
	がん看護学援助論Ⅱ	1後	2			2			2			2			2			2			
	がん看護学演習Ⅰ	1通	2			2			2			2			2			2			
	がん看護学演習Ⅱ	1後～2前	2			2			2			2			2			2			
	がん看護学実習Ⅰ	1後	2																		
	がん看護学実習Ⅱ	1後	2																		
	がん看護学実習Ⅲ	2前	3																		
	がん看護学実習Ⅳ	2前	3																		
	慢性看護学特論Ⅰ	1前		2	2				2			2			2			2			
	慢性看護学特論Ⅱ	1前		2	2				2			2			2			2			
	慢性看護アセスメント論	1後		2	2				2			2			2			2			
	慢性看護援助論Ⅰ	1前		2	2				2			2			2			2			
	慢性看護援助論Ⅱ	1後		2	2				2			2			2			2			
	慢性看護学演習Ⅰ	1後		2	2				2			2			2			2			
	慢性看護学演習Ⅱ	2前		2	2				2			2			2			2			
	慢性看護学実習Ⅰ	1後			2																
	慢性看護学実習Ⅱ	2通			4																
	慢性看護学実習Ⅲ	2通			4																
精神看護学領域	精神看護学特論Ⅰ	1前		2			2	2				2			2			2			
	精神看護学特論Ⅱ	1後		2			2	2				2			2			2			
	精神看護アセスメント論	1前		2			2	2				2			2			2			
	精神看護援助論Ⅰ	1前		2			2	2				2			2			2			
	精神看護援助論Ⅱ	1後		2			2	2				2			2			2			
	精神看護学演習Ⅰ	1後		2			2	2				2			2			2			
	精神看護学演習Ⅱ	2前		2			2	2				2			2			2			
	精神看護学演習Ⅲ	2通			6																
	精神看護学実習Ⅰ	1後						2													
	精神看護学実習Ⅱ	2前						6													
	精神看護学実習Ⅲ	2通						2													
	老年看護学特論	1前		2			2			2	2				2			2			
	老年看護アセスメント論	1前		2			2			2	2				2			2			
	老年期病態治療論	1前		2			2			2	2				2			2			
	老年看護援助論	1後		2			2			2	2				2			2			
	老年看護サポートシステム論	1後		2			2			2	2				2			2			
	老年看護学演習Ⅰ	1後		2			2			2	2				2			2			
	老年看護学演習Ⅱ	1前		2			2			2	2				2			2			
	老年看護学実習Ⅰ	1後									4										
	老年看護学実習Ⅱ	2前									4										
	老年看護学実習Ⅲ	2前									2										

区分	授業科目	配当年次	療養生活支援看護学領域								地域家族支援看護学領域									
			がん看護学		慢性看護学		精神看護学		老年看護学		母性看護学		小児看護学		プライマリケア看護学					
			単位数		単位数		単位数		単位数		単位数		単位数		単位数					
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択			
地域家族支援看護学領域	家族看護学特論	1前		2		2		2		2		2		2				2		
	周産期看護論	1前		2		2		2		2		2		2				2		
	母性看護学特論	1前		2		2		2		2		2		2				2		
	ウイメンズヘルス看護論	1前		2		2		2		2		2		2				2		
	周産期看護援助論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2		2				2		
	周産期看護援助論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2		2				2		
	周産期看護演習Ⅰ	1後～2前		2		2		2		2		2		2				2		
	周産期看護演習Ⅱ	1後～2前		2		2		2		2		2		2				2		
	周産期看護実習Ⅰ	1後										2								
	周産期看護実習Ⅱ	2前										4								
	周産期看護実習Ⅲ	2通										4								
	小児看護学特論	1前		2		2		2		2		2		2				2		
	小児と病気	1前		2		2		2		2		2		2				2		
	発達障害看護論	前(隔・偶数年度)		2		2		2		2		2		2				2		
	小児看護アセスメント論	1後		2		2		2		2		2		2				2		
	小児看護学演習	1後～2前		2		2		2		2		2		2				2		
	小児看護学実習Ⅰ	1後～2前												2						
	小児看護学実習Ⅱ	1後～2前											6							
	小児看護学実習Ⅲ	2通											2							
	地域母子保健論	前(隔・奇数年度)		2		2		2		2		2		2				2		
	ヘルスプロモーション論	1前		2		2		2		2		2		2				2		
	医療の質保証と安全管理	1通		2		2		2		2		2		2				2		
	プライマリケア看護学特論Ⅰ	1前		2		2		2		2		2		2				2		
	プライマリケア看護学特論Ⅱ	1後		2		2		2		2		2		2				2		
	プライマリケア看護学特論Ⅲ	1後		2		2		2		2		2		2				2		
	プライマリケア看護学特論Ⅳ(小児)	1通		2		2		2		2		2		2				2		
	プライマリケア看護学特論Ⅴ(成人)	1前		2		2		2		2		2		2				2		
	プライマリケア看護学特論Ⅵ(老年)	1後		2		2		2		2		2		2				2		
	プライマリケア看護学特論Ⅶ(メンタルヘルス)	1通		2		2		2		2		2		2				2		
	プライマリケア看護学演習Ⅰ	1前		2		2		2		2		2		2				2		
	プライマリケア看護学演習Ⅱ	1後		2		2		2		2		2		2				2		
	プライマリケア看護学実習Ⅰ	1後												2						
	プライマリケア看護学実習Ⅱ	1後												2						
	プライマリケア看護学実習Ⅲ	2前												4						
	プライマリケア看護学実習Ⅳ	2前												2						
特別研究	課題研究	1後～2後	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4			
	合計		40	4	102	40	4	102	40	4	102	40	4	102	42	4	100	49	6	91

■がん看護学、慢性看護学、精神看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学専攻  
 〈修了要件〉2年以上在学して所定の単位（42単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。  
 専攻分野の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目2単位以上を履修する。

■プライマリケア看護学専攻  
 〈修了要件〉2年以上在学して所定の単位（50単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。  
 〈履修方法〉指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。

専攻分野の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目2単位以上を履修する。

②修了者学位論文タイトル一覧

氏名	コース 専攻分野	学位論文タイトル
松上 美由紀	教育研究 看護技術開発看護学	組織支援と経験学習が副看護師長の看護管理者コンピテンシーに及ぼす影響
佐藤 智夫	教育研究 移植・再生医療看護学	集中治療室における肺移植術後患者の呼吸困難感に関連する因子の検討
坪井 茉莉	教育研究 移植・再生医療看護学	成人造血幹細胞移植後患者の慢性 GVHD に対する口腔健康管理の実態
植村 未奈子	高度実践 がん看護学	母親の乳がんを伝えた後の思春期の子どもの反応と子どもへの関わり
森 つばさ	教育研究 慢性看護学	在日中国人看護師の職場における社会文化的適応の関連要因と支援のニーズ
阪田 健行	教育研究 精神看護学	精神科急性期閉鎖病棟で知的能力障害をもち知的および行動面において対応困難な患者に対するケアの様相
久保 里香	教育研究 老年看護学	早期診断された認知症患者にかかる認知症専門外来看護師の支援についての実態調査
上野山 恵子	高度実践 老年看護学	特定機能病院で認知症高齢者をケアする看護師の困難感とその背景要因に関する実態調査
笹野 奈菜	教育研究 母性看護学	非医療系大学生の避妊行動・意識・知識および性教育ニーズの実態に関する調査研究
州崎 悅代	教育研究 小児看護学	児童心理治療施設に入所する被虐待経験のある中学生が訴える身体症状に対する職員の認識
東 みゆき	教育研究 在宅看護学	在宅療養高齢者の家族介護者による不適切な介護を察知した訪問看護師の視点

(学位記番号順)

## (2) 博士後期課程

### ①授業科目一覧

区分	授業科目	配当年次	実践支援 看護学領域			療養生活支援 看護学領域			地域家族支援 看護学領域			
			単位数			単位数			単位数			
			必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	
基盤科目	看護科学研究論	1 前	2			2			2			
	看護学研究法応用論 (保健統計)	後(隔・奇数年度)		1			1			1		
	看護学研究法応用論 (実験法)	後(隔・偶数年度)		1			1			1		
	看護学教育開発論	1 前		2			2			2		
	英語論文演習	2 前		1			1			1		
	異文化看護論	前(隔・偶数年度)		1			1			1		
専門科目	実践支援 看護学	実践支援看護学特論	1 後	2					2		2	
		実践支援看護学演習	2 通	1					1		1	
	療養生活 支援看護学	療養生活支援看護学特論	1 後			2	2				2	
		療養生活支援看護学演習	2 通			1	1				1	
	地域家族 支援看護学	地域家族支援看護学特論	1 後			2			2	2		
		地域家族支援看護学演習	2 通			1			1	1		
特別研究		特別研究	1 ~ 3 通	8			8			8		
合計				13	6	6	13	6	6	13	6	

#### 〈修了要件〉

3年以上在学して所定の単位（14 単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

#### 〈履修方法〉

指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。

専攻領域の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から 1 科目 1 単位以上を履修する。

②修了者学位論文タイトル一覧

氏名	領域	学位論文タイトル
東 真理	療養生活支援看護学	ICU (Intensive Care Unit) の不動患者に対する廃用症候群を予防する看護ケアの検討: 用手微振動看護ケアの可能性
井村 弥生	療養生活支援看護学	与薬における看護師のリスクテイキング行動の自己評価質問紙の開発
大橋 尚弘	療養生活支援看護学	成人腎移植後レシピエントのセルフマネジメントを支援するための評価ツールの開発
近澤 幸	地域家族支援看護学	母親と家族が乳児に対して行う沐浴と入浴時の危険を防ぐための教材の開発と適切性の検討
東尾 公子	地域家族支援看護学	父親のメンタルヘルス維持をめざした出産前後教育で活用する父親役割を促す教育支援ガイドの開発
波崎 由美子	地域家族支援看護学	若年乳がん患者の妊娠性意思決定に対するがん・生殖領域看護師の実践、態度と課題
枝川 千鶴子	地域家族支援看護学	在宅移行初期における医療的ケア児の体調管理をする母親を支援するためのアセスメントツールの開発
玉川 あゆみ	地域家族支援看護学	自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドの開発

(学位記番号順)

## IV. 研究活動

## 1. 研究実績

### 1) 外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況

2021年度看護学部の競争的研究資金等の採択状況

研究活動		新規採択件数	継続件数	合計金額（円）
科学 研究費 助成事 業	基盤研究 (B)	代表	0	1 2,800,000
		分担	0	2 300,000
	基盤研究 (C)	代表	4	9 10,400,000
		分担	1	11 730,000
	挑戦的研究 (萌芽・開拓)	代表	0	0 0
		分担	1	1 400,000
	若手研究 (B)・若手研究	代表	0	5 3,500,000
	研究活動スタート支援	代表	0	1 900,000
	厚生労働科学研究費補助金	代表	0	0 0
		分担	0	0 0
省庁・独立行政法人等の競争的資金 (科研費を除く)	代表	0	0 0	0
	分担	0	0 0	0
財団等による研究助成		2	0	1,450,000
企業等による共同研究、研究助成		0	0	0
総合計				20,480,000

2021年度科学研究費助成事業交付一覧

(研究代表者)

※2021年度交付決定額

研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
基盤研究 (B)	鈴木久美	青年前期の子どもと親のための Family-based がん啓発教育プログラム開発	2,800,000
基盤研究 (C)	赤澤千春	高齢者の特性を考慮した下肢リンパ浮腫を軽減する継続可能な手技の開発	800,000
基盤研究 (C)	真継和子	死生觀を育み看取り文化を創成する住民参画型看取りケアコミュニティのモデル開発	700,000
基盤研究 (C)	池西悦子	看護師のリフレクション学習を支援するファシリテーター育成プログラムの開発	200,000
基盤研究 (C)	川北敬美	子育て期にある看護師の「働き方」リテラシーを高める教育プログラムの開発	900,000
基盤研究 (C)	府川晃子	分子標的薬内服治療を受ける肺がん高齢患者の自己管理支援プログラムの有効性の検討	500,000
基盤研究 (C)	竹村淳子	学校卒業後の在宅重症心身障がい児に適したデイサービスガイドラインの作成	400,000
基盤研究 (C)	草野恵美子	地域共生社会における発達障害児家族を支える地域高齢者による支援モデルの検討	1,100,000
基盤研究 (C)	久保田正和	認知リハビリテーションの効果を高める看護学的アプローチの検証	1,200,000
基盤研究 (C)	安田稔人	スポーツ選手のアキレス腱断裂に対する早期運動療法を併用した多血小板血漿療法	1,000,000
基盤研究 (C)	榎木佐知子	新任看護師の臨床看護経験値（強み）を視覚化した人材育成ツールの開発	1,600,000
基盤研究 (C)	佐々木綾子	コロナ時代の産婦と夫の安全・満足な分娩体験につながる Web 夫立ち合い分娩の開発	900,000
基盤研究 (C)	二宮早苗	横断・縦断調査による成人女性の下部尿路症状 (LUTS) の実態とリスク因子の解明	500,000
基盤研究 (C)	倉橋理香	幼児期の子どもが緊急入院した際の家族を支援するためのアセスメントツールの開発	600,000
若手研究	山崎 歩	思春期・青年期 1 型糖尿病患者の身体感覚に着目した性差別支援プログラムの開発	600,000
若手研究	寺口佐與子	在宅看護ケアで活用できるリンパ浮腫評価モデルの開発	300,000
若手研究	近澤 幸	乳児期の沐浴・入浴時の危険を防ぐ母親と家族のためのデジタルコンテンツ教材の開発	800,000

若手研究	山本暁生	モバイル端末を用いた在宅呼吸リハビリテーション支援システムの開発	1,200,000
若手研究	樋上容子	認知機能低下予防のための睡眠障害に対する看護介入の長期的効果の検証	600,000
研究活動 スタート支援	赤崎美美	看護師の根拠に基づく実践を促進するナレッジブローカリング自己評価尺度の開発	900,000

(研究分担者)

※2021年度交付決定額

研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
基盤研究 (B)	鈴木久美	AYA 世代にある小児がんサバイバーの移行期ケアを支える看護者育成プログラムの開発	200,000
基盤研究 (B)	土肥美子	看護学習者の臨床判断を拓くルーブリックと臨床学習環境づくり支援プログラムの開発	100,000
基盤研究 (C)	鈴木久美	喉頭全摘術を受けるがん患者とパートナーの首尾一貫感覚を高める看護実践モデルの開発	60,000
基盤研究 (C)	竹村淳子	学生の思考力強化を図る小児看護学実習の課題構造の明確化と教育方略の開発	60,000
基盤研究 (C)	倉橋理香	学生の思考力強化を図る小児看護学実習の課題構造の明確化と教育方略の開発	60,000
基盤研究 (C)	赤澤千春	看護実践能力の評価指標を基盤とした看護学実習カリキュラムの開発	10,000
基盤研究 (C)	赤澤千春	急性・重症患者看護専門看護師の倫理的実践知の体系化－倫理的実践の質向上に向けて－	10,000
基盤研究 (C)	草野恵美子	子育て世代のがんサバイバーのコミュニティ・エンパワメントモデル開発	70,000
基盤研究 (C)	竹 明美	高齢患者の術後せん妄予防・緩和のためのハンドマッサージ法による全人的アプローチ	100,000
基盤研究 (C)	鈴木久美	通院患者のがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの有効性の検証	100,000
基盤研究 (C)	竹村淳子	障害児と家族全体の生活を支える訪問看護の調整機能を活かすアセスメントガイドの開発	100,000
基盤研究 (C)	竹村淳子	成人期以降の在宅重症心身障がい者を介護する家族の望む看取りを促す看護実践プロセス	30,000
基盤研究 (C)	二宮早苗	画像工学技術を用いて骨盤内を可視化した骨盤底筋訓練用動画の開発と効果検証	30,000
挑戦的研究 (萌芽)	二宮早苗	女性の尿失禁改善用サポート下着の生体力学的根拠に裏付けされた最適設計戦略	100,000

### 2021年度厚生労働科学研究費補助金一覧

事業名	研究分担者	研究課題名	交付額(円)
該当なし			

### 2021年度省庁・独立行政法人等の競争的資金一覧（科研費を除く）

事業名	研究分担者	研究課題名	交付額(円)
該当なし			

### 2021年度財団等による研究助成一覧

事業名	研究代表者	研究課題名	助成金額(円)
公益財団法人 大和証券ヘルス財団	樋上容子	新型コロナウイルス流行下での施設入所する認知症患者の家族介護者の介護に関する経験 ー グラウン デットセオリーアプローチを用いた国際共同研究	700,000
公益財団法人 大阪ガスグループ福祉財団	山内彩香	家族の視点から捉える施設入所している認知症患者を取り巻く状況の変化 ー グラウンドセオリーアプローチを用いた国際研究による理論生成ー	750,000

### 2021年度企業等による共同研究費、受託研究費一覧

機関名	研究代表者	研究課題名	研究費(円)
該当なし			

### 2) 各自の業績（外部資金獲得除く）

#### 研究活動/【著書】

小林道太郎	<u>小林道太郎</u> (2021). 第3章7 ユマニチュード技法, 第7章2 緩和ケアとアドバンス・ケア・プランニング, 松島哲久・宮島光志編, 新版 薬学生のための医療倫理 (コアカリ対応), 56-7, 100-1, 丸善出版, 東京.
佐々木綾子	岡本真由美, 常盤洋子, 井村真澄, <u>佐々木綾子</u> (11人中4番目) (2021). 助産師基礎教育新テキスト 第6巻, 第5章親子の絆とアタッチメントの形成, 江藤宏美(編), 100-120, 日本看護協会出版会, 東京. 定方美恵子, 関島香代子, <u>佐々木綾子</u> (15人中6番目) (2021). ナーシンググラフィカ母性看護学②母性看護技術, 横尾京子他(編), 2章1~4, 6~11, 13~17節, メディカ出版, 大阪.
鈴木久美	<u>鈴木久美</u> (2022). 第III章 成人期にある人の健康, 林直子, <u>鈴木久美</u> , 酒井郁子, 梅田恵編, 看護学テキスト NiCE 成人看護学概論 改訂第4版, 78-82, 86-97, 113-123, 南江堂, 東京. <u>鈴木久美</u> (2022). 第IV章 成人期にある人を看護するための基本的な考え方, 林直子, <u>鈴木久美</u> , 酒井郁子, 梅田恵編, 看護学テキスト NiCE 成人看護学概論

	<p>改訂第4版, 156-161, 181-186, 南江堂, 東京.</p> <p><u>鈴木久美</u> (2022). 第V章 健康状態に応じた看護, 林直子, <u>鈴木久美</u>, 酒井郁子, 梅田恵編, 看護学テキスト NiCE 成人看護学概論 改訂第4版, 276-288, 南江堂, 東京.</p> <p><u>鈴木久美</u> (2022). 第IV章 慢性疾患を有する患者のセルフマネジメントを促す技術, 野崎真奈美, 林直子, 佐藤まゆみ, <u>鈴木久美</u>編, 看護学テキスト NiCE 成人看護技術 改訂第3版, 310-313, 325-329, 330-331, 南江堂, 東京.</p> <p>雄西智恵美, <u>鈴木久美</u> (2022). 第5章 がん治療に対する看護, 小松浩子著者代表, 系統看護学講座 別巻 がん看護学 第3版, 234-262, 医学書院, 東京.</p>
真継和子	<p><u>真継和子</u> (2022). 人生会議, してみませんか?, 山崎あけみ・原礼子(編), 看護学テキスト Nice 家族化後学 臨床場面と事例から考える 改定第3版, 249-250, 南江堂, 東京.</p>
安田稔人	<p><u>安田稔人</u> (2021). アキレス腱断裂: 改訂ガイドライン総説, 熊井司, 足部・足関節の外傷 診断・保存的治療・手術, 206-212, メディカ出版, 大阪.</p> <p><u>安田稔人</u> (2021). アキレス腱症, アキレス腱周囲炎, 土屋弘行、紺野慎一、田中康仁、他, 今日の整形外科治療指針, 888-889, 医学書院, 東京.</p>
川北敬美	<p>細田泰子, <u>川北敬美</u> (2021). 第3章基礎看護学, 松木光子監修, 宮地緑編著, 看護学臨地実習ハンドブックー基本的考え方とすすめ方ー第6版, 47-74, 金芳堂, 京都.</p>
竹 明美	<p><u>竹明美</u> (2022) . 2章5節 産婦のニーズへのケア, 12節 分娩直後の母体の観察, 4章1節3項 脊髄液ガス分析, ナーシング・グラフィカ母性看護学③母性看護技術, 荒木奈緒他(編), 77-82, 103-105, 177-179, メディカ出版, 大阪.</p>
近澤 幸	<p><u>近澤幸</u>, 佐々木綾子 (2022). 2章17節帝王切開時のケア, 荒木奈緒他編, ナーシング・グラフィカ母性看護学③母性看護技術, 119-125, メディカ出版, 大阪.</p>

研究活動/【論文】

赤澤千春	<p>Nakajima, F., Aoyama, M., Azuma, M., <u>Akazawa, C.</u> (4人中4番目) (2022). Effects of Training to Improve Novice Nurses' Sense of Coherence. <i>Health</i>, 14(3), 281-295.</p> <p>Imura, Y., <u>Akazawa, C.</u> (2021). Development of a Self-Assessment Questionnaire for Nurses' Risk-Taking Behavior in Medication. <i>Health</i>, 14(1), 1-22.</p> <p>Ohashi, T., <u>Akazawa, C.</u> (2022). Content Validity of a Self-Management Behavior Assessment Tool for Adult Post-Renal Transplant Recipients Using a Modified Delphi Method. <i>Health</i>, 14(1), 70-95.</p> <p>Azuma, M., <u>Akazawa, C.</u> (2021). Effects of Micro Vibration Therapy Nursing Care on Muscle Hardness and Skin Blood Flow: A Pre/Post Group Comparison Study. <i>Health</i>, 13(12), 1511-1529.</p> <p>Tanimizu, N., Hayashi, Y., <u>Akazawa, C.</u>, et al. (6人中3番目) (2021). Changes in Nurses' Ethical Practices in Organ Transplant Nursing Using Action Research. <i>Health</i>, 13(4), 323-333.</p> <p>井村弥生, 東真理, <u>赤澤千春</u> (2021). 与薬における看護師のリスクテイキング行動の現状—医療事故報告内容のテキストマイニングによる分析—, 大阪青山大学看護学ジャーナル, 4, 1-10.</p> <p>井村弥生, <u>赤澤千春</u> (2021). 与薬における看護師のリスクテイキング行動の質問紙作成の試み, 大阪青山大学紀要, 13, 7-16.</p> <p>東真理, <u>赤澤千春</u>, 寺口佐與子, 他 (2021). 用手微振動の手技における動力的可視化の試み, 大阪医科大学医学会雑誌, 80, 61-69.</p> <p>竹明美, 駒澤伸泰, 大橋尚弘, <u>赤澤千春</u> (7人中7番目) (2021). 大阪医科大学におけるシミュレーション教育法の支援ニーズに関する調査, 大阪医科大学看護研究雑誌, 11, 70-75.</p>
荒木孝治	<p><u>荒木孝治</u> (2021). セルフケア看護の促進の観点からの精神看護における近年の関連文献の検討, PAS セルフケアセラピィ看護学会誌, 3, 42-46.</p> <p>山内彩香, 瓜崎貴雄, 小松尚司, <u>荒木孝治</u> (4人中4番目) (2021). 身体拘束最小化を目指したチーム医療に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 117-126.</p>
池西悦子	<p>松上美由紀, <u>池西悦子</u>, 土肥美子 (2022). 看護管理者のコンピテンシーの要素と関連要因に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 98-106.</p>
小林道太郎	<p><u>小林道太郎</u>, 杉林稔 (2021). 自閉症スペクトラム障害の現象学: 目立たない特性を記述する試み, 総合病院精神医学, 33(1), 65-71.</p> <p>駒澤伸泰, 寺崎文生, <u>小林道太郎</u>, 他 (2018). 医療系学部におけるデータサイエンス・人工知能教育導入の必要性, 大阪医科大学医学会雑誌, 80 (3), 26-31.</p>

佐々木綾子	<p><u>Sasaki, A.</u>, Take, A., Dote, T. (2021). Effects of Individual Explanations by Midwives about the Process of Delivery, Using 3D Animation Software, on Parturient Females' Understanding of and Satisfaction with Delivery, Health, 13(4), 482-503.</p> <p>Higashio, K., <u>Sasaki, A.</u> (2021). The Paternal Mental Health, Difficulties for Fathers with Children in Early Infancy, and Their Educational Support Needs, Health, 13(8), 789-811.</p> <p>Chikazawa, S., <u>Sasaki, A.</u> (2021). A Survey of Dangers Experienced by Mothers and Families of Infants Aged 3 - 4 Months during Ablution and Bathing, Health, 13(11), 1242-1269.</p> <p>Chikazawa, S., <u>Sasaki, A.</u> (2021). A Survey of Bath Time Incidents Experienced by Mothers and Families of Children Aged 18 Month, Health, 13(10), 1071-1090.</p> <p>波崎由美子, <u>佐々木綾子</u> (2022). 若年女性乳がん患者の妊娠性温存への情報提供および意思決定支援に関する国内外研究の動向と課題, 福井大学医学部研究雑誌, 22, 1-13.</p> <p>近澤幸, 竹明美, <u>佐々木綾子</u> (2021). 新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親をとりまく育児環境の変化に及ぼす影響の実態調査, 日本ウーマンズヘルス学会会誌, 20 (1), 25-35.</p> <p><u>佐々木綾子</u>, 近澤幸, 竹明美 (2021). 産婦と夫の満足な分娩のための 3 次元分娩アニメーションソフト開発と評価, 日本ウーマンズヘルス学会会誌, 20 (1), 37-47.</p> <p>笛野奈菜, <u>佐々木綾子</u> (2021). 日本の大学生における避妊の現状と課題に関する文献検討, 思春期学, 39 (3), 307-315.</p>
鈴木久美	<p><u>Suzuki, K.</u>, Yamanaka, M., Minamiguchi, Y., et al. (2022). Details of Cancer Education Programs for Adolescents and Young Adults and Their Effectiveness: A Scoping Review, Journal of Adolescent and Young Adult Oncology, in press.</p> <p>Amano, K., <u>Suzuki, K.</u> (2022). Changes in quality of life and lower urinary tract symptoms over time in cancer patients after a total prostatectomy: systematic review and meta-analysis, Supportive Care in Cancer, 30, 2959-2970.</p> <p>Terao, N., M., <u>Suzuki, K.</u> (2021). Glycemic Excursion, Adverse Drug Reactions, and Self-Management in Diabetes Patients Undergoing Chemotherapy: A Literature Review, Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing, 8(6), 610-621.</p> <p>Minamiguchi, Y., <u>Suzuki, K.</u> (2021). Creation of a Nursing Intervention Model to Support Decision-Making by Elderly Advanced Cancer Patients and Their Families about the Place of Death, and Evaluation of the Model's</p>

	<p>Appropriateness and Clinical Applicability, The Journal of Hospice and Palliative Nursing, 23(6), 520-529.</p> <p><u>鈴木久美</u>, 南口陽子, 山中政子, 他 (2022). AYA および成人を対象としたがん啓発教育プログラムの内容とその成果: 系統的レビュー, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 3-13.</p> <p><u>鈴木久美</u>, 椎野郁恵, 菊尾雅子, 他 (2022). 化学療法を受ける遠隔転移を伴う乳がん患者の Sense of Coherence を高める看護介入プログラムの有用性—介入群と対照群との比較によるパイロットスタディー, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 39-48.</p> <p>四方文子, <u>鈴木久美</u>, 山中政子 (2022). 子どものいる若年乳がん患者の内分泌療法中の療養生活体験, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 14-22.</p> <p>山本里香, <u>鈴木久美</u> (2022). がん患者が抱えるスピリチュアルペインに関する文献レビュー, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 127-135.</p> <p>山中政子, <u>鈴木久美</u>, 吹田智子, 他 (2021). 第 34 回日本がん看護学会学術集会において交流集会を企画・運営した経験, 天理医療大学紀要, 9(1), 53-56.</p> <p>駒澤伸泰, 寺崎文生, 小林道太郎, <u>鈴木久美</u> (6人中4番目) (2021). 医療系学部におけるデータサイエンス・人工知能教育導入の必要性, 大阪医科大学医学会雑誌, 80 (3), 26-31.</p>
竹村淳子	<p>玉川あゆみ, <u>竹村淳子</u>, 泊祐子 (2021). 自閉症スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療における問題と支援, 小児保健研究, 80(4), 477-484.</p> <p>枝川千鶴子, <u>竹村淳子</u>, 泊祐子 (2021). 在宅移行初期の医療的ケア児の体調管理を担う母親を支援するための訪問看護師のアセスメントの視点, 日本重症心身障害学会誌, 46 (3), 329-336.</p> <p><u>竹村淳子</u>, 泊祐子, 古株ひろみ (2022). 在宅重症心身障がい児者を対象としたデイサービス等に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 80-88.</p> <p>州崎悦代, <u>竹村淳子</u> (2022). 児童心理治療施設で生活する子どもの心身の問題と取り組みに関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 71-79.</p>
田中克子	<p>カルデナス暁東, <u>田中克子</u> (2021). SLE 女性患者一症例に対する「有益性の発見」の獲得と精神状態の改善をもたらすアピアランスケアプログラムの効果, 大阪医科大学医学会雑誌, 80 (3), 32-40.</p> <p>カルデナス暁東, <u>田中克子</u> (2021). スキントラブルのある成人期女性の気分改善における岩井式メイクセラピーの効果について, 日本慢性看護学会誌, 15 (1), 51 - 55.</p>
津田泰宏	<p>Suzuki, K., Yamanaka, M., Minamiguchi, Y., <u>Tsuda, Y.</u> (11 人中 7 番) (2022). Details of Cancer Education Programs for Adolescents and Young Adults and Their Effectiveness: A Scoping Review, Journal of Adolescent and Young Adult Oncology, in press.</p> <p>鈴木久美, 南口陽子, 山中政子, <u>津田泰宏</u> (11 人中 7 番目) (2022). AYA およ</p>

	び成人を対象としたがん啓発教育プログラムの内容とその成果:系統的レビュー, 大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 12, 3-13.
土手友太郎	<u>土手友太郎</u> (2021). コロナ禍における web-based audience response system を用いた同時双方向授業, 大阪医科薬科大学医学会雑誌, 80 (1-2), 56-60. <u>土手友太郎</u> (2021). 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大状況における大阪医科薬科大学の授業対応に関する看護学部の視点からの検討, 大阪医科薬科大学医学会雑誌, 80 (1-2), 77-84.
真継和子	三原綾, <u>真継和子</u> (2022). がん終末期高齢患者の療養場所選択における意思決定支援に関する文献検討, 大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 12, 107-116.
安田稔人	<u>安田稔人</u> (2021). アキレス腱断裂, 臨床整形外科, 56 (5), 588-591. <u>安田稔人</u> (2021). 足・足関節手術における縫合, Monthly Book Orthopaedics, 34 (9), 87-93. Shima, H., <u>Yasuda, T.</u> , Hida T., et al. (2021). Postural stability impairment in patients with bilateral hallux valgus: A case-control study using a stabilometer, Foot Ankle Surg, 27(4), 395-399. Toge, K., Shima, H., <u>Yasuda, T.</u> , et al. (2021). Plantar pressure distribution in hallux valgus feet after a first metatarsal proximal crescentric osteotomy with a lesser metatarsal proximal shortening osteotomy, Foot Ankle Surg, 27(6), 665-672.
瓜崎貴雄	<u>瓜崎貴雄</u> (2021). 三次救急医療に従事する看護師の精神健康度に関する要因の検討, 総合病院精神医学, 33 (4), 410-416. 山内彩香, <u>瓜崎貴雄</u> , 小松尚司, 他 (2021). 身体拘束最小化を目指したチーム医療に関する文献検討, 大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 12, 117-126.
カルデナス 暁東	<u>カルデナス暁東</u> , 田中克子 (2021). SLE 女性患者一症例に対する「有益性の発見」の獲得と精神状態の改善をもたらすアピアランスケアプログラムの効果. 大阪医科薬科大学医学会雑誌, 80 (3), 32-40. <u>カルデナス暁東</u> , 田中克子 (2021). スキントラブルのある成人期女性の気分改善における岩井式マイクセラピーの効果について. 日本慢性看護学会誌, 15 (1), 51 - 55.
川北敬美	<u>川北敬美</u> , 細田泰子 (2021). 子育て期にある女性看護師におけるワーク・ファミリー・エンリッチメントの資源の検討, 日本看護科学会誌, (印刷中)
草野恵美子	仲文子, <u>草野恵美子</u> (2021). 既存データを活用した 40 歳未満の労働者における生活習慣とワーク・エンゲイジメントの関連についての検討, 日本地域看護学会誌, 24(2), 67-75.
寺口佐與子	<u>寺口佐與子</u> (2021). リンパ浮腫予防期からの体重管理の意義, リンパ浮腫治療学会誌, 5, 36 - 39. 東真理, 赤澤千春, <u>寺口佐與子</u> , 他 (2021). 用手微振動の手技における動力学的可視化の試み. 大阪医科薬科大学医学会雑誌, 80 (1-2), 61-69.

土肥美子	<p><u>Doi, Y.</u>, Hosoda, Y. (2021). Development and psychometric testing of the nursing faculty competencies self-assessment scale, <i>Nurse Education Today</i> 106 105068 (1-8).</p> <p><u>土肥美子</u> (2022). 看護系大学に所属する若手教員が必要とする能力に関する研究: 若手教員へのインタビュー調査から, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 23-31.</p> <p><u>土肥美子</u>, 細田泰子, 中橋苗代, 他 (2021) . 教育指導者の職務キャリアと学習環境デザインに関する学習ニーズの関係, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 32-38.</p> <p>松上美由紀, 池西悦子, <u>土肥美子</u> (2021) . 看護管理者のコンピテンシーの要素と関連要因に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 98-106.</p>
仲下祐美子	<p><u>仲下祐美子</u> (2022). わが国の看護学生への喫煙防止・禁煙教育および禁煙支援教育プログラムに関する研究のシステムティックレビュー, 日本看護研究学会雑誌, <i>in press</i>.</p> <p><u>仲下祐美子</u> (2022). 看護師による入院・通院患者への禁煙支援方法に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 89-97.</p>
二宮早苗	<p>Tawara, D., Nishiki, T., <u>Ninomiya, S.</u>, et al. (2021). Development of primary design guidelines for supportive underwear to elevate the bladder neck in women based on finite element analysis of the pelvis. <i>Journal of Engineering in Medicine</i>, 236(2), 269-278.</p> <p>内藤紀代子, <u>二宮早苗</u>, 森川茂廣, 他 (2021). 磁気共鳴(MR)画像により作成した指導用動画を用いた産後女性に対する骨盤底筋体操の効果検証, 看護理工学会誌, 8, 194-202.</p>
樋上容子	<p><u>Higami, Y.</u>, Higuchi, A., Tanaka, H., et al. (2021). Nonwearable actigraphy to assess changes in motor activity before and after rescue analgesia in terminally ill patients with cancer: A pilot study, <i>International Journal of Nursing Practice</i>, <i>in press</i></p> <p>Tanaka, H., Fukui, S., Maeda, I., <u>Higami, Y.</u> (8人中6番目) (2021). The change over time of vital signs with consideration for opioid use in the last two weeks of life among cancer patients in a palliative care unit: continuous measurement of vital signs using a non-wearable monitor, <i>Cancer Medicine</i>, 10(24), 8799-8807.</p> <p>Fukui, S., Ikuta, K., Maeda, I., <u>Higami, Y.</u> (10人中8番目) (2022). Association between respiratory and heart rate fluctuations and death occurrence in dying cancer patients: continuous measurement with a non-wearable monitor, <i>Supportive care in cancer</i>, 30(1), 77-86.</p> <p>糸屋絵理子, 樋山舞, 山本真理子, <u>樋上容子</u> (18人中4番目) (2021). 訪問診療を受療する在宅療養高齢者における血圧季節変動の実態とその要因に関する</p>

	<p>る検討-OHCARE 研究-, 日本老年医学会雑誌, 58 (4), 602-609.</p> <p>森木友紀, 福井小紀子, 山川みやえ, <u>樋上容子</u> (7人中5番目) (2022). 就床時夫婦同室の在宅後期高齢者に対するセンシング技術を用いた睡眠実態調査:夜間見守りの必要性の検討, 大阪大学看護学雑誌, 28 (1), 11-19.</p>
府川晃子	<p><u>Fukawa, A.</u> (2021). Development of Self-Management Support Program for Elderly Patients with Lung Cancer Receiving Molecularly-Targeted Therapy, Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing, 8(2), 180-187.</p> <p>Suzuki, K., Yamanaka, M., Minamiguchi, Y., <u>Fukawa, A.</u> (11人中6番目) (2022). Details of Cancer Education Programs for Adolescents and Young Adults and Their Effectiveness: A Scoping Review, Journal of Adolescent and Young Adult Oncology, in press.</p> <p>鈴木久美, 南口陽子, 山中政子, <u>府川晃子</u> (11人中6番目) (2022). AYAおよび成人を対象としたがん啓発教育プログラムの内容とその効果:系統的レビュー, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 3-13.</p>
山崎 歩	<p><u>Yamasaki, A.</u>(2021). Support Strategies of Certified Nurses in Diabetes Nursing for Type 1 Diabetes Patients During Puberty/Adolescence, International Journal of Nursing &amp; Clinical Practices ,8(1),1-6.</p>
竹 明美	<p>Sasaki, A., <u>Take, A.</u>, Dote, T. (2021). Effects of Individual Explanations by Midwives about the Process of Delivery, Using 3D Animation Software, on Parturient Females' Understanding of and Satisfaction with Delivery, <u>Health</u>, 13(4), 482-503.</p> <p>近澤幸, <u>竹明美</u>, 佐々木綾子 (2021). 新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親をとりまく育児環境の変化に及ぼす影響の実態調査, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 20 (1), 25-35.</p> <p>佐々木綾子, 近澤幸, <u>竹明美</u> (2021). 産婦と夫の満足な分娩のための3次元分娩アニメーションソフト開発と評価, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 20 (1), 37-47.</p>
近澤 幸	<p><u>Chikazawa, S.</u>, Sasaki, A. (2021). A Survey of Dangers Experienced by Mothers and Families of Infants Aged 3-4 Months during Ablution and Bathing, <u>Health</u>, 13(11), 1242-1269.</p> <p><u>Chikazawa, S.</u>, Sasaki, A. (2021). A Survey of Bath Time Incidents Experienced by Mothers and Families of Children Aged 18 Months, <u>Health</u>, 13(10), 1071-1090.</p> <p>近澤幸, <u>竹明美</u>, 佐々木綾子 (2021). 新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親をとりまく育児環境の変化に及ぼす影響の実態調査, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 20 (1), 25-35.</p> <p>佐々木綾子, <u>近澤幸</u>, <u>竹明美</u> (2021). 産婦と夫の満足な分娩のための3次元分娩アニメーションソフト開発と評価, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 20 (1), 37-47.</p>

赤崎美実	<u>赤崎美実</u> , 細田泰子, 紙野雪香 (2021). 根拠に基づく実践を促進する看護師のナレッジプローカリングの過程, 日本看護学教育学会誌, 31 (1), 97-110.
大橋尚弘	<u>Ohashi, T.</u> , Akazawa, C. (2022). Content validity of a Self-Management Behavior Assessment Tool for Adult Post-Renal Transplant Recipients Using a Modified Delphi Method, HEALTH, 14, 70-95. <u>大橋尚弘</u> . (2021). 腎移植レシピエントの服薬マネジメントに関する国内外文献レビュー, 日本移植・再生医療看護学会誌, 16, 23-33.
倉橋理香	<u>倉橋理香</u> (2021). 入院中の子どもをもつ家族の困り事に関する文献検討. ヒューマンケア研究学会誌, 12 (1), 43-47.
柴田佳純	飯田恵, 辻本朋美, 山上優紀, <u>柴田佳純</u> (10人中6番目) (2021). シングルチェック導入前後の調査から見た注射薬調製時のシングルチェックに対する看護師の態度, 日本医療マネジメント学会雑誌, 22 (3), 140-147.
土井智生	Suzuki, K., Yamanaka, M., Minamiguchi, Y., <u>Doi, T.</u> (11人中9番目) (2022). Details of Cancer Education Programs for Adolescents and Young Adults and Their Effectiveness: A Scoping Review, Journal of Adolescent and Young Adult Oncology, in press. 鈴木久美, 南口陽子, 山中政子, <u>土井智生</u> (11人中10番目) (2022). AYAおよび成人を対象としたがん啓発教育プログラムの内容とその効果:系統的レビュー, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 3-13.
山内彩香	<u>山内彩香</u> , 瓜崎貴雄, 小松尚司 (2022). 身体拘束最小化を目指したチーム医療に関する文献検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 12, 117-126.
山本暁生	<u>Yamamoto, A.</u> , Nakamoto, H., Yamaguchi T., et al. (2021). Validity of a novel respiratory rate monitor comprising stretchable strain sensors during a 6-min walking test in patients with chronic pulmonary obstructive disease, Respiratory Medicine, 190, 106675. Yamaguchi, T., <u>Yamamoto, A.</u> , Oki, Y., et al. (2021). Reliability and Validity of the Japanese Version of the Barthel Index Dyspnea Among Patients with Respiratory Diseases, Int J Chron Obstruct Pulmon Dis, 16, 1863-1871. Yamada, K., Iwata, K., Tachikawa, R., <u>Yamamoto, A.</u> (12人中6番目) (2021). Impact of physical frailty on the clinical outcomes of older patients hospitalized for pneumonia. Geriatr Gerontol Int. 21(10), 926-931.

**研究活動/【学会発表】**

赤澤千春	中村五月, 久保田正和, 赤澤千春 (2021). 施設入所高齢者に対する個別的な排尿誘導の実践を促進する要因, 日本老年看護学会第 26 回学術集会, (オンライン) 田中優希, 赤澤千春, 寺口佐與子 (2021). 成人生体肝移植レシピエントの自己管理行動習得に関するアセスメント及び看護介入の検討, 第 16 回日本移植・再生医療看護学会学術集会, 30, (オンライン)
池西悦子	<u>池西悦子</u> , 笠原聰子, 大石雅子, 他 (2021). 医療安全管理者のプロフェッショナル評価尺度の開発, 医療の質・安全学会第 16 回学術集会, 71, (神戸・Web) <u>池西悦子</u> , 飛田伊都子, 空間美智子, 他 (2022). 有効な看護リフレクションを促進するファシリテーションの要素, 第 35 回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会, 36, (京都・オンデマンド)
久保田正和	樋上容子, 樋口明里, 柚木佐知子, <u>久保田正和</u> (4人中4番目) (2021). 地域在住高齢者の睡眠障害に対する介入 (文献レビュー), 第26回日本老年看護学会学術集会, (オンライン) 中村五月, <u>久保田正和</u> , 赤澤千春 (2021). 施設入所高齢者に対する個別的な排尿誘導の実践を促進する要因, 第26回日本老年看護学会学術集会, (オンライン) 白井玲華, 山田晃代, 中田明子, <u>久保田正和</u> (16人中9番目) (2021). 免疫チェックポイント阻害薬後発症した1型糖尿病高齢療養者の終末期への支援の検討, 第8回日本糖尿病医療学学会, (オンライン) 吉田良平, 樋上容子, 樋口明里, <u>久保田正和</u> (4人中4番目) (2021). 認知リハビリテーション実施時において遠隔環境下での看護師のかかわりが脳血流量に与える影響, 第41回日本看護科学学会学術集会, (オンライン) 久保里香, 樋上容子, <u>久保田正和</u> (2021). 認知症専門外来における認知症診断後の患者・家族に対する看護師の支援の実態と役割に関する文献検討, 第41回日本看護科学学会学術集会, (オンライン)
佐々木綾子	<u>Sasaki, A.</u> , Take, A., Chikazawa, S. (2021). A Review of the Diagnosis and Treatment of Occiput Posterior Delivery, 32st ICM Triennial Congress (online) 近澤幸, 竹明美, <u>佐々木綾子</u> (2021). 新型コロナウイルス感染症拡大下における乳幼児をもつ両親の育児環境の変化に対する意見の実態調査, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 20 (1), 9-10, (オンライン) 笹野奈菜, <u>佐々木綾子</u> (2021). 日本の大学生における避妊の現状と課題に関する文献検討, 第 40 回日本思春期学会総会・学術集会, (オンライン) 波崎由美子, <u>佐々木綾子</u> (2021). 若年乳がん患者の妊娠性意思決定に対するがん・生殖領域看護師の実践、態度と課題, 母性衛生, 62 (3), 230, (オンライン) <u>佐々木綾子</u> , 近澤幸, 竹明美 (2021). 新型コロナウイルス感染症が妊娠・出産・育児に及ぼす影響とニーズに関する文献検討, 第 41 回日本看護科学学会学術集会, (オンライン)

鈴木久美	<p><u>鈴木久美</u>, 山中政子, 南口陽子, 他 (2022). AYA を含む成人のがん啓発教育プログラムの内容とその成果：系統的文献レビュー, 第 36 回日本がん看護学会学術集会, 112, (横浜・ハイブリッド)</p> <p><u>鈴木久美</u>, 椎野郁恵, 菊尾雅子, 他 (2022). 化学療法を受ける再発乳がん患者の Sense of Coherence を高める看護介入プログラムの有用性—パイロットスターude, 第 36 回日本がん看護学会学術集会, 181, (横浜・ハイブリッド)</p> <p>植村未奈子, <u>鈴木久美</u> (2022). 未成年の子どもがいる成人がん患者の子どもへの思いと親のがん罹患に対する子どもの反応：文献レビュー, 第 36 回日本がん看護学会学術集会, 136, (横浜・ハイブリッド)</p> <p>田村沙織, <u>鈴木久美</u> (2022). 化学療法を受けている大腸がん患者のレジリエンスに影響する要因, 第 36 回日本がん看護学会学術集会, 345, (横浜・ハイブリッド)</p> <p>山本里香, <u>鈴木久美</u> (2022). がん患者が抱えるスピリチュアルペインに関する研究の動向：文献レビュー, 第 36 回日本がん看護学会学術集会, 411, (横浜・ハイブリッド)</p> <p>有田由美, 府川晃子, <u>鈴木久美</u> (2021). 外来化学療法を継続している切除不能進行再発大腸がん高齢患者が体験している困難及び対処, 第 36 回日本がん看護学会学術集会, 332, (横浜・ハイブリッド)</p>
竹村淳子	泊祐子, 濱田裕子, 岡田摩理, <u>竹村淳子</u> (8 人中 7 番目) (2021). 医療依存度の高い子どものいる家族が子育てできる力をつける医療・保健・福祉・教育関係者のチーム作り～課題の整理と方策の検討～, 第 47 回日本看護研究学会学術集会, (オンライン)
津田泰宏	<p>別所希美, 大濱日出子, 岡本紀夫, <u>津田泰宏</u> (13 人中 12 番目) (2021). 当院における成人ウィルソン病患者の臨床的検討, 日本肝臓学会総会, (札幌)</p> <p>後昂佑, 横濱桂介, 岡本紀夫, <u>津田泰宏</u> (13 人中 12 番目) (2021) : 切除不能肝細胞癌に対する Lenvatinib の当院での治療成績と後治療について, 日本肝臓学会総会, (札幌)</p> <p>三戸岡英晃, 中村憲, 森川和哉, <u>津田泰宏</u> (12 人中 10 番目) (2021). 腹腔-静脈シャント(デンバーシャント)造設にて長期生存が得られた腎不全合併 C 型肝硬変の 1 例, 日本国内科学会近畿地方会, (オンライン)</p> <p>篠原由倫, 中村憲, 三戸岡英晃, <u>津田泰宏</u> (7 人中 4 番目) (2021). 抗ウイルス療法が著効した胃瘻造設 C 型肝硬変合併透析患者の一例, 日本肝臓学会西部会, (岡山)</p>
真継和子	溝部由恵, <u>真継和子</u> (2021). 訪問介護を行う介護福祉士が療養者の喀痰吸引のコツをつかむプロセス, 第 26 回日本在宅ケア学会学術集会, (広島・ハイブリッド)
宮島多映子	<u>宮島多映子</u> , 村松仁, 中村朋子, 他 (2021). 日々の看護の気づきを新しい看護技術として開発し、対象者に還元するために (Miyajima 式腹部圧迫法の例) : 第 47 回日本看護研究学会学術集会, 403, (オンライン)
安田稔人	<u>安田稔人</u> (2021). 足部・足関節のスポーツ障害－早期復帰のためには保存療法か手術療法か－, アキレス腱障害の病態と治療 : 第 94 回日本整形外科学会学

	<p>術総会, シンポジウム (東京、ハイブリッド)</p> <p>嶋洋明, 東迎高聖, 平井佳宏, <u>安田稔人</u> (5人中4番目) (2021). 外反母趾における第2MTP関節不安定性の定量的評価—超音波検査による検討—, 第46回日本足の外科学会 (東京、ハイブリッド)</p> <p>平井佳宏, 嶋洋明, 東迎高聖, <u>安田稔人</u> (5人中4番目) (2021). 第2,3中足趾節関節脱臼を伴った外反母趾術前後の足底圧分布, 第46回日本足の外科学会 (東京、ハイブリッド)</p> <p>嶋洋明, 東迎高聖, 平井佳宏, <u>安田稔人</u> (5人中4番目) (2021). 足部・足関節疾患に対する周術期のフットケア, 第35回日本靴医学会学術集会 (オンライン)</p>
カルデナス 暁東	<p>石原佑紀, 土井理子, 檜山朋子, <u>カルデナス暁東</u> (5人中5番目) (2021). 地域包括ケア病棟における身体抑制カンファレンスの充実を目指して～身体抑制カンファレンス内容の見直し～, 第9回大阪府看護学会, (大阪・オンライン)</p> <p>椎葉愛, 岸弘樹, 深瀬和貴, <u>カルデナス暁東</u> (6人中6番目) (2021). A病院における弹性包帯、弹性ストッキング着用に伴う医療関連機器圧迫創傷の下肢骨折患者の特徴, 第9回大阪府看護学会, (大阪・オンライン)</p> <p>堀内あすか, 植田祥代, 谷口尚子, <u>カルデナス暁東</u> (6人中6番目) (2021). 化学療法をうけるがん患者へのアピアランスケアの実態と課題, 第9回大阪府看護学会, (大阪・オンライン)</p> <p>林桃花, 國料将志, 佐々木美登里, <u>カルデナス暁東</u> (4人中4番目) (2021). 手術室における術中体位に関連した医療機器関連機器圧迫創傷への対策, 第9回大阪府看護学会, (大阪・オンライン)</p> <p>遠藤暁美, 橋本良介, <u>カルデナス暁東</u> (2021). HCU入院の高齢患者への意思決定支援に関する看護師の困難感の内容と課題, 第9回大阪府看護学会, (大阪・オンライン)</p>
川北敬美	<p><u>Kawakita, T.</u>, Hosoda, Y. (2021). Development and psychometric validation of the Work-Family Enrichment Scale for Parenting Nurses, ICN Congress 2021, (Web)</p>
草野恵美子	<p><u>Kusano, E.</u>, Hatono, Y., Gouda, K. (2022). Characteristics of the Factors Related to Child-rearing Support Behavior in the Community among Senior University Students by Gender, 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing, 299, (Online).</p> <p>Yamano, F., <u>Kusano, E.</u> (2022). Ingenuity in facilitating reciprocal exchange of social support in activities captured by leaders of resident-led preventive care activities, 314, (Online).</p> <p>Naka, A., <u>Kusano, E.</u> (2022). Literature Review of Studies on the Relationship between Workers' Lifestyles and Work Engagement, 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing, 330, (Online).</p> <p>Nakayama, K., Hatono, Y., Gouda, K., <u>Kusano, E.</u> (4人中4番目) (2022). A study on empowerment of mothers who are cancer survivors with infants after cancer diagnosis, 6th International Conference of Global Network of</p>

	<p>Public Health Nursing, 293, (Online).</p> <p>青崎聖花, 石崎宵子, 草野恵美子 (2022). 保護者およびスタッフからの質的意見を重視した乳幼児発達相談強化事業の効果の検証, 第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会, 102, (オンライン).</p> <p>草野恵美子, 鳩野洋子, 合田加代子 (2021). シニア大学受講者における地域子育て支援への今後の参加意欲と関連要因の男女別特徴, 日本地域看護学会第 24 回学術集会, 115, (オンライン).</p> <p>草野恵美子, 鳩野洋子, 合田加代子 (2021). シニア大学受講者の障害児・家族に対する地域支援活動への関心とその関連要因, 第 68 回日本小児保健協会学術集会, (オンライン).</p>
寺口佐與子	<p>寺口佐與子, 徳川奉樹, 赤澤千春, 他 (2021). ウレタンスポンジ模型を用いたリンパ浮腫Ⅱ期の患者のリンパ浮腫評価の数値化の検討. 日本リンパ浮腫治療学会第 5 回回学術集会. Web 開催</p> <p>坪井茉莉, 赤澤千春, 寺口佐與子 (2021). 造血幹細胞移植術後の口腔の慢性GVHD における口腔健康管理の動向についての文献検討. 第 16 回日本移植・再生医療看護学会学術集会. Web 開催</p> <p>田中優希, 赤澤千春, 寺口佐與子 (2021). 成人生体肝移植レシピエントの自己管理行動に関するアセスメント及び看護介入の検討. 第 16 回日本移植・再生医療看護学会学術集会. Web 開催</p>
土肥美子	<p>土肥美子, 細田泰子, 勝山愛, 他 (2022). 教育指導者の被援助志向性と職場におけるソーシャルサポートの関連, 第 32 回日本医学看護学教育学会学術学会, (宇部, オンライン)</p> <p>細田泰子, 勝山愛, 北島洋子, 土肥美子 (7人中 7番目) (2022). 教育指導者が指導した看護学習者の臨床判断能力とその支援の必要性の検討, 第 32 回日本医学看護学教育学会学術学会, (宇部, オンライン)</p> <p>片山由加里, 北島洋子, 根岸まゆみ, 土肥美子 (8人中 6番目) (2022). ラサタ一臨床判断ルーブリック日本語版のレーターを対象とした活用に関する質的分析, 第 32 回日本医学看護学教育学会学術学会, (宇部, オンライン)</p> <p>Negishi, M., Katayama, Y., Kitajima, Y., Doi, Y. (8 人中 6 番目) (2021). Exploring the usefulness of the Lasater Clinical Judgment Rubric - Japanese Version, 第 41 回日本看護科学学会学術集会, (名古屋, オンライン)</p> <p>細田泰子, 根岸まゆみ, 土肥美子, 他 (2021). 教育指導者のバウンダリーレスな学びの効果と課題: 施設外学習に着目して, 第 41 回日本看護科学学会学術集会, (名古屋, オンライン)</p> <p>Negishi, M., Hosoda, Y., Nagano, Y., Doi, Y. (6 人中 6 番目) (2021). Effects and challenges of educational instructors' learning opportunities in a facility, International Council of Nurses 2021 Congress. (UAE, オンライン)</p>
仲下祐美子	<p>仲下祐美子 (2021). 看護学生への喫煙防止・禁煙教育プログラムの研究の質に関する文献レビュー, 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 363, (東京・ハイブリッド)</p> <p>Nakashita, Y. (2021). Interests and concerns about smoking cessation in</p>

	<p>heated tobacco product users and those who wish to use them in Japan, International Council of Nurses 2021 Congress, (Online meeting)</p> <p><u>Nakashita, Y.</u> (2021). Interests and Concerns about Heated Tobacco Products in Japan, 24th East Asian Forum of Nursing Scholars, Program Book, 38, (Online meeting)</p>
二宮早苗	<p><u>二宮早苗</u>, 内藤紀代子, 岡山久代, 他 (2021). 骨盤底筋群に作用する姿勢による尿失禁改善効果の検証:隨意収縮ができなくても骨盤底筋群を強化できる方法の確立に向けて. 第 9 回看護理工学会学術集会, (札幌 : オンライン開催)</p> <p>内藤紀代子, <u>二宮早苗</u>, 森川茂廣, 他 (2021). 骨盤底機能評価における骨盤底筋トレーニング装置 HnJ1000 の妥当性の検討. 第 9 回看護理工学会学術集会, (札幌 : オンライン開催)</p>
樋上容子	<p><u>樋上容子</u>, 樋口明里, 木佐知子, 他 (2021). 地域在住高齢者の睡眠障害に対する介入-文献レビュー, 日本老年看護学会第 26 回学術集会, P-46, (オンライン)</p> <p>久保里香, <u>樋上容子</u>, 久保田正和 (2021). 認知症専門外来における認知症診断後の患者・家族に対する看護師の支援の実態と役割に関する文献検討, 第 41 回日本看護科学学会学術集会, P11-31, (オンライン)</p> <p>吉田良平, <u>樋上容子</u>, 樋口明里, 他 (2021). 認知リハビリテーション実施時において遠隔環境下での看護師のかかわりが脳血流量に与える影響, 第 41 回日本看護科学学会学術集会, JS5-05, (オンライン)</p>
山崎 歩	<p><u>山崎歩</u> (2021). 1型糖尿病をもつ女性が未婚時から出産に至るなかで抱く困難に関する文献研究: 第 26 回日本糖尿病・教育看護学会学術集会, 101, (川崎・ハイブリッド)</p> <p>平本悠利, <u>山崎歩</u> (2021). 小児糖尿病キャンプの現状とキャンプの効果についての文献研究: 第 26 回日本糖尿病・教育看護学会学術集会, 105, (川崎・ハイブリッド)</p>
竹 明美	<p><u>Take, A.</u>, Chikazawa, S., Sasaki, A. (2021). Facilitating at-home learning of delivery assistance skills for midwifery students at Osaka medical college during the COVID-19 pandemic, 24th EAFONS, Philippine (online)</p> <p>Sasaki, A., <u>Take, A.</u>, Chikazawa, S. (2021). A Review of the Diagnosis and Treatment of Occiput Posterior Delivery, 32st ICM Triennial Congress, Bali(online)</p> <p><u>竹明美</u>, 近澤幸, 佐々木綾子 (2021). 新型コロナ感染拡大状況下における本学の助産学実習への対応と課題, 第 60 回大阪母性衛生学会学術集会, (online)</p> <p>近澤幸, <u>竹明美</u>, 佐々木綾子 (2021). 新型コロナウイルス感染症拡大下における乳幼児をもつ両親の育児環境の変化に対する意見の実態調査, 第 20 回日本ウーマンズヘルス学会学術集会, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 20 (1), 9-10, (online)</p> <p>佐々木綾子, 近澤幸, <u>竹明美</u> (2021). 新型コロナウイルス感染症が妊娠・出産・育児に及ぼす影響とニーズに関する文献検討, 第 41 回日本看護科学学会学術集会, (online)</p>

近澤 幸	<p>Sasaki, A., Take, A., <u>Chikazawa, S.</u> (2021). A Review of the Diagnosis and Treatment of Occiput Posterior Delivery, 32st ICM Triennial Congress, Bali(Online)</p> <p>Take, A., <u>Chikazawa, S.</u>, Sasaki, A. (2021) . Facilitating at-home learning of delivery assistance skills for midwifery students at Osaka medical college during the COVID-19 pandemic, 24<sup>th</sup> EAFONS, Philippine(Online)</p> <p><u>近澤幸</u>, 竹明美, 佐々木綾子 (2021). 新型コロナウイルス感染症拡大下における乳幼児をもつ両親の育児環境の変化に対する意見の実態調査, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 20 (1), 9-10, (オンライン)</p> <p>佐々木綾子, <u>近澤幸</u>, 竹明美 (2021). 新型コロナウイルス感染症が妊娠・出産・育児に及ぼす影響とニーズに関する文献検討, 第 41 回日本看護科学学会学術集会, (オンライン)</p> <p>竹明美, <u>近澤幸</u>, 佐々木綾子 (2021). 新型コロナ感染拡大状況下における本学の助産学実習への対応と課題, 第 60 回大阪母性衛生学会学術集会, 大阪 (online)</p>
赤崎 芙美	<p><u>赤崎芙美</u>, 細田泰子 (2021). 看護師のナレッジブローカリングの構成要素, 第 41 回日本看護科学学会学術集会, (オンライン)</p> <p>Negishi, M., Katayama, Y., Kitajima, Y., <u>Akasaki, F.</u>. (8 人中 5 番目) (2021). Exploring the usefulness of the Lasater Clinical Judgment Rubric—Japanese Version, 第 41 回日本看護科学学会学術集会, (オンライン)</p> <p>片山由加里, 北島洋子, 根岸まゆみ, <u>赤崎芙美</u> (6 人中 5 番目) (2022). ラサタ一臨床判断ルーブリック日本語版のレーターを対象とした活用に関する質的分析, 第 32 回日本医学看護学教育学会学術集会, 53, (オンライン)</p>
勝山あづさ	<p><u>Katsuyama, A.</u> (2021). Barriers to Multiprofessional Information Sharing for Early Mobilization in ICU, 24th East Asian Forum of Nursing Scholars, (Online meeting)</p> <p><u>Katsuyama, A.</u> (2021). Contents and Methods of Multi-professional Information Sharing for Safe Early Mobilization in ICU, International Council of Nurses 2021 Congress, (Online meeting)</p>
榎木佐知子	<p><u>榎木佐知子</u>, 真嶋由貴恵, 榎田聖子 (2021). 看護師の継続教育における e-ラーニングの効果と課題, 第 46 回教育システム情報学会全国大会 (オンライン)</p> <p><u>Somaki, S.</u>, Majima, Y., Masuda, S. (2021). Education Support System for Newcomer Nurses at Visiting Nursing Stations, EJEA Conference (オンライン)</p> <p><u>榎木佐知子</u>, 真嶋由貴恵, 榎田聖子 (2021) .日本における中途採用看護師に対する継続教育の課題, 第 41 回日本看護科学学会学術集会 (オンデマンド)</p>
土井智生	<p>鈴木久美, 山中政子, 南口陽子, <u>土井智生</u> (11 人中 10 番目) (2022). AYA を含む成人のがん啓発教育プログラムの内容とその成果 : 系統的文献レビュー, 第 36 回日本がん看護学会学術集会, 112, (横浜・ハイブリッド)</p>
山埜ふみ恵	<p><u>Yamano, F.</u>, Kusano, E. (2022). Ingenuity in facilitating reciprocal exchange of social support in activities captured by leaders of resident-led preventive</p>

	care activities: 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing (オンライン)
山本暁生	山田莞爾, 岩田健太郎, 吉村芳弘, <u>山本 暁生</u> (15人中9番目) (2021). 高齢肺炎入院患者の退院時ADLと退院後6ヵ月後再入院および死亡との関連性について, 第58回リハビリテーション医学会, (京都市・ハイブリッド)

研究活動/【その他】

佐々木綾子	<u>佐々木綾子</u> , 近澤幸, 竹明美 (2021). Web システム構築のための新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親を取り巻く育児環境の変化に及ぼす影響の実態調査, 同志社大学赤ちゃん学研究センター紀要, 5, 29-30.
安田稔人	<u>安田稔人</u> (2021). 症例から学ぶ足の痛み診療, Monthly Book Orthopaedics, 34 (12).
草野恵美子	岩本里織, 大木幸子, 滝沢寛子, <u>草野恵美子</u> (10人中8番目) (2022). ワークショッピ「公衆衛生看護技術について考えよう！」, 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会, 92, (オンライン). 岡本玲子, 小出恵子, 蔭山正子, <u>草野恵美子</u> (9人中6番目) (2022). ワークショッピ「地域の強みを高める公衆衛生看護技術～ポジティブヘルス推進に向けてワザゲット！～」, 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会, 94, (オンライン).
寺口佐與子	<u>寺口佐與子</u> (2021). リンパ浮腫予防期からの体重管理の意義. ショートレクチャー, 日本リンパ浮腫治療学会第5回回学術集会. Web 開催
土肥美子	片山由加里, 富安眞理, 根岸まゆみ, <u>土肥美子</u> (5人中4番目) (2022). 学生の臨床判断能力を伸ばすための手法と、臨床判断能力の育成に向けた到達目標, 看護展望, 47 (3), 17-23.
樋上容子	樋上容子. 睡眠障害と介護負担 (2021). Meiji 認知症に携わるすべての医療者のための情報誌, 34
竹 明美	佐々木綾子, 近澤幸, <u>竹明美</u> (2021). Web システム構築のための新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親を取り巻く育児環境の変化に及ぼす影響の実態調査, 同志社大学赤ちゃん学研究センター紀要, 5, 29-30.
近澤 幸	佐々木綾子, <u>近澤幸</u> , 竹明美 (2021). Web システム構築のための新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親を取り巻く育児環境の変化に及ぼす影響の実態調査, 同志社大学赤ちゃん学研究センター紀要, 5, 29-30.



## V. 社會活動

## 社会活動

赤澤千春	日本看護科学学会 評議員, 査読委員 日本看護研究学会 評議員, 査読委員 日本移植・再生医療看護学会 理事長
荒木孝治	大阪精神医療センター 治験審査委員会 外部委員 大阪精神医療センター 臨床研究倫理審査委員会 外部委員 日本看護研究学会 評議員 PAS セルフケアセラピイ看護学会 理事 PAS セルフケアセラピイ看護学会 学会誌編集・研究促進委員会 委員長 日本看護科学学会和文誌 専任査読委員 日本看護研究学会誌 専任査読委員 日本精神保健看護学会誌 専任査読委員
池西悦子	日本看護研究学会 評議員 日本看護学教育学会 評議員 日本看護研究学会誌 専任査読委員 日本看護学教育学会誌 専任査読委員 日本看護学教育学会 第31回学術集会査読委員 日本看護研究学会 第47回学術集会, 口述発表「教育2」, 座長, 2021.8.22. 愛知県実習指導者講習会 講師 大阪府看護学校協議会講演会 講師 京都府看護協会 保健師職能保健指導ミーティング 講師 京都私立病院協会 看護中間管理者研修I（主任コース）講師 愛仁会看護助産専門学校 臨地実習指導者講演会 講師 日本赤十字広島看護大学 摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程フォローアップ研修会 講師 岐阜県立看護大学看護学研究科「看護管理論」 非常勤講師 大阪医科大学病院看護部・看護学部実習委員会共催 FD 講師 大阪医科大学病院看護部主任会研修 講師
小林道太郎	臨床実践の現象学会 事務局・編集委員 日本看護倫理学会 査読委員 中部哲学会 常任委員・編集委員 2021年度第4回大阪府看護協会府北支部研修会「新型コロナ対策が看護実践現場に及ぼした倫理的問題と考え方」講師, 2022年3月19日.
久保田正和	高槻市介護認定審査会 委員 糖尿病スキルアップセミナー世話人 京都大学医学部人間健康科学科非常勤講師 はくほう会医療専門学校非常勤講師 認知症専門職人材育成プロジェクト委員会 高槻市地域包括ケア推進会議 委員

	<p>日本老年看護学会雑誌 査読委員      日本老年看護学会第 27 回学術集会 査読委員      大阪医科大学看護研究雑誌 査読委員      関西大学・大阪医科大学医工薬連環科学教育機構シンポジウム講師「心理・行動：看護学から見た人間理解」</p>
佐々木綾子	<p><b>【査読】</b>      大阪医科大学看護研究雑誌      日本母性看護学会誌      大阪医科大学医学会誌      日本母性看護学会  <b>【セミナー担当】</b>      福井愛育病院看護研究発表会講評, 2021.12.21      大阪府助産師会令和 3 年度 産後ケアエキスパート助産師認定講習会「脳科学からみた産後の母親の特徴と支援のあり方」, 2021.11.27      大阪府看護協会「後輩育成のための役割と知識 成人学習プロセスの実際」      2021.7.8      滋賀県助産師会 令和 3 年度産後ケア従事者研修会 オンライン研修「脳科学からみた産後の母親の特徴と支援のあり方」2021.12  <b>【その他】</b>      日本母性看護学会, 会計理事      一般社団法人日本私立看護系大学協会研究助成事業選考委員会      日本ウーマンズヘルス学会幹事      JST 創発的研究支援事業書類選考委嘱      第 24 回日本母性看護学会 企画委員      第 36 回日本助産学会学術集会 座長</p>
鈴木久美	<p>日本がん看護学会代議員・理事      日本がん看護学会将来構想推進委員会委員      日本看護科学学会代議員      日本慢性看護学会評議員      日本がん看護学会誌専任査読委員      日本看護科学学会誌和文誌専任査読委員      日本慢性看護学会誌専任査読委員      日本看護学会学術集会抄録選考委員      Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing peer reviewer      第 41 回日本看護科学学会学術集会, 口演座長, 2021 年 12 月 (オンライン)      第 36 回日本がん看護学会学術集会, 教育セミナ一座長, 2022 年 2 月 (横浜)      第 37 回日本がん看護学会学術集会企画委員会委員      愛知県立大学大学院非常勤講師      岐阜県立看護大学大学院非常勤講師</p>

	<p>乳がん看護認定看護師教育課程非常勤講師      がん化学療法看護認定看護師教育課程非常勤講師      公益財団法人日本看護協会神戸研修センター認定看護師教育課程教員会委員      認定看護師教育機関審査会ワーキンググループ構成員      令和3年度医道審議会保健師助産師看護師分科会 保健師助産師看護師国家試験      出題基準改定部会委員      一般社団法人日本看護学教育評価機構評価委員会委員      独立行政法人日本学術振興会 2021 年度科学研究費委員会専門委員      公益財団法人大阪対がん協会 2021 年度がん研究助成奨励金選考委員会委員</p>
竹村淳子	<p>日本家族看護学会誌 専任査読者      大阪医科大学看護研究雑誌 査読者      家族看護研究会の主催 定期開催運営（4月 15 日, 7月 5 日, 9月 6 日, 11月 24 日, 3月 15 日）      学士課程教育に関する研究会 定例会開催（4月 2 日, 7月 23 日, 9月 23 日, 1月 10 日, 3月 11 日）      看保連ワーキング（障がい児プロジェクト）研究会 定例会開催（7月 10 日, 8月 4 日, 8月 15 日, 12月 26 日, 2月 23 日）      愛仁会看護助産専門学校 「小児看護学概論」講義      第 24 回日本母性看護学会学術集会 企画委員      日本家族看護学会第 29 回学術集会 査読委員</p>
田中克子	<p>シンメディカル糖尿病セミナー世話人      岐阜県立看護大学大学院非常勤講師      日本看護協会抄録選考委員</p>
津田泰宏	<p>日本内科学会認定内科医 総合内科専門医 指導医      日本消化器病学会専門医 近畿支部評議員 指導医      日本肝臓学会認定専門医 西部会評議委員 指導医      米国免疫学会会員      米国肝臓学会会員      京都橘大学 健康科学部 「臨床病態学」 非常勤講師      大阪保健医療大学 「内科学」 「臨床検査医学」 非常勤講師</p>
土手友太郎	<p>高槻市役所産業医      健康たかつき 21 推進ネットワーク会議委員      高槻市ぱちんこ遊技場建築審議会委員      高槻市ホテル等建築審議会委員      高槻市都市開発審議会委員厚生労働省医員（大阪検疫所）      日本職業災害医学会 評議員      日本衛生学会 評議員</p>
真継和子	<p>日本看護研究学会近畿・北陸地方会 世話人      日本看護研究学会近畿・北陸地方会 広報委員会</p>

	<p>日本家族看護学会 専任査読委員</p> <p>日本看護学教育学会 専任査読委員</p> <p>ヒューマンケア研究学会誌 専任査読委員</p> <p>園田学園女子大学論文集 外部査読委員</p> <p>第 24 回日本母性看護学会学術集会 企画委員</p> <p>和歌山県立医科大学大学院看護学研究科「家族看護学」非常勤講師</p> <p>四條畷学園大学看護学部「家族看護学」非常勤講師</p> <p>大阪府看護協会教員養成講習会「看護論演習」講師</p> <p>京都私立病院協会 看護中間管理者研修 I (主任コース)「看護倫理」講師</p> <p>社会医療法人西陣健康会堀川病院看護部研修「看護管理と倫理」講師</p> <p>社会医療法人愛仁会高槻病院看護部「看護研究」研究指導</p> <p>三島ブロック訪問看護ステーション事例発表会 講師</p>
安田稔人	<p>American Academy of Orthopaedic Surgeons (AAOS) international member,</p> <p>American Orthopaedic Foot and Ankle Society (AOFAS) international member, Editorial Board Member of Journal of Orthopaedic Science</p> <p>日本整形外科学会専門医資格委員会委員長</p> <p>日本足の外科学会理事</p> <p>日本整形外科スポーツ医学会代議員</p> <p>日本靴医学会評議員</p> <p>中部日本整形外科災害外科学会評議員</p> <p>関西臨床スポーツ医・科学研究会幹事</p> <p>関西関節鏡・膝研究会幹事</p> <p>近畿足の外科症例検討会世話人</p> <p>アキレス腱断裂診療ガイドライン策定委員</p> <p>日本整形外科学会整形外科専門医</p> <p>スポーツ医</p> <p>リウマチ医</p> <p>運動器リハビリテーション医</p> <p>日本リウマチ学会リウマチ専門医</p> <p>日本スポーツ協会公認スポーツドクター</p> <p>【座長】</p> <p>第 46 回日本足の外科学会学術集会, シンポジウム 4 積極的保存療法について学ぶ ~保存療法の達人を目指せ!~</p> <p>第 35 回日本靴医学会, シンポジウム 4 変わらないスポーツ靴 変わるスポーツ靴</p> <p>第 36 回日本整形外科学会基礎学術集会, 一般演題ポスター 足 1</p>
吉田久美子	<p>日本看護医療学会評議委員</p> <p>日本看護医療学会査読委員</p> <p>滋賀県彦根市要保護児童対策協議会 副会長</p> <p>滋賀県近江八幡市要保護児童対策協議会 会長</p>

	<p>滋賀県おうみはちまん健やか親子 21 計画推進委員会 委員長</p> <p>社団法人大阪府看護協会保健師職能委員</p> <p>滋賀県彦根市健康推進課 保健師研修会 スーパーバイザー</p> <p>2021 年度 彦根市要保護児童対策協議会代表者会議</p> <p>2021 年度 近江八幡市要保護児童対策協議会代表者会議</p>
瓜崎貴雄	<p>日本精神科看護協会大阪府支部 看護研究発表会 評価（査読）委員</p> <p>大阪府看護協会 クリティカルケア認定看護師教育課程「患者及び家族の心理・社会的アセスメント」 非常勤講師</p>
カルデナス 暁東	<p>日本慢性看護学会 査読委員</p> <p>市立柏原病院看護研究 講師（2021.4～2022.2）</p> <p>留日中国人生命科学協会 理事</p> <p>シンメディカル糖尿病セミナー 世話人（2021.11.20）</p>
川北敬美	<p>日本看護科学学会和文誌 専任査読委員</p> <p>大阪医科大学看護研究雑誌 査読者</p> <p>甲南女子大学看護リハビリテーション学部「看護管理学」非常勤講師</p>
草野恵美子	<p>日本地域看護学会「日本地域看護学会誌」査読委員</p> <p>日本公衆衛生看護学会「日本公衆衛生看護学会誌」査読委員</p> <p>日本小児保健協会「小児保健研究」査読委員</p> <p>日本在宅ケア学会「日本在宅ケア学会誌」査読委員</p> <p>第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会・6th Global Network of Public Health Nursing 企画委員</p> <p>若手による小児保健検討委員会委員</p> <p>日本地域看護学会教育委員会委員</p> <p>全国保健師教育機関協議会教育課程委員</p> <p>公益社団法人日本小児保健協会令和 3 年度公益事業第 6 回多職種のための乳幼児健診講習会、講師、「乳幼児健診の基本とエキスパート保健師の技にみる保健指導のコツ」、オンライン（2021 年 10 月 17 日）</p> <p>藍野大学、「グループ支援・地域組織化活動・ソーシャルキャピタル」、特別講師、（2021 年 5 月 10 日、6 月 21 日）</p> <p>大阪市鶴見区保健福祉センター、研究指導協力</p> <p>大阪市中央区保健福祉センター、研究指導協力</p> <p>大阪市阿倍野区保健福祉センター、研究指導協力</p> <p>奈良県中和保健所妊娠・出産・育児のための地域包括ケアシステムづくり保健所・市町村協働プロジェクト、アドバイザー</p> <p>高槻市会計年度任用職員（新型コロナウイルス感染症対応における保健所の体制強化に係る教員等の保健所への応援派遣）</p>
寺口佐與子	<p>一般社団法人 日本看護系大学協議会会員校 関西・近畿ブロック災害連携教員</p> <p>日本移植・再生医療看護学会 会計理事 評議員 事務局</p> <p>同 査読委員</p>

	日本リンパ浮腫治療学会 評議員 第 16 回日本移植・再生医療看護学会学術集会 企画委員 第 16 回日本移植・再生医療看護学会学術集会 査読委員
土肥美子	日本看護科学学会和文誌専任査読委員 大阪医科大学看護研究雑誌査読委員
仲下祐美子	大阪府開発審査会委員 大阪府看護協会府北支部推薦委員 大阪市開発審査会委員 大阪市介護認定審査会委員 高槻市会計年度任用職員(新型コロナウイルス感染症対応における保健所の体制強化に係る教員等の保健所への応援派遣)
二宮早苗	看護理工学会 評議員, 広報委員 看護理工学会「看護理工学会誌」 査読委員 滋賀医科大学看護学科 「基礎看護技術演習Ⅲ」 非常勤講師
樋上容子	大阪大学大学院医学系研究科 招聘教員 放送大学 非常勤講師 日本老年看護学会 日本老年看護学雑誌 査読委員 日本老年看護学会第 27 回学術集会 査読委員 日本老年医学会 日本老年医学会雑誌 査読者 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing／ 第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会 査読者 The Japan Centre for Evidence Based Practice 委員
山崎 歩	大阪くるみの会世話人 2021 年大阪くるみの会主催 オンライン家族会・勉強会 企画運営
佐野かおり	日本運動器看護学会研究プロジェクト委員 日本看護研究学会近畿・北陸地方会広報委員
竹 明美	第 24 回 日本母性看護学会学術集会 事務局運営 ナーシングタッチ研究会 発起人・研究会運営
近澤 幸	第 24 回 日本母性看護学会学術集会 事務局運営
大橋尚弘	一般社団法人日本腎不全看護学会 CKD 委員会 腎移植ケアガイド作成サブワーキングメンバー 一般社団法人日本腎不全看護学会 CKD 委員会 委員 一般社団法人日本腎不全看護学会 研究委員会 委員 一般社団法人日本腎不全看護学会 専任査読者
倉橋理香	家族看護研究会の主催 定期開催運営(2か月に1回) 学士課程教育に関する研究会 定例会開催
榎木佐知子	教育システム情報学会 (JSiSE) 査読者 医療系 e-ラーニング全国交流会 (JMeL) 世話人
山本暁生	大阪府看護協会 府北支部 役員 (保健師職能)

	しあわせの村発達障がい児支援専門委員会委員（2021年8月～） 統計学 姫路ハーベスト医療福祉専門学校 非常勤講師 高槻市保健所 非常勤職員（2021.8~9）
--	--

## VI. 地域・社会貢献

## 地域・社会貢献

赤澤千春	大阪医科大学病院形成外科外来 リンパ浮腫看護外来 医仁会武田総合病院 特定行為にかかる看護師の研修制度 外部委員 四条畷学園大学看護学部 FD 研修講師
池西悦子	大阪医療看護専門学校教育課程編成委員会 委員
久保田正和	認知症を理解し地域で支える会 協力会員 医工薬連環科学プロジェクト委員会 委員
佐々木綾子	高槻地区周産期地域連携の会での活動（事務局）
鈴木久美	乳房健康研究会理事 大阪 QOL の会（患者会）世話人 なにわ乳がんを考える会世話人 ピンクリボンアドバイザーアニュアルミーティング 2021, 口演座長, 2021 年 9 月（オンライン） 南江堂月刊誌「がん看護」アドバイザー
竹村淳子	新型コロナワクチン接種 ボランティア
津田泰宏	看護学系漢方教育研究会 世話人
真継和子	在宅看護研究会 主催 大阪医科大学家族看護研究会 小児看護学領域と共に 倫理事例検討会（看護学研究科修了生主催）アドバイザー 健康支援活動あいあいサロン ウエルシア株式会社と共に
安田稔人	第 30 回関西臨床スポーツ医・科学研究会会长 アキレス腱断裂の治療 —さらなる成績向上を目指して—, 2022 年 1 月 8 日, 大阪医科大学整形外科学教室同門会特別講演会 2021 年 9 月 17 日読売新聞朝刊 13 面 トピックス（他施設のアキレス腱の研究 に対するコメント）
瓜崎貴雄	大阪府看護協会 新型コロナウィルスワクチン接種業務
カルデナス 暁東	第 16 回関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 3 大学医工薬連環科学シンポジウム 多職種連携教育の新たな展開 「看護学部における多職種連携教育について」（2021.1.30） 高槻市健康福祉部 認知症予防講座 「カラーセラピーで認知症予防」（2021.11.4）（2022.1.20）
川北敬美	大阪府看護協会新型コロナウィルスワクチン接種対応看護師
寺口佐與子	リンパ浮腫 Net 副代表 リンパ浮腫 Net リンパ浮腫看護外来グループ 世話役 第 6 回 リンパ浮腫 Net 大阪地区会 世話役（2021.11.27 Web 開催） 第 5 回 リンパ浮腫 Net 奈良地区会 世話役（2022.1.29 Web 開催） 大阪府看護協会ワクチン接種支援（6-7 月）
土肥美子	大阪医科大学病院新型コロナワクチン職域接種業務（8 月, 10 月）
二宮早苗	新型コロナウィルス感染症ワクチン接種業務, 大阪府看護協会

樋上容子	認知症ケアについて. ななーる訪問看護ステーション定期勉強会. 2021年8月 27日
山崎 歩	日本糖尿病教育・看護学会編集委員会専任査読者
佐野かおり	大阪府看護協会 ワクチン接種業務
近澤 幸	高槻地区周産期地域連携の会
赤崎芙美	大阪府看護協会、大阪医科大学職域ワクチン接種業務
大橋尚弘	大阪府看護協会 ワクチン接種業務 7~9月および2月 大阪医科大学病院における職域ワクチン接種業務 7月
勝山あづさ	新型コロナワクチン接種業務
倉橋理香	日本看護協会から依頼のコロナ予防接種
山内彩香	大阪府看護協会 新型コロナワクチン接種業務
山埜ふみ恵	新型コロナウイルス感染症対応高槻市保健所応援派遣
山本暁生	誰かに言いたい思いをシェアー：仲間によるサポート，発達支援モデル教室すま いる・ぱっとらく講習会（2021.7.10） 子どもの運動の苦手を考える. のびのび運動広場講演会（2021.12.26） 極低出生体重児と保護者のための子育て教室. ボランティア（2021.4月～）



## VII. その他

その他

佐々木綾子	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ももの会」運営 大阪医科大学大学院看護学研究科 母性看護学領域修了生の会「サクラの会」運営
竹村淳子	CNS 認定試験勉強会（3月 29 日）
安田稔人	整形外科（足の外科）専門外来（大阪医科大学病院）
カルデナス 暁東	大阪医科大学病院 「マイクセラピー看護外来」担当
草野恵美子	公衆衛生看護技術開発研究会 世話人
寺口佐與子	大阪医科大学病院 リンパ浮腫看護外来従事
竹 明美	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ももの会」 大阪医科大学大学院看護学研究科 母性看護学領域修了生の会「サクラの会」
近澤 幸	大阪医科大学助産師卒業生の会「花ももの会」 大阪医科大学大学院看護学研究科 母性看護学領域修了生の会「サクラの会」
赤崎芙美	大阪府立大学 看護学系同窓会（白鳥会）会計
倉橋理香	「つながろう難病キャンプ in 関西」WEB キャンプ 1日交流会

## 編集後記

大阪医科大学看護学部は 2010 年 4 月の当学部および 2014 年 4 月の大学院科の開設を経て、教育研究活動および地域貢献に尽力して参りました。さらなる発展のため 2021 年 4 月より大阪医科大学は大阪薬科大学と統合し、医学部・薬学部・看護学部を有する医療系総合大学として大阪医科大学となりました。したがって大阪医科大学看護学部の年報は 2011 年から 2020 年度までの 10 号が発行されておりますが、2021 年度は「大阪医科大学看護学部・大阪医科大学学院看護学研究科の年報」の初号として発刊することとなりました。一昨年来、コロナ禍による教育と研究活動への悪影響に負けない、多くの取り組みや教育研究活動および地域や社会における様々な活動の内容を PDCA に沿って報告しています。今後の活動や自己点検等に役立てていただけましたら幸いです。最後に、年報作成にご協力いただきました教員を初め、関係者各位の皆様に深くお礼を申し上げます。

大阪医科大学看護学部 年報編集委員会

大阪医科大学看護学部・大阪医科大学大学院看護学研究科  
2021年度年報

---

発行日 令和4年7月31日

発 行 大阪医科大学看護学部・大阪医科大学大学院看護学研究科  
〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町7-6

編 集 看護学部 年報編集委員会  
土手友太郎 荒木孝治 赤崎美美 土井智生

制 作 知人社

